

昭和11年1月(13)日 在濟南西田總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

747

鉄道材料購入等において日本を排斥せず膠濟

鉄道延長線など山東經濟開発に必要な鐵道整備を急ぐよう張公權鐵道部長を説示について

濟南 発

本省 1月13日前着

(第二號(極秘級))

九日張公權青島ヨリ歸寧ノ途次來濟本官ヲ來訪セル際ノ會

談要領御参考迄左ノ通

(一) 張ヨリ自分カ鐵道部長就任ニハ當初固辭セルモ蔣介石ヨリ蔣自身行政院長トナリ日支交渉ノ矢面ニ立ツノ覺悟ヲ示シ是非共自分等日本通ニテ國民黨外ノモノノ出馬方懇請アリタルニ付遂ニ引受クルコトトナリタルカ日支關係及華北問題ニ付貴官ノ腹藏ナキ意見ヲ承知シ度シト述べタルニ付本官ヨリ友人トシテ率(直)ニ卑見ヲ述ヘンカ蔣介石ハ立場上種々ノ困難モアランカ從來ノ遣方ハ主トシ

堪ヘスト述ヘタルニ

(二) 張ハ今回ハ愈政府モ本腰トナリ自分トシテモ何レ種々反對派ノ攻撃モアランカ聲ヲ大ニスルヨリモ實行ニ重キヲ置キ且ツ鐵道ニ關シテハ合理的ノ措置ヲ圖ルヘク今日迄日本側ニテ種々非難アリタル點ニ付テハ出來ル丈ヶ是正ヲ加ヘ日支ノ提携ヲ主眼トシ進ミ行キ度キ考ナルカ若シ日本側ニ於テ右合理的ノ措置ニモ應セサレハ致方ナク自分カ辭職スルノ外ナキ次第ナリ右ハ獨リ鐵道ノミニ限ラス全般ニ亘リ同様ニテ若シ之カ不可トナラハ支那ヲシテ

利害得失ヲ顧ミス燒糞ノ態度ニ出ツルノ外ナキ立場ニ追込ム結果トナルヘク斯ル窮地ニ至ラサル様自分等モ出來得ル限リノ努力ヲ致度キ考ナリト述ヘ

(三) 次テ本官ヨリ今次貴官ノ鐵道視察ハ實情ヲ見必要ナル措

置ヲ執ラル上ニ誠ニ好都合ニテ手近ノ例ニテ膠濟鐵道ノ物資購入及鐵橋工事入札ノ如キコト更ニ日貨乃至日本商人ヲ排斥セントスルカ如キ措置往々ニシテアリ又濟順、膠徐兩鐵道ノ如キモ山東還附以來遷延十三年ニ及ヒ未タ何等ノ計畫ナク他方山東省政府ヨリ濟南、東昌間ノ鐵道敷設ノ具體案ヲ具シ鐵道部ニ商議シタルニモ拘ラス意味ナキ國防トカ或ハ關係鐵路局ヨリノ反對乃至ハ幹線敷設ヲ急トスル等ノ理由ニテ不問ニ附シ却テ道清鐵道延長ノ如キ中央自ラ考慮シ居ルハ不都合ニテ獨リ斯ル山東開發ニ必要ナル鐵道線ヲ棄テ顧ミサルハ中央ニ誠意ナキ實證ト認メラレ誠ニ遺憾ナリ更ニ博山輕鐵買收問題ノ如キモ仲々埒明カスル案件ハ山東經濟發展上最先ニ解決ヲ要スヘキモノニテ又日支關係是正ノ上ニモ貴官ノ所謂合理的措置ヲ必要トルコト之ヨリ急ナルハナカルヘント述ヘタルニ

(四) 張ハ御指摘ノ諸點ニ付テハ自分ノ職責上速ニ合理的措置ヲ講シ度ク延長線問題ハ改メテ關係當局ト商議ノ考ナリ博山輕鐵ニ付テハ自分ノ聞込ニテハ輕鐵側ハ五、六十萬元ニテ可ナリト言ヒ居ルヤノ趣ナルカ鐵道部ノ調查ト關係方面ヨリノ上申ニ基キ速ニ措置シ度キ考ナリト答ヘタルニ付本官ヨリ輕鐵價格ハ銀價昂騰當時膠濟路側ハ八十萬元ト見積リ居リ輕鐵ト關係アル中日側ニテハ百萬元位迄充補ノ意嚮アリタル程ニテ今更五、六十萬元ヲ云々スル筈無カルヘク假令八十萬元トスルモ銀價下落ノ今日中日側ニテハ俄ニ同意シ難カルヘシト述ヘタルニ張ハ兎ニ角八十萬元以上ハ出セサルヘシト答ヘ居タリ

(五) 尚同日本官答訪ノ際蔣介石ノ對共產黨妥協說及抗日武裝準備說等ニ言及シタルニ張ハ前者ハ全ク事實無根ニシテ現ニ過般自分モ同席ノ中央幹部會議ノ際ニモ蔣ハ共產黨ハ飽迄モ剿滅ヲ期スヘキ旨述ヘタルニ徵スルモ明カナリ又後者ニ付テハ軍隊整理ノコトアランモ抗日ノ準備トハ考ヘラレサル次第ナリト述ヘタリ

支、北平、天津、青島、南京、漢口、廣東へ轉電セリ

テ歐米依存ニテ殊ニ銀國有ノ幣制改革令ノ如キ日本側ニテハ非難ノ聲高ク今回日本關係者ヲ重用セルハ結構ナルモ或ハ從來ノ如ク單ナル利用策ニ出テ不要トナレハ何日ニテモ突ツ放サルニアラスヤトノ疑念アリ又對日關係ニ重キヲ置クカ如ク見セ掛ケテ適當ナル時期迄ノ一種ノ遷延策ト見ル向モアリ將又華北問題ニ付テハ現地ノ情勢ヲ充分認識セラレ共產軍ノ跳梁ヲ未然ニ防止スル要アルニ付中央トシテハ餘程思切ツテ一般施政ヲ華北各省當局ニ任ス態度ニ出ツル要アルヘキニ付折角樞機ニ參畫セラルル貴官等ノ御努力ニ依リ其ノ實効ヲ舉ケンコト期待ニ堪ヘスト述ヘタルニ

鉄道部の膠濟鉄道国庫証券償還方針などに關する葛光廷膠濟鉄路管理委員会委員長の内話について

第五號(極秘)

葛光廷ハ張公權ヲ濟南迄見送リタルカ十三日來訪シ

一、客年殷同渡日ノ際大藏省側ニ於テ國庫證券四千萬圓ノ償還ヲ歲入豫算ニ計上シ居ル旨情報ヲ得最近之ヲ張ニ話シタル爲張部長ヨリ償還問題研究及右ニ付日本側ノ意嚮確メ方命セラレタル處張ハ膠濟線ニ於テ明後年二月迄ニ積立テ得ル一千萬圓(現在高六百萬圓)ノ外鐵道部ヨリ別途一千萬圓ヲ支出シ計二千萬圓ヲ償還シ殘額ハ十年乃至十五年延長シ度キ意嚮ナリ自分トシテハ一部償還モ爲サス積立金ハ延長線其ノ他懸案解決ニ投資シ度キ考モアルモ折衝以來十數年ヲ經タルニ拘ラス何等償還ヲ爲ササルニ於テハ國民ニ對シ面目立タサルヲ以テ鐵道部ヨリノ別途

支出ハ兎ニ角トシ積立金ハ償還ニ充テサルヲ得サル羽目ニアリ尙年末赴寧ノ際外交部長ヨリモ本件善後措置ノ爲其ノ中外交部ヨリ係官ヲ派遣シ外務省側ト協議セシメ度キ意嚮ナル旨内話ノ次第モアリ旁前記鐵道部長案等本件ニ關スル外務省側ノ意嚮承知致度シト申出アリタルヲ以テ本年度豫算ニ計上云々ハ何レ間違ナルヘキモ支那ニ於テ全額償還ノ義務アルハ御承知ノ通ナリ但シ本件ハ性急ノ問題ニモアラサルヲ以テ本官近ク歸朝ノ上貴意ノ次第ハ詳細本省ニ報告スヘキ旨ヲ答へ尙償還問題ハ言ハハ後始末ノ話ナルカ膠濟鐵路局トシテハ奥地開發ノ使命完成ヲ取急クコト曰支關係改善ノ爲積極的ニ效果ヲ舉クル所以ナル旨ヲ説キ

二、延長線問題ノ現狀ニ付質シタル處葛ハ右ニ付テハ既ニ張部長ノ承認ヲ得省政府ト合辦ノ上本年中ニ濟南、東昌間百四十粧ヲ敷設スル計畫ナリ敷地ノ徵發及土工等ハ省政府ニ於テ負責處辦シ鐵路側ヨリハ古「レール」、橋梁材料等ヲ供給スル外工事及材料費三百萬元ヲ負擔スル筈ナリト語レリ

三、尙博山輕鐵ノ件ニ付鐵道部長ノ承認ヲ得タルヲ以テ近ク

鮑債權團代表ト買收價格ニ付折衝スル積リニシテ部長ハ

結局六十萬元迄ハ出ス内意アルモノト見受ケラルモ之

レ以上ハ到底見込無カルヘシ買收後ハ廣軌ニ改良スル爲ヨリ流用支出ノ考ナル旨語レリ

四、目下膠濟線貨車不足ニ惱ミ居リ日支商人間ニ應急策トシテ北寧線貨車ノ一時流用方問題トナリ居ルヲ以テ寧口新規購入方ニ付話シタル處葛ハ延長線及博山線改良實現ノ上ハ愈貨車不足トナルヘキニ付本年中ニ相當數ノ新車購入ヲ爲ス手筈ナル旨ヲ答ヘタリ
支、北平、天津、濟南、南京へ轉電セリ

749 昭和11年1月23日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

鉄道建設公債一億二千萬元の發行計畫は膠濟

鉄道延長や滄石鉄道敷設を主たる目的とする

旨張公權より通報について

天 津 1月23日前發
本 省 1月23日前着

華昌公司問題、我方トノ合作方法乃至滄石線ノ「ゲーデ」問題等同人ニテハ承知スルコト能ハサリシモ先般北上セル張公權ノ話振ニモ徵シ本件ハ相當實現性アルヤニ想像サレ至急對策決定ノ要アルヘキニ付眞相具體案等張部長ヨリ御聽取願度シ

大臣、支、北平へ轉電セリ

~~~~~

750 昭和11年1月27日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

一億二千萬元公債による鉄道建設に対し日本  
は材料供給借款等の実際的方法で参加あるよ  
う吳鼎昌提議について

南京 1月27日夜発  
本省 1月27日夜着

第六一號

往電第三二號竝ニ天津發本官宛電報第一號ニ關シ

二十七日吳鼎昌ハ本官ニ對シ未タ發表ハ爲シ居ラサルモ膠濟線ハ順德迄、平綏線ハ包頭以西迄又止太線モ相當延長シ滄石線ヲモ敷設スルコトニ内定シ各關係鐵路局ヲシテ鐵道道

出テタルモ右ヲ押切リ一切ノ責任ヲ自分ニ負ヒテ引受クルコトトシ承諾セシメタル次第ニテ向フ三箇年間毎年四千萬元宛發行ノ豫定ナリ  
三、先般北上ノ際天津、濟南、青島ニ於テ日本側官憲(膠濟線車務處長トモ)ト意見ヲ交換シタルカ何レモ權利關係ハ兎モ角トシ沿線ニ於ケル經濟開發ノ見地ヨリ膠濟、平綏、正太ノ各鐵道延長ヲ希望セラレ居ルヤニ見受ケラレタルヲ以テ自分ハ重大決意ヲ以テ本件公債ノ發行計畫ヲ樹テタル次第ニテ殊ニ南方側ノ反對ヲ抑ヘテ北方ニ於ケル延長ノミ計畫シタル點等自分カ如何ニ日本側ノ意嚮ニ重キヲ置ケルカ御諒察アリ度シト述ヘタリ  
三、依テ本官ヨリ各地我方官憲ノ意見ハ何レトモアレ我方トシテハ滄石及膠濟ニ關スル既得ノ權利ヲ主張セサルヲ得スト述ヘタルニ  
<sup>(2)</sup>張ハ其ノ點ハ能ク承知シ居レリ滄石ニ付テハ佛國側トノ契約ハ全部取消スコトニ決定シ全クノ白紙ニテ建設ニ取掛カル次第ナルカ日本側從來ノ御主張モアリ材料購入ニ付テハ日本ニ優先權ヲ與フルコトヲ茲ニ誓約スルモ可ナリ又膠濟ニ付テハ差當リ臨清若ハ聊城迄ノ延長方同鐵路

部指導ノ下ニ實施セシムル筈ナル處日本ハ北方ニハ外國側ニテ手出シヲスルモノモ無キ譯ナレハ權利關係等ヲ表立テス借款ヲ以テ材料ヲ供給スル等ノ實際的方法ニ依リ右建設ニ參加セラルコト然ルヘク張部長(目下不在)ト右趣旨ニテ御相談アリ度シト述ヘ居タリ

支、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

~~~~~

751 昭和11年2月1日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本側意向に重きを置いて鉄道建設公債を立案した旨を張公權が説明し材料購入では日本側に優先権を与えると言明について

南京 2月1日夜発
本省 2月1日夜着

第八二號(極秘)
往電第六一號ニ關シ

本一日張公權トノ會談要領左ノ通
一、張ヨリ一億二千萬元ノ公債發行ニ付テハ孔祥熙ニ於テ猛烈ニ反対セルノミナラス交通部、實業部方面ヨリモ反対

四、右ニ對シ本官ヨリ日本ヨリノ材料買入ハ結構ナルモ少クトモ滄石及膠濟ノ延長ハ日本側ノ資本ノミニテ建設スルコト必要ナリト(念ヲ)押セルニ張ハ斯テハ自分ニ於テ部長辭職ノ外無シト答ヘタルニ付本官ヨリ更ニ根本ハ只今述ヘタル通ナルカ何レ具体案ヲ用意シ改メテ相談スヘシト述ヘ張ハ右ヲ了承セリ
五、就テハ右一應御研究ノ上何分ノ儀御回電アリ度シ

支、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

~~~~~

752

昭和11年2月14日 在南京須磨總領事より

広田外務大臣宛(電報)

滄石鉄道敷設および膠濟鉄道延長については  
日本側権利を尊重するよう吳鼎昌へ注意喚起

について

南京 2月14日夜発  
本省 2月14日夜着

第一三五號

(1) 往電第六一號及第八二號ニ關シ

十四日吳鼎昌ハ本官ニ對シ張公權ニ於テ貴官ヨリノ申出ヲ待チ居ル模様ナリトテ本官ノ意見ヲ求メタルニ依リ滄石及膠濟ニ付テハ日本側當然ノ権利ヲ主張セサルヲ得スト述ヘタルニ吳ハ斯テハ全部水泡ニ歸スヘク現ニ滄石ニ付テハ佛國側ノ同様ノ権利モ浮ヒ出シ數蛇トナル惧アリ又膠濟線延長ハ同鐵道局保有ノ材料ト其ノ保有ノ積立金六百萬元ヲ流用シテ急速工事ニ着手シ右延長線ヲ同鐵路局ニ擔保トシテ提供スルコトトセハ間接乍ラ

日本側ノ擔保權カ延長セラル譯故右方法ニ依ルコトトシテハ如何ト繰返シ述ヘタルニ對シ本官ヨリ何レ張トモ更ニ

753 昭和11年2月15日 在中国若杉臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

一億二千萬元鉄道建設公債の実現性に関する

中國銀行關係者の觀測報告

付記 昭和十一年二月十九日付、守島(伍郎)東亜局

第一課長作成

「北支鐵道問題ニ關スル守島私見」

支、天津、青島、濟南へ轉電セリ  
支、天津、青島、濟南へ轉電セリ

置キタリ

現在アル鐵道剩餘金及今後三年間ニ生スヘキ剩餘金ヲ擔保ニ提供スルコトトシ銀行家方面ト話略經マリタルヤノ趣ナリ

(2) 尚滿鐵側ニ本件公債ハ主トシテ四川方面ノ鐵道ニ用ヒラレ英國側カ關係シ居レリトノ情報アリ冒頭電ニ依ルモ四川方面ノ鐵道建設ニモ用ヒラルコトハ明カニシテ四川方面ニ對スル英佛等ノ策動ノ經緯ヨリスルモ支那側カ我方ニ對スルト類似ノ申出ヲ英國側ニ爲シ居ルコトモ考ヘラレサルニハアラス

何レモ確メ中ナルモ何等御参考迄  
南京、北平、天津、濟南、青島へ轉電セリ

現在アル鐵道剩餘金及今後三年間ニ生スヘキ剩餘金ヲ擔保ニ提供スルコトトシ銀行家方面ト話略經マリタルヤノ趣ナリ

(3) 尚滿鐵側ニ本件公債ハ主トシテ四川方面ノ鐵道ニ用ヒラレ英國側カ關係シ居レリトノ情報アリ冒頭電ニ依ルモ四川方面ノ鐵道建設ニモ用ヒラルコトハ明カニシテ四川方面ニ對スル英佛等ノ策動ノ經緒ヨリスルモ支那側カ我方ニ對スルト類似ノ申出ヲ英國側ニ爲シ居ルコトモ考ヘラレサルニハアラス

何レモ確メ中ナルモ何等御参考迄  
南京、北平、天津、濟南、青島へ轉電セリ

(付記)

北支鐵道問題ニ關スル守島私見

(昭和十一年二月十九日附)

化シ得ル限り)銀行券ヲ印刷シテ政府ニ渡シ公債ヲ引受  
クレハ相當ニ有利ナル利廻ヲ得ラル譯ナルヲ以テ前記  
(-)ノ情報ハ一應尤ナルヤニ考ヘラル  
(-)來滬中ノ須磨南京ニテ吳鼎昌ヨリ聞キタル所ニ依レハ本件公債ハ銀行方面ニ話ヲ着ケサリシ爲暇取リタルカ漸ク

ルコト困難ナルヘシトノコトナリ  
三銀行ハ發券準備率ニ餘裕アル限り(又ハ準備率ヲ胡魔化シ得ル限り)銀行券ヲ印刷シテ政府ニ渡シ公債ヲ引受  
クレハ相當ニ有利ナル利廻ヲ得ラル譯ナルヲ以テ前記  
(-)ノ情報ハ一應尤ナルヤニ考ヘラル  
(-)來滬中ノ須磨南京ニテ吳鼎昌ヨリ聞キタル所ニ依レハ本件公債ハ銀行方面ニ話ヲ着ケサリシ爲暇取リタルカ漸ク

話合ノ筈ナルカ如何ニモ日本ハ鐵道サヘ出來レハ権利ハ問  
ハスト云フカ如キ考ハ甚シキ曲解ト云フヘク到底考慮シ得  
サル所ナリト應酬シタルニ吳ハ右様ノ心組ニテハ日支合作  
モ覺束無ク既ニ自分等ヲモ親日派ナリトテ種々脅迫ケ間敷  
キ運動ノ氣配アル此ノ際何モ手出シ得サルコトトナルヘシ  
ト述ヘタルニ付本官ヨリ新政府ハ實力ヲ有シ乍ラ去ル十二  
日中央宣傳委員會ヨリノ宣言等モ學生運動等ヲ抑ヘ得ル如  
ク見セテ蔭ニ之ヲ煽動シ居ル有様ニテ我方トシテハ新政府  
ノ意圖ノ根本ニ付多分ノ疑サヘ有シ居ル次第ナリト申述ヘ  
置キタリ

テ國庫證券ノ件ノ曰鼻カ何トカ付カヌ儘ニ同鐵道延長線問題ノミヲ解決スルコトハ危險ナリ。尤モ膠濟鐵道局剩餘金(六百萬元)ヲ延長線ニ使用シテシマツテ吳レルコトハ我方トシテハ思フツボナルニ付木村芳人氏其ノ他ハtheir own initiative ノ形ニテ鐵道局自身ニテ又ハ省政府ト合同ニテ延長線ヲ建設スル機運ヲ進ムル様引續キ仕向クルコト肝要ナリ。

斯クシテ延長線カ鐵道局ノ剩餘金及古材料ニテ例ヘハ東昌邊リ迄出來シタル一方國庫證券償還ノ準備ノ方ハ何モ出來テ居ナイト云フ狀況カ一九三七年ノ中頃ニ出現ストセハ我方トシテハ理想的ナリ。蓋シ我方ハ國庫證券償還ノ件ハ如何シテ吳レル又日本ノ承諾ヲ得シテ山東鐵道ヲ勝手ニ延長セルハケシカラヌト呶鳴リ込メ支那ハ周章狼狽爲ス所ヲ知ラサルヘク、我方ハ乘シテ甘ク料理スヘシ。右ノ如ク支那ヲシテ周章狼狽爲ス所ヲ知ラサランムル爲ニハ呶鳴リ込ム時期カ成ル可ク一九三七年未ニ接近セル方面白キナリ

三、張公權ノ一億二千萬元公債(又ハ一年四千萬元)ハナカナカ出來サルヘシト思フモ之ニ付テハ本省ニテモ右小生ト

ハ反對ノ考モアル矢先ニ若杉來電第一一七號ノ次第アリタル譯ナルカ、小生トシテハ此ノ金カ必ス出來ルト思ツテウロタヘナイテ出來ヌカモ知レヌコトヲモ考慮ニ入レツツ今少シ様子ヲ見ルコト可然ト考ヘ居レリ  
三、我方ニテハ支那カ結局ハ右公債ニテ山東鐵道國庫證券返還ノ策ニ出テ來ルニ非スマト危惧スルモノアル處一割何分(年利六分、六掛引受)ノ烏金テ無理ニ國庫證券ヲ返スト云フ暴舉ニ出テ來ルナラハ我方モ考アリ(木村芳人氏小生宛私信ニ「支那側カ國庫證券ノ返還ニ付無理ナコトヲスレハ日本ヲ怒ラシ日本ハ何ヲスルカ解ラヌ」)トノ危惧鐵道局邊ニアルコト記載シアリ、我方トシテハ以テ適當ニ利用スベキ先方ノ心理ナリ)

四、青島來電第五號ノ一冒頭ニ「大藏省ニ於テ國庫證券四千萬圓ノ償還ヲ歲入豫算ニ計上シ居ル旨云々」トアルハ先般昨年春?殷同來朝ノ節「四千萬圓ハ一九二七年未ニハ全部返シテ貰フ積テ居ル、殊ニ大藏省ハ財政難ノ折柄<sup>(一九三七年)</sup>ニ四千萬圓返還サルルコトヲ今カラ首ヲ長クシテ待ツテ居ル、外務省ハ支那側ノ困難ニハ或程度同情スルモ四千萬圓ノ問題ハ前述ノ如ク大藏省ニ重大關係カア

ル、又軍部ニモ意見カアル、故ニ若シ返還ヲ待ツテ貰ヒ度イト云フノナラハ充分事理ヲ別ケテ先ツ以テ外務省ニ

御話アレ、充分ノ理由アルコトカ判明セハ好意的ニ取扱

ヒ大藏省等トモ相談スヘシ、然シイイ加減ノコトテハ大藏省ナトニ取次クコトモ出來ナイソレニ支那側カゴマカソウトスレハ感情問題カ加ハツテ外務省モ大藏省ト<sup>(一九三七年)</sup>一諸ラン

ニナツテ「リヂツド」ナ態度テ取ツテ取ソテ取立ツル態

度トナラサルヲ得ス」ト告ケ置キタルコトヲ指スモノナラン

五、山東鐵道ニ關シ支那側トノ決戰ハ成ル可ク遷延スルコト

支那財政金融問題及北支自治問題ノ今後ノ發展性ニ顧ミ

我方ニ有利ナルヘキコト前掲<sup>(一)</sup>ニ記述ノ通ナルカ右ハ滄石線問題及平綏延長線問題ニ關シ或程度類推シテ及ホシ得ヘン

### わが方意向照会について

青 島 2月22日後発

本 省 2月22日夜着

#### 第二八號

二十一日本官ニ對スル葛光廷ノ談話中御參考トナルヘキ點左ノ通

一、本月初旬鐵道部ヨリ須磨總領事ハ國庫證券全額償還方外交部ニ嚴談シ居レリトテ右ニ關スル膠濟鐵道局ノ意見回示方訓令ニ接シタルカ自分トシテハ右ハ鐵道局積立ノ一千萬元ノ外三千萬元ヲ中央ニテ計畫中ノ鐵路公債ヨリ支辨スルコトナリ現在ノ六分利子ヲ八分ニ借替ヘル結果頗ル不利ナルニ付不取敢積立金ニテ一千萬元丈ヶヲ償還シ殘額ハ期限延長方ヲ希望シ居ル處日本側ノ同意ヲ取付ケ得ル見込アラハ右案ヲ主張シ度キニ付中央ヘノ上申ニ先チ大藏、外務兩省ノ意囑ヲ承知シ度シ尙支那側ニテハ償還問題ニ關シ外交部、鐵道部及外務省ノ代表者間ニ來ル七月頃日支何レカノ場所ニテ協議會ヲ開クコトトシ度キ考ナルニ付御考慮アリ度シ

膠濟鐵道國庫証券の償還期限に一千萬元を償還し残額は期限延長とする案につき葛光廷が

道部ト山東省政府トノ共同事業トシ(資金ハ中央ヨリ支辨シ土地買收ニハ省政府公債ヲ充ツ)積立金ニハ手ヲ着ケサル意嚮ナルカ工事落成後ハ一定ノ使用料ヲ支拂ヒ膠濟鐵路之ヲ經營スル方針ナリ

今次ノ計畫ハ濟南、東昌間ハ本年七月着工一箇年ニテ完成ノ上順次大名、彰德ニ延長セントスルモノナルカ(工費一「キロ」平均四萬元見當)將來ハ道口鎮ヨリ孟縣ヲ經テ隴海線ニ接續セシムルコトトナルヘシ  
支、北平、天津、濟南、南京へ轉電セリ

~~~~~

755 昭和11年2月22日 在中國武藤大使館(等書記官より)
廣田外務大臣宛(電報)

鉄道建設公債發行は日本と冀察政務委員會との間で華北の鐵道が任意に敷設經營される」とを阻止する企図に基づくとの滿鉄情報報告

北平 2月22日夜発
本省 2月22日夜着

⁽¹⁾第六九號(極秘)
滄石鐵道問題ニ關シ鐵道部會計長張競立十八日飛行機ニテ

交渉ヲ開始スル必要アルヘシト述ヘ置キタリ尤南京政府中ニテ特ニ親日幹部トシテ注目セラレ居ル張部長ヨリ直接提議スルコトハ如何カト思ハレ且^(編註)現下ノ情勢ヨリ見ルニ本件ニ關スル鐵道部並ニ張競立ノ眞意ニ付牛島カ張ノ談片ヨリ察知シタル所ニ依レハ

南京側ニ於テハ單ニ滄石ノミナラス北支ニ於ケル鐵道力總テ冀察政權ト日本側トニ依リ任意ニ敷設經營セラルルコトトナルヲ惧レテ之カ機先ヲ制センカ爲本件交渉ヲ企圖スルニ至レルモノナルヤニ看取セラレ頗爾警戒ヲ要スルモノアルヲ認メタルヲ以テ牛島ハ本件話合ハ婉曲ニ断ル方可ナリトノ意見ニテ其ノ旨満鐵ニ請訓シタル趣ナリ

⁽²⁾尚牛島ハ若シ同人ヨリノ回答遲延セハ南京側ハ或ハ急速建設ノ必要ヲ理由トシテ日本以外ノ援助ニ依リ又ハ支那單獨ニテ之カ建設ヲ計畫スルニ至ルヤモ測リ難キヲ以テ其ノ邊ハ須磨總領事ニ於テ可然警戒方煩度キ旨申述ヘ居リタリ

支、南京、天津へ轉電セリ

來平シ牛島ニ會見ヲ求メタル由ナルカ右會見ニ於テ張ノ爲シタル申出及之ニ對スル牛島ノ應酬振ニ關シ牛島ノ語ル所左ノ通

一、張ハ這般ノ南京政府ノ改組ニ依リ鐵道部ニ於テハ張公權部長トナリ頗ル親日的トナリ居ル此ノ機會ニ本件鐵道ノ交渉ヲ開始シテハ如何ト考ヘ居リタル處最近石太鐵路局長顏德惠^(國名)ヨリモ滄石鐵道速成ノ意見ヲ具申シ來リタルヲ以テ張部長、顏局長及自分(張競立)ノ三人ニテ協議シタル次第ナルカ其ノ際同鐵道ヲ石太線ノ延長シテ支那自身建設スルコトヲ主張シ同部長ハ同鐵路ノ建設ニ關シテハ日本トノ從來ノ關係ヲ無視スル譯ニ行カサルニ付建前トシテハ支那カ建設スルコトトシ材料ノ供給ノミヲ日本ニ仰キ之力代金支拂ノ方法トシテ

借款契約ヲ締結スヘシトノ意見ヲ述ヘ而シテ建設直接費用ハ兩人共最近鐵道部發行ノ一億三千萬元公債ヨリ支辨スヘシト謂フニアリタリ右ニ對シ自分(張競立)ハ日本側トノ從來ノ經緯ヲ説明シ之ヲ度外視スルノ不可ナルコトヲ力説シ幸ヒ紛失シ居リタル華昌公司トノ契約本文モ最近發見セラレタル際ニモアリ兎モ角日本側ノ意嚮ヲ尋ね

「所ニ依レハ」までは、「現下ノ情勢ヨリ見ルモ本件ハ先ツ冀察政務委員會ヨリ提議シ之ニ基キ南京政府ニ於テ交渉スル形式ノ方可ナラント思考ス幸ヒ冀察政務委員會處長潘毓桂トハ昵懇ノ問柄ナルニ依リ潘ト貴^(下)牛島ト自分ト三人ニテ右交渉ニ關スル根本ノ打合ヲ開始シ度シト申出テタリ

二右ニ對シ牛島ハ篤ト研究ノ上何分ノ回答ヲ爲スヘント述ヘ置キタル趣ナルカ本件ニ關スル鐵道部並ニ張競立ノ眞意ニ付牛島カ張ノ談片ヨリ察知シタル所ニ依レハ」と訂正された。

756 昭和11年2月23日 在青島西總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道延長線の経路等につき意見具申

青島 発
本省 2月23日夜着

⁽¹⁾第二九號 東亞局長ヘ田尻ヨリ

編注 後日訂正電報を以て「現下ノ情勢ヨリ見ルニ」以下、

一、北支ニ於ケル經濟工作ノ一主眼點ハ隴海沿線ノ經濟力ヲ

我方勢力圈内ニ收メ以テ津浦線及連雲港經由ニ依リ同地
方ヲ上海及浦口方面ニ結着カシメントスル支那側ノ計畫
ヲ阻止スルニアリ滿鐵ノ如キモ大體同様ノ考ニテ今次ノ
同線機關車ノ落札ニ力瘤ヲ入レ居ル次第ト考フル處之カ
爲ニハ青島廻周航路ノ再開、高徐線ノ建設ト共ニ膠濟延
長線ノ建設ヲ急キ且成ルヘク直接ニ之ヲ隴海線ニ接續ス
ル必要アリ其ノ方法トシテハ差當リ東昌迄延長方ヲ急キ
居ル膠濟線ヲ

(一) 鄭州ニ於テ隴海線ト聯絡スル爲平漢線黃河北岸迄延長
シ鐵橋ハ現在ノモノヲ利用スルカ

(二) 道口鎮ニ結ヒ同線及平漢線ヲ其ノ儘利用スルカ(之ハ
運賃甚^タ高價トナル缺點アリ)若ハ

(三) 道清線ヲ延長線ニ繰入レ之ヲ延長シテ洛陽ニ出ツル方
法アルヘク

尙(三)ノ場合ハ借款關係等困難ノ點アルヘキモ理想トシテ
ハ現ニ平漢線ノ支線タル道清鐵道ヲ膠濟延長線トシテ經營
セシムルヲ可ナリト存ス

(2) 延長線ハ條約上ハ順德又ハ彰德ニ結フコトトナリ居ル處
前記隴海線トノ聯絡速ニ着クニ於テハ右建設ハ第二段ト
ナラス支那側ハ勿論我方トシテモ西原借款ノ關係上相當問題ナルヘキモ結局
膠濟鐵道國庫證券一千萬圓ヲ返還セシメテ一應支那側ノ
點カ順德彰德孰レニ拘ラス條約線ノ延長ニ乘出シ來レル
模様ナルニ付折角ノ機會ヲ失セサルコト肝要ナルカ往電
第二八號ノ二、葛ノ案ノ如キハ問題トナラス支那側ハ勿論
我方トシテモ西原借款ノ關係上相當問題ナルヘキモ結局
顏ヲ立テ之ヲ彰德線ノ路線建設ノ爲新タニ借款セシムル
外運轉材料ハ別個ノ購入借款ヲ起サシメ共ニ擔保ニ提供
セシメ且延長線ニ對シテハ特別ノ路局ヲ設クルコト無ク
膠濟ヲシテ經營セシメ從テ運賃率ハ膠濟ノモノヲ延長線
去スル要アリ

三、尤膠濟側ニテハ彰德線案ヲ支持シ居リ且中央ニ於テモ終
ト無ク期限ヲ延長シ同線及延長線ノ收入中我方利子及購
入借款年賦金支拂後ノ剩餘金ハ之ヲ高徐線建設費ニ利用
セシムル仕組ト爲シ解決ヲ計リ得レハ先ツ差支無キカト
存ス

以上界見御参考迄

支、北平、南京、天津、濟南へ轉電セリ

~~~~~

757 昭和11年2月24日 在中國武藤大使館一等書記官より  
広田外務大臣宛(電報)

滄石鐵道敷設は冀察政務委員會を交渉相手と  
して進めるべきとの土肥原奉天特務機関長の  
意向について

北平 2月24日後發  
本省 2月24日夜着

第七四號(極秘)

(1) 往電第六九號張競立ノ牛島ニ對スル申出中ニハ冀察政權ノ  
コトヲ云々シ居ル關係モアリ牛島ハ參考ノ爲土肥原少將ノ  
意見ヲ尋ネタル趣ノ處同少將ハ北支ノ情勢變化セル今日ト

シテモ差支無カルヘク終點ヲ右二者ノ孰ニスルヤハ滄  
石線ノ實現性如何ニ依リ決定スヘキモ若シ大沽ノ築港見  
込無キモノトセハ滄石線ハ經濟上價值少キヤニ察セラル  
ルヲ以テ之ヲ延期又ハ取止ニシ別ニ石家莊、德州、張店  
又ハ周村線ヲ敷設スルカ若ハ順德線ヲ選フコトトナルヘ  
ク若シ滄石線見込アリトセハ彰德ヲ終點トスルコト有利  
ナルヘシ而シテ何レノ場合ニモ膠濟線ヲシテ我方ニ有利  
ナル運賃政策ヲ執ラシメ輸送距離長キニ失スル缺點ヲ除  
去スル要アリ

三、尤膠濟側ニテハ彰德線案ヲ支持シ居リ且中央ニ於テモ終  
ト無ク期限ヲ延長シ同線及延長線ノ收入中我方利子及購  
入借款年賦金支拂後ノ剩餘金ハ之ヲ高徐線建設費ニ利用  
セシムル仕組ト爲シ解決ヲ計リ得レハ先ツ差支無キカト  
存ス

以上界見御参考迄

支、北平、南京、天津、濟南へ轉電セリ

~~~~~

ナリテハ滄石鐵道ノ件ハ專ラ冀察政權ヲ相手ニ話ヲ進ムル
ヲ可トストノ意見ナリシ旨牛島ヨリ報告アリタルヲ以テ本
官爲念土肥原氏ニ就キ其ノ意嚮ヲ尋ねタル處同少將ハ北支
ニ於ケル各般ノ事項ニ付テハ冀察政權自ラ之ヲ處置シ南京
政府ニ對シテハ單ニ備。即チ届出ヲ爲スニ止ムル様自分ニ
於テ同政權ヲ指導シ居ル次第ナルヲ以テ滄石鐵道ノ如キモ
南京側ヲ相手トセス專ラ冀察側トノ合作ニテ進メ度ク華昌
ノ契約ハ北支ノ情勢變化セル今日トナリテハ甚^タ不滿足ナ
ルモノニシテ同鐵道ニ對スル日本側ノ管理權ノ如キモ單ニ
會計員ヲ入ルルニ止マリ極メテ薄弱ナリ過日自分ハ冀察側
ニ對シ本鐵道ニ關スル日本トノ合辦計畫ヲ提議シタルニ宋
哲元、陳覺生共ニ贊意ヲ表シ頗ル乘氣ニ見受ケラレタリ
(2) 交通委員會モ近ク成立ノ筈ニテ委員長ニハ陳覺生内定シ居
リ委員會成立ノ上ハ本問題ノ研究ニ取掛ルコトナルヘク
華昌契約ヨリモ遙ニ有利ナル結果トナルヘシト語レリ
依テ本官ハ華昌ノ權利ハ外務省カ長年南京側ニ向ツテ執拗
ニ主張シ來レルモノナルコトヲ説明シタル上冀察側トノ合
辦案ハ至極結構ナルモ冀察政權ノ基礎未タ充分ニ鞏固ト稱
シ難キ現狀ヲ以テシテハ或ハ不成功ニ終ルコト無キヲ保シ

難キヲ以テ冀察側ト合辦ノ話合ヲ進ムルニ當リテモ華昌ノ権利ハ飽迄之ヲ完全ニ保持シ行クコト肝要ナルヘキ旨本官ノ私見トシテ述へタルニ同少將之ニ同意セリ

冒頭往電所報ノ如ク張競立カ牛島ニ對シテ交渉開始ヲ申込ミ且南京側カ今頃ニナリテ華昌契約ノ原文ヲ發見セリト申出ツル等本問題ハ南京發閣下宛電報第六一號、第八二號及第一三五號ノ關係ト相俟ツテ機微ナル關係ニアリト認メラル處何等心得置クヘキ點アラハ御回示ヲ請フ支、南京、天津へ轉電セリ

758 昭和11年2月28日 在南京須磨總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

張公權が滄石線敷設や膠濟線延長など鉄道建設公債に関連した鉄道建設方針を説明してわ

が方の了解を要請について

南 京 2月28日後発
本 省 2月28日夜着
第一八六號(極秘)
往電第八二號ニ關シ

二十八日張公權ヨリ希望モアリ會見セル處張ハ冒頭往電ノ趣旨ヲ繰返シ日本側ノ了解ヲ得度キ旨懇請セルカ右會談要領左ノ通

(一)平綏線延長ノ件ニ關シ二月二十一日附亞一機密第一五號

御訓令ノ次第モアリ白耳義側トノ關係ヲ質シタルニ張ハ本件契約ハ一九二二年北京政府時代成立シ白耳義政府ノ承認ト重役會ノ批准トヲ經居リ當時ノ交通總長高恩鴻。於テ八十萬磅ヲ受取り居ルコト判明シタルカ白耳義側ハ之力整理ヲ迫リ居ルモ鐵道部トシテハ支拂ノ方法モ無ク又日本側トノ話合モ出來サル爲極力白耳義側ノ會見申込ヲ回避シ居ル實情ナリト述ヘタルニ付本官ヨリ元來本契約ノ締結目體カ我方東亞側ノ既得權ヲ無視セルモノナル點ヲ指摘シ我方トノ間ニ白耳義トノ契約無カリシ狀態ニ於テ包審線ニ關スル話ヲ進ムルコトトシテハ如何ト述ヘタルニ

張ハ目下平綏鐵路局長ニ同線建設費豫算作成ヲ命シアルニ付右報告ヲ俟チ更ニ具體的ニ相談シ度キカ日本側ヨリノ材料買入ハ約束シ差支無ク其ノ形式ハ日本當業者ト支那銀行トノ借款契約ト爲スコトニ異存無キニ付其ノ邊ニタルニ

テ折合ハレ度シト述ヘタルニ依リ本官ヨリ東亞側權利ノ充分ナル實行ヲ前提トスル案ニアラサレハ話ノ餘地無シト應酬シ置キタリ

(二)滄石線ニ關シテハ張ハ鐵道部カ曩ニ取消ヲ通告シ居ル華昌ノ契約ハ自分カ認ムルコトトナリテハ職ニ留マリ難キ次第ナルニ付是亦目下急速作成ヲ命シ居ル正太鐵路局ノ同線建設豫算出來ノ上ハ三菱又ハ東亞興業ヨリ材料ヲ買入ル位ニテ我慢シ吳レスヤト述ヘ且右方法ニ依ル以外正太ニ關スル佛國側ノ權利ヲ無視シ得サル次第ヲ詳述シタルニ對シ本官ヨリ例ニ依リ貴方具體案出來ノ上ハ拜見スヘキモ我方トシテハ華昌契約ノ實行ヲ主張セサルヲ得スト述ヘ置キタリ

(3)膠濟線延長ニ付張ハ大体東昌迄延長ノコトニ決定シ建設費ハ膠濟鐵路局現有ノ古材料ヲ使用セハ多少減額シ得ル

モ約五百萬元ヲ要スヘシト述ヘタルニ付本官ヨリ本鐵路國庫證券ノ支拂見込如何ト尋ネタルニ張ハ實ハ本延長線ニ付テハ膠濟鐵路局ニテ建設豫算作成ノ上同鐵路局積立

金ニハ手ヲ觸レス支那側銀行ヨリ現金ノ融通ヲ受クルコトトスヘク來年末迄剩餘金ノ集積ニ努力スヘキモ右ニテ

支、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

759 昭和11年3月1日 在天津川越總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

滄石鐵道敷設に宋哲元贊同の旨報告ならびに同線は滄州よりも天津を終端とする方が技術的かつ經濟的に有利の旨意見具申

付記一 昭和十一年三月十日付、東亞局第一課作成「滄石鐵道問題ニ關スル十河社長談話要領」

二 昭和十一年五月十五日付、東亞局第一課曾爾

事務官作成

「滄石鐵道問題ニ關スル打合等報告」

天 津 3月1日後発

本 省 3月1日夜着

第七〇號(極秘)

(¹)北平發閣下宛電報第六九號及第七四號ニ關シ

(¹)二十七日牛島ノ本官ニ對スル内話(滿鐵太田天津事務所長同席)左ノ通

冒頭電報張競立ノ話ニモ顧ミ自分(牛島)ヨリモ冀察側ノ意嚮ヲ確メ置クコト肝要ト認メ二十六日宋、陳覺生及潘毓桂(冀察政務委員會政務處長)ニ面會セル處宋ハ大イニ乘氣ノ模様ニテ自分ニ對シ(陳覺生同席)滄石ハ南京ニ對シテハ備案ノ形ヲ採リ冀察自身ニテ敷設ノ意嚮ナリト告ケ日本トノ關係ハ借款ノ形式ニ依ル方然ルヘシト申出タルニ付自分ハ兎ニ角借款合辨兩案ヲ當方ニテ先ツ作成呈示スヘキ旨約シ置キタリ就テハ自分ハ今夜(二十七日)ノ通車ニテ大連ニ赴キ松岡總裁ニ委細報告立案ノ上之ヲ携ヘテ歸來ノ心組ナルカ自分ハ華昌代表者ニモアリ而シ

シ贊成ヲ得タリ)

(²)滿鐵ニ於テハ先般來調查班ヲ派遣シ石家莊、滄州及天津間ノ敷線ニ付實地調査中ノ趣ナルカ右調査ノ結果ニ基キ「ルート」ヲ石家莊滄州トスルヨリモ石家莊天津トスル方技術的並ニ經濟的見地ヨリ見テ不利ナラストノ結論ヲ得ハ北支政情ノ變化(ニ)從テ生セル北寧ト我方トノ關係ノ變化ニモ鑑ミ且ハ經濟都市天津トノ直接結付ト云フ點ヲモ顧念シ寧口滄州ヲ避ケ石家莊ヨリ一路天津ニ結フ方得策ナル様思考セラルニ付本官一個ノ私見トシテ松岡總裁ヘ傳達方牛島ヘ依頼シ置ケリ

(³)十河興中公司社長ノ廿八日本官ニ對スル内話左ノ通過日宋哲元ニ面會ノ際(潘復同席)政治的提携モ左ルコト乍ラ先ツハ經濟的提携ニ邁進スルコト然ルヘシトノコトニ意見一致シ宋ハ經濟問題ハ潘復ニ委セアルニ付詳細ハ

潘ト談合アリ度シト述ヘタルカ潘ハ經濟提携實行案トシテ

(イ)龍烟鐵礦ノ開發
(ロ)砂糖專賣

(ハ)滄石鐵道

(二)棉花ノ改良增產

ノ四項目ニ着目シ居リ(イ)、(ロ)ハ自分ニ考アルモリ、(ハ)日本側ニテ立案シ貰ヒ度シト述ヘタルニ付自分(十河)ハ

興中公司ヲ滄石ノ我方當事者トスルコトモ考慮スヘシト答ヘ置キタリ

(³)四十河ハ東京ヨリ此ノ際一先ツ歸京セヨトノ電報ヲ受ケ居

ルニ付急ニ旅程ヲ變更シ不取敢二十八日夜陸路大連ニ出

テ松岡總裁ト相談ノ上南支視察ヲ續クヘキヤ一先ツ歸京スヘキヤヲ決定スル苦ナリトノコトナリシニ依リ本官ヨリ若シ歸京サレタラハ直ニ本件外務省ト協議セラレ度キ旨申入レ置キタリ

(五)尚冒頭北平發電報(第七四號ノ方)土肥原少將ノ談中南京

政府ニ備案云々ニ付テハ一月十七日國民政府ニ送付セル冀察政務委員會暫行組織大綱(國民政府公報第一九四八

テ南京ニ對スル華昌ノ權利確認要求ノ態度ハ飽迄之ヲ持續スルコト得策ナルヘキニ付冀察トノ本件交渉ハ自分モ裏面ニ於テハ出來ル丈ヶ努力スヘキモ表向ノ我方當事者ハ滿鐵ナリ興中公司ナリ適當ナル機關ヲシテ之ニ當ランムル方然ルヘシト考ヘ居レリ(以上多田司令官ニモ報告許可等ハ必要ナシト語レリ)

二十二日張競立來北シ牛島ト滄石鐵道計畫實現ニ關シ會談セル趣ナルカ自分(十河)ハ前記宋トノ會見後直チニ天津ニ向ヒ川越總領事ヨリ本問題ニ關シ話ヲ聽キタルカ同總領事ハ南京ニ於テハ引續キ華昌ノ權利ヲ主張シ居ルモ今日迄ノ處華昌ノ手ニテ急速ニ實現スルコト望ミナキカ如シ依テ宋トノ話合ヲ機トシ速ニ興中公司邊リニテ交渉ヲ纏メタル後華昌ノ權利ニ付話合ヲナス方便利ナラン尤モ滿鐵ノ名ニ於テ此問題ヲ處理スルハ面白カラストノ意見ニテ又多田司令官ハ華昌ノ權利ニハ觸レス興中公司ニテ北支當局ト話ヲ進ムル方然ルヘシトノ意向ヲ有スルカ如シ尙川越總領事ハ本件ニ關シ中央殊ニ外務省ト充分協議セラレ度ト述ヘ居タリ

(桑島局長ヨリ右ハ當方ニ於テモ既ニ研究中ナルカ滄石(石家莊天津間ノ意)ハ軌間ヲ廣狹何レニスルヲ適當トスルヤト述ヘラレタルニ對シ)和知中佐ノ語ル所ニテハ山西當局ノ對日態度ヲ有利ニ導クカ爲ニモ滄石線ヲ速カニ敷設スルコト必要ニシテ又同線ハ廣軌トセサルヘカラス、正太鐵路ハ之ニ追隨シテ廣軌ニ改策スヘキコト疑ナシトノコトニテ同中佐ハ樂觀論ナリキ

結論トシテ滄石問題ニ付テハ先ツ平緩膠濟ノ延長線ト何レ

ヲ先ニスルヤノ問題アリ又華昌ノ權利ヲ如何ニスルヤノ問題アリト雖本件ヲ急速ニ進捗セシムルノ要アルコトハ明白ナレハ自分(十河)ハ不敢滿鐵ニ簡單ナル測量ヲ行フ様依頼シ置キタリ

(付記二)

滄石鐵道問題ニ關スル打合等報告

十一、五、十五、曾禰

今般ノ北支視察ニ際シ出先諸方面ト滄石問題ニ關シ打合ノ要領乃至ハ本官聞込ノ概要左ノ通(別段新規ナルコトナキモ)爲念記録ニ止ム

一、川越總領事トノ打合(四月中旬於天津)

本官ヨリ本省ノ内意ヲ説明(便宜上三月十日附「滄石鐵道問題處理方針案」ニ就キ)セル處同總領事ハ右ノ措置案ニ贊成セラレタルモ根本方針トシテ本省ハ滄石建設ノ緊急性ヲ認ムルモノナリヤ、平緩線延長及山東線延長トノ比較上孰レヲ優先的ニ考慮セムトスルモノナリヤヲ承知シ度ト述ヘラレタリ

仍テ本官ヨリ本省ノ確定方針ハ未タナキ様ナルモ經濟的

ニ考フレハ滄石線ノ敷設(結局山西石炭ノ「マーケティング」ヲ考慮セサルヘカラス)ハ急ク要ナカルヘク山東延長線ハ經濟線トシテ優先的ニ考慮シ平緩延長線ハ國防線トシテ優先的ニ考慮スル要アルヘシ果シテ然リトセハ滄石線即時建設ニ滿鐵等カ二ノ足ヲ踏ムコトモ止ムヲ得サルヘキカト思考スル旨述ヘタル處總領事ハ平緩延長及山東延長線ハ孰レモ土工費ハ左シタルコトナカルヘク材料モ山東ノ方ハ古材料位ニシテ事足ルヘキヲ以テ滄石線建設ニ余力ナカルヘキ筈ナシト述ヘラレタリ

二、興中公司奥村慎次談(四月中旬平津間車中)

滄石鐵道建設ニ關スル最近ノ一案ハ北寧鐵道ニ對シ借款ヲ供與シ同鐵路局ヲシテ建設セシメ新設滄石線ヲ第一次擔保トシ北寧線ヲ第二次擔保トセムトスルモノナリ

(右ニ對シ本官ハ同案ハ陳覺生邊リカ發案セルモノト認メラレ日本側トシテハ陳ヲ利用シテ滄石線及北寧線ヲ日

本ノ借款鐵道ニナサムトスル考ナルヘキモ北寧線ニ對シテハ中英公司ノ借款アリ之トノ調整ニ付留意ノ要アルヘシトノ意見ヲ述ヘ置ケリ)

760 昭和11年3月10日 在青島西總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫証券は償還期限に全額償還する

ことを外交部・財政部・鐵道部間で決定した
との葛光廷極秘内話について

青島 3月10日後発
本省 3月10日夜着

支、南京、北平、天津、濟南へ轉電セリ
ル趣ナリ

1030

第四二號(極秘)

往電第二八號ノ一二關シ

761 昭和11年4月21日 在青島西總領事より

有田外務大臣宛(電報)

九日田尻書記官告別ノ爲葛光廷ヲ往訪シタル處葛ハ國庫證券返還ニ關スル日本政府ノ意嚮ヲ承知シ度キニ付歸朝ノ上好ク御話願度シト述ヘタルヲ以テ田尻ハ支那側ノ駆引無キ結局ノ肚ヲ知ラサレハ歸ツテモ話ノ仕様無シト應酬シタルニ對シ葛ハ体面上一千萬圓又ハ五百萬圓返還等御話シタル

モ實ハ一文モ返セス四千萬圓ヲ其ノ儘借繼トシ積立金ハ總テ延長線建設ニ使用シ度キ希望ナリ尤南京ニ於テ日本側ヨリ外交部二期限到來ト共ニ全額返還方嚴重要求アリタル爲極秘ノ話ナルカ約一箇月前外交部、財政部、鐵道部間ニ全額償還ヲ決議シ最近其ノ議事錄ヲ送付シ來レル程ナルカラハ支那側ノ眞意ニアラサルモ政府自ラ右決議ヲ變更スルコトハ困難ナルヘキニ付當地ニ於テ西總領事ト協議シ前記支那側ノ希望ヲ實現スルカ如キ案ヲ作成シ得ルニ於テハ之カ實行方自分ヨリ中央ニ稟請スルコトセハ中央モ必ス之ヲ聽入ルヘキニ付是非共右様取計ヒ度キ意嚮ナリト漏ラセ

第八三號

往電第六三號ニ關シ

葛光廷十九日南京ヨリ歸青二十日他用ヲ以テ往訪ノ本官トノ談話中御参考トナルヘキ點左ノ通
一、膠濟線ノ延長ハ今般南京ニ於テ張部長ヨリ許可ヲ得タリ
ト述ヘタルニ付本官ヨリ何ノ程度ノ許可ナリヤヲ反問セ
ル處延長線建設ノ爲ノ會社設立ノ具体案ハ鐵道部ニ於テ修正濟トナレルニ付更ニ韓主席ト協議シ其ノ用意ヲ得タル上正式ニ許可ヲ得ル手書トナレリト答ヘ更ニ東昌以西ノ延長線ハ彰德ニ(道清ニアラス)聯絡スル旨及東昌臨清

青島 4月21日後発
本省 4月21日夜着

鐵道部による滄石鉄路公司籌備處設立に関する張競立内話について

ラハ支線ヲ設クヘキ旨語レリ

二、國庫證券償還ニ關スル日本側ヘノ申出ハ從來ノ通ニシテ
(一千萬圓中五百萬圓ヲ償還ニ充ツルコト)別ニ新ラシキ

案モナキニ付宜敷ク御願ヒ致度シ

三、博山輕鐵ノ買收ハ曩ニ西田總領事ヨリ張部長ニ御話ノ次

第モアリ今後六十萬圓位ナラハ支出シ得ルコトトナレル
カ從來債權團側ニ於テハ百萬圓乃至百二十萬圓一箇月前
ノ如キ百七十萬圓ト評價シ來リ折合相當困難ト思ハル鐵

(博山東廻り線)ヲ建設スル考ニシテ尙博東公司カ索道ヲ
作ルトノコトナレハ之モ五年以内ニ買收ノ要アルニ至ル
ヘク旁輕鐵ヲ餘リ高ク買フ譯ニ行カス

四、尙張部長ノ各地旅行ノ結果先ツ成都、重慶、長沙線建設
ニ着手スルコトニ決セリ云々

~~~~~

支、南京、北平、天津、濟南へ轉電セリ

762 昭和11年4月22日 在天津川越總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

(一)鐵道部ニ於テハ線路ハ不敢石家莊滄州間トシテ差支

タル趣ナリ

(口) 契約ノ日本側當事者ハ華昌又ハ其ノ主體タル滿鐵孰レニテモ差支ナシ

(イ) 契約内容ハ華昌原契約ニ多少ノ變更修正ヲ加フルモ差支ナカルヘシ

支ナカルヘシ

(三) 鐵道部ニテハ新線計畫ハ總テ公司名義ニテ一切ヲ處理ス

ルコトトナリ。浙○贛○、贛昌○、湘○黔○、川○黔○各鐵路皆然リ

(四) 滄石公司ハ鐵道部、冀東政府及各有力者ヲ株主トスル外

零細ナル株主ヲモ收容スル筈ニテ結局支那側トシテハ本

鐵路ノ建設ニ關スル交渉其ノ他一切ハ同公司ヲシテ之ニ當ラシムルコトセル譯ナリ

(五) 陳覺生ハ右交渉ヲ引受ケ將來局長ヲ兼ネントノ希望ヲ有

シ南京ニ運動中ナリシカ鐵道部ハ陳最近ノ行動ヲ喜ハス

潘ヲ任命セルモノナリ

支、南京、北平へ轉電セリ

編注 「冀東政府」の部分は、後日、訂正電報によつて、「冀

察政權」と訂正された。

支、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

764 昭和11年5月6日 在中國若杉臨時代理大使より 有田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員会による滄石鐵道敷設計画の進捗に対し仏國財團關係者が憂慮表明について

上海 5月6日後発

本省 5月6日夜着

第二九二號  
客年南京發貴大臣宛電報第一一一八號ニ關シ

四日「パヴロヴスキイ」ハ須磨ニ對シ日本側ノ支那側トノ話合ハ曾養甫ヲ通シテ承知シ居ルカ張公權力就任直後自分ニ對シ日佛合作ナラハ面白カルヘシトノ言質ヲ與ヘタル次第モアリ材料供給ニ付攻究中ナル處約一週間前張ヨリ來寧ヲ促シ來リ北支政權力單獨ニ計畫實行ノ氣配モアレハ是非共從來通ノ合作ノ具体案ヲ作成提出アリ度シト申越セリト述ヘ相談ヲ持掛ケタルニ付須磨ヨリ我方トシテハ華昌公司ノ契約承認ヲ根本ト考ヘ居ルコト等從來通ノ趣旨ヲ繰返シ說明ノ上場合ニ依リ北支當局ノミニテ實行スルコトアルヘ

763 昭和11年4月24日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道延長線問題および博山輕便鐵道買収

問題に関する張公權内話について

南京 4月24日夜發

本省 4月24日夜發

青島發閣下宛電報第八三號ニ關シ

廿四日張公權ハ冒頭電ト同趣旨ヲ述へ唯極秘トシテ

(一) 葛光廷ニ濟聊線建設材料ハ總テ日本側ヨリ買入方命令シ置キ且同線建設公司ニ鐵道部、省政府及民間ヲ參加セシ

メタルハ資金ヲ各方面ヨリ集ムル手段ニ過キス又同鐵道其ノモノハ膠濟鐵道局ニ管理セシムル豫定ナリト述ヘタリ

(二) 博山輕鐵ハ元來六十萬元ニテ買收ノ筈ナリシモ先般旅行ノ際西田總領事ノ意見ニ依ルモ八十萬元ナラハ出來得ル

豫想ナリシニ百六十萬元ト吹掛ケラレ閉口シ居レリト言ヘルニ對シ本官ヨリ結局鐵道部ハ買收ノ意思アリヤト突込メルニ對シ八十萬元ナラハ取極ノ見込ナリト述ヘタリ

南京、北平、天津へ轉電セリ

765 昭和11年5月28日 在濟南京西田總領事より 有田外務大臣宛(電報)

博山輕鐵買收問題に関する韓復榘との意見交換について

濟南 5月28日後發  
本省 5月28日夜着第九二號  
<sup>(1)</sup>往電第九一號ニ關シ

廿四日本官韓主席ト會見ノ際韓ハ輕鐵買收促進ノ見地ヨリ各方面ノ主張ヲ考慮シ自分ヨリ輕鐵債權團ニ對シ合理的ニテ且公平ト認ムル七十八萬元ノ調停案ヲ示シ債權團中一部ハ既ニ承諾ノ意思ヲ表示シ居レルモ何レ取纏メ回答アル筈ナリ

從來鐵道部ハ本件ヲ始ト不問ニ附スルカ如キ態度ナリシモ先般部長モ更迭セルニ付山東開發ノ爲今回ハ是非共解決致度ク先ツ自分ニ於テ前記調停案ニ對スル債權團側ノ回答ヲ待チ若シ異議無クハ張部長ニ右價格ニ依リ買收方進言シ鐵道部ニ於テ要領ヲ得サレハ更ニ蔣行政院長ニモ電請スル考ニテ其ノ上尚中央之ヲ不問ニ付シ輕鐵ノ利益ヲ無視シ博山城東廻線ノ敷設ヲ圖ルカ如キ措置ニ出ツルトセハ然ルヘキ手段ニテ之ヲ阻止スル考ナリ中日實業側ニ對シテハ債權團側ニ於テ打合中ニテ自分モ高木副總裁來濟ノ機アラハ篤ト申入ルル考ナルカ貴官ニ於テモ同社ニ對シ大會社カ數萬元

權者ニ七十八萬元ニテ承諾セシメ其ノ中二十萬元ヲ中日側ニ支拂ハシムルハ不公平ニテ支那債權者側ヲ納得セシメ難キニ付萬已ムヲ得サル場合ハ中日ニ對シ七十八萬元ノ五分ノ一即チ十五萬六千元ノ割合ノ外別途一萬元程度ノ割増ヲ省政府側ニ於テ何トカ考慮スベク何レニシテモ中日ト山東省政府トハ借款其ノ他ニ付今後モ緊密ナル關係モアルニ付僅カ數萬元ノコトニテ本件解決ヲ遲延セシムルハ面白カラスト考ヘ居レリト述ヘタリ

事情右ノ如キニ付中日側ニ於テモ大體右「ライン」ニテ解決スルコト得策ト思考セラル處本省又ハ中日側ニ於テ何等別案乃至御意見アラハ御電示相煩度ク尙本電概要高木支、北平、天津、南京へ轉電シ、青島、博山へ暗送セリ

766 昭和11年5月30日 在青島西總領事より  
満鉄が華北方面における鉱山や鐵道などに關する調査を終え引続き山東・山西方面の調査

開始について

ノコトニテ餘り反対無キ様然ルヘク御說得願度シト申出テタリ

依テ本官ヨリ中日側ハ客年百萬元案ニテモ滋々承諾セル位ニテ昨今銀爲替下落ノ關係モアリ且本件價額カ民間鐵道買收法等確タル根據アルモノナレハ兎モ角漠然タル折衷案ト

ノミニテ貴官ノ立場ヨリハ大體合理的ト考ヘラルナランモ本官ヨリ言ハ貴案ハ鐵道部及膠濟局主張ニ重キヲ置力レ居ルカノ感アルニ付中日側ハ容易ニ肯カサルヘク尤債權團代表ハ中日ト打合ノ爲既二人ヲ派シタル由又高木副總裁モ近ク來濟ノ筈ナレハ其ノ上ニテ意見ヲモ徵シ善處スヘシト答ヘタル上私見ナリト前提シ本官ハ山東開發ノ爲ナラハ一中日ノ利益ヲノミ敢テ强硬ニ擁護スル次第ニアラズ殊ニ博山地方發展ノ爲本件ノ至急解決ハ素ヨリ希望スル次第ナルモ百萬元以下ニテハ中日ハ兎モ角トシ其ノ背後ニアル日本銀行團カ債權ノ半分ニモ達セストテ承諾セサル懸念アリ其ノ爲本件ノ頓挫ヲ來スモ面白カラサルニ付支那側債權者カ貴官ノ調停案ヲ承諾シタル場合中日側ニ對シテハ百萬元ノ割合即チ二十萬元交付スル案ナラハ何トカ折合フ様斡旋スルニ吝ナラスト述ヘ韓ノ意嚮ヲ打診セル處韓ハ支那側債

青島 5月30日後發  
本省 5月30日夜着

## 第一一三號

滿鐵天津事務所野中調査課長來青語ル所ニ依レハ滿鐵ニ於テハ華北方面ノ調査一段落ヲ告ケタルニ付山東、山西ノ調査ニ着手スルニ決シ鑛山、鐵道、河水ノ三班ヲ組織シ鑛山班ハ更ニ四、五名(地質、採鑛及測量擔當者各一名助手、通譯各一名)ヲ一隊トスル五隊ニ分チ山東省内各鑛山ヲ調查スベク(成ルヘク鑛山主ノ了解聯絡ヲ取リテ)鐵道班ハ高徐線ノ調査ニ當ルモ差當り豫定線地方ヲ飛行機ニテ撮影スルコトトシ然ル後一、三名ヲ一隊トシテ同地方ヲ視察旅行(詳細ナル調査ニアラス)セシムル豫定ニシテ(此ノ點ニ關シテハ本官ヨリ本計畫カ膠濟線延長計畫ニ支障ヲ來スコトナキ様充分留意ノ要アル旨注意シ置ケリ)更ニ河水班ハ西安以下ノ黃河ノ水運調査(治水調査ハ餘リ大規模ナルニ付差當リ考慮シ居ラス)ヲ爲スモノナルカ右ハ何レモ六月中旬ヨリ約一箇月間ヲ以テ第一期調査ヲ終リ(河水班ハ既ニ内地ニ入込メル者モアリ又黃河水運關係ノ支那人モ道案内等便宜供與ヲ約シ居ル由)今秋更ニ第二期調査ニ著手ノ豫

定ナル趣ニテ種々當館ノ便宜供與方願出アリタリ右何等御  
参考迄

支、南京、北平、天津、濟南へ轉電セリ

~~~~~

767 昭和11年6月6日

在天津田尻總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

現地調査の結果石家莊・天津間に新線を敷設す

ることで軍および満鐵側と意見一致について

天 津 6月6日後発

本 省 6月6日夜着

第二三二號

往電第一六一號ニ關シ

現地調査員一應ノ報告ヲモ綜合シ當地軍側及満鐵並ニ當館側トモ大体路線ハ石家莊ヨリ滄州ニ結ハス之ヲ直接天津ニ結フコトヲ可トスルノ意見ニ一致シ居リ近ク調査完了報告ヲ俟チ參謀長ヲ長トスル委員會ヲ組織シ軍係官満鐵及當館ヨリ委員ヲ出シ本件建設ニ關スル各般ノ研究及具体案ヲ審議スル方針ナリ御含迄不取敢(現地調査報告出來ノ上ハ満鐵ヨリ入手シ送付スヘシ)

支、北平、南京へ轉電セリ
~~~~~

768 昭和11年6月10日

在濟南西田總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中日実業の高木副總裁が韓復渠と会談し韓の調停案に従い博山輕鐵売却に応じる旨回答に

ついて

濟 南 6月10日前發

本 省 6月10日夜着

第一一〇號

往電第九二號ニ關シ

八日中日高木副總裁來濟本官ト打合ノ上同道韓主席ト會談シ高木ハ博山輕鐵買收問題ニ對スル韓主席ノ斡旋ノ勞ヲ謝シタル上本件ハ中日背後ノ銀行團側ニ異見アルコトハ既ニ御承知ノ通ニシテ中日トシテハ困難ナル立場ニアルモ韓主席力態々兩者間ニ立チテ斡旋ノ勞ヲ執ラル以上今更買收價額ノ多少ニ付テ彼此申サヌ主席ノ調停額タル七十八萬元ニテ買收ニ應スルコト致度キ旨表明シ同時ニ淄川及博山方面電化ニ關スル日支合辦事業ノ概要案ヲ提示シテ韓ノ斡

旋方ヲ求メタル處韓ハ此ノ種事業ハ贊成ナルカ何レ關係當局ニモ打合セ成ルヘク貴意ニ副フコトトスヘシト述ヘタリ又韓ハ本官ニ對シ今日迄ノ援助ヲ謝シタル上輕鐵買收ニ付テハ他ノ支那側債權團ノ承諾ヲ俟ツテ(九日支那側債權團ハ全部承諾ノ旨韓ニ申出ツル趣ナリ)自分ヨリ鐵道部ニ該金額ニテ買收方ヲ電請シ同部ノ許可ヲ促ス考ナリト述ヘタルカ九日葛委員長ハ本官ニ對シ本件ニ付テハ韓主席ヨリ鐵道部へ電請ト共ニ同人ハ近々赴寧シテ鐵道部ト打合セ許可ヲ得ル見込ナリ云々ト内話セリ

支、北平、天津、青島、南京へ轉電セリ

769 昭和11年7月21日

在青島西總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

韓復渠の調停に応じ鉄道部が博山輕鐵買收を

内定した旨葛光廷内話について

青 島 7月21日前發

本 省 7月21日前着

第一四九號

二十日葛光廷ノ本官ニ對スル内話左ノ通

開始ノ爲短期間ニ荷渡シ得ルモノタルコト必要ナル旨強

調スル考ナリ

支、南京、北平、天津、濟南へ轉電セリ

770 昭和11年7月27日 在天津田尻總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

軍および満鉄側と協議の結果津石鐵道建設要綱案を作成したところ華昌公司の敷設優先権との関係など交渉方針回示方請訓

天津 7月27日後発  
本省 7月27日夜着

第三一九號(極秘) 往電第二三一號ニ關シ

最近満鐵側ノ調査モ一應完了セルニ付軍側ニテハ之ヲ基礎

トシ滄石鐵道ノ

(一)軍事、政治及經濟上ノ價值

(二)企畫路線(天津・石家莊、太沽・德州・石家莊)

(三)投資者及資金捻出方法

(四)投資ノ形式(合辦又ハ借款)及經營ノ方法

771 昭和11年8月3日 在天津田尻總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

津石鐵道建設要綱案の送付について

付記 昭和十一年八月六日付移牒、永見支那駐屯軍

參謀長より西尾參謀次長宛電報

津石鐵道敷設に対するわが方援助方意見具申

等ニ付研究中ナリシカ廿一日軍側ノ外當館及満鐵側ヲ加ヘタル委員會ヲ開キ路線ハ結局石家莊ヨリ直接天津ニ結フ二百八十八杆ニ決定シ「津石鐵道建設要綱案」ヲ得中央ニ稟請スルコトトナレリ就テハ本件進展ニ伴ヒ南京ニ於ケル今後ノ折衝振殊ニ華昌公司トノ關係ニ付早目ニ本省ノ方針ヲ御決定相成リ御回示ヲ得度ク華昌トノ内部關係ニ付テハ前記要綱案ハ建設契約成立ト共ニ華昌ノ權利ヲ企業主體ニ無償讓渡セシムル様豫メ交渉スヘキ方針トナリ居レリ不取敢

支、北平、南京へ轉電セリ

(五)建設ノ方法

(六)正太及北寧トノ關係調整

(七)對支那側交渉方法

機密第六五九號

昭和十一年八月三日 (8月11日接受)  
在天津

總領事代理 田尻 愛義〔印〕

外務大臣 有田 八郎殿

津石鐵道要綱案寫送付ノ件

曩ニ電報シ置キタル津石鐵道要綱案寫送付ス

本信寫送付先 在支大使 南京 北平

昭和十一年七月二十一日  
支那駐屯軍司令部

津石鐵道建設要綱案

第一、方針

日支經濟提携ノ先驅トシテ主トシテ日本資本ニ依リ津石鐵道ヲ建設經營シ河北竜山西方面ノ經濟開發ヲ促進スルト共ニ我對支政治經濟勢力ノ礎石ヲ確立ス

道、北平、天津間 一二八八杆

第一、要領

一、路線 石家莊—河間—天津間

1 日本側

興中公司其ノ他有力ナル投資家

(一)冀察政權直營ノ場合

必要資金ハ對日借款ニ依ル之カ擔保ハ本鐵道財團(財產、收入經營權)及冀察政權ノ收入ニ屬スル鹽稅並井陘炭礦持株ヲ以テシ尙爲シ得レハ北寧鐵路對英借款期限滿了後ニ於ケル同鐵道財團ヲモ含マシム

五、投資者

1 日本側

## 2 支那側

イ、冀察政權(北寧鐵路ヨリノ投資ヲ含ム)  
ロ、民間投資家(日支合辦ノ場合)

### 六、建設

建設業務ハ合辦ノ場合ニアリテハ同會社、直營ノ場合ニアリテハ日本側指導(要衝ニ日本人ヲ配ス)ノ下ニ北寧鐵路ニ委任シ其ノ建設材料ハ主トシテ日本側ヨリ購入セシム

### 七、經營

本鐵道ノ經營ハ日支合辦ノ場合ニアリテハ企業主體、直營ノ場合ニアリテハ獨立セル管理局ヲ設置シ同局ヨリ北寧鐵路ニ委任ス

何レノ場合ニ於テモ要衝(少クモ技師長、車務處長、會計處長)ニ日本人ヲ採用セシメ技術及經營ニ關スル實權ヲ把握ス

### 第三、處置

#### 一、本鐵道ト華昌公司トノ關係

本鐵道建設契約ノ成立ト共ニ華昌公司ノ滄石鐵道ニ對スル權益ヲ企業主體ニ無償讓渡セシムル如ク豫メ交渉ス

## (付記)

天津發

參謀本部 着

津石鐵道ニ關スル冀察側ノ意向ハ別電ノ如ク速ニ之力實現ヲ要望シアリ

日本ノ資力ニ依リ本鐵道ヲ敷設スルコトハ日本ノ對支經濟政策上極メテ有利ナリ、固ヨリ政情及金融上ノ實情ヨリ推

## 三、日本側資金準備

日本中央當局ニ具申シ先ツ速ニ確實ナル資金調達ノ日途ヲ定ム  
日支聯合ノ津石鐵道建設委員會ヲ組織シ軍ノ内面指導ニ依リ合辦契約又ハ借款契約ヲ審議決定ス  
シ井陘炭礦其ノ他河北省西南部及山西省ノ東部諸礦山ノ利權獲得、沿線一帶ニ亘ル產業開發ノ指導獎勵竝山西市場ノ開拓ニ努ム

### 第四、本鐵道關聯事業

本鐵道ノ真價ヲ發揮セシムル爲速ニ白河河口ノ築港ヲ促進

シ井陘炭礦其ノ他河北省西南部及山西省ノ東部諸礦山ノ利權獲得、沿線一帶ニ亘ル產業開發ノ指導獎勵竝山西市場ノ開拓ニ努ム

## 四、華北問題

測シ此際相當額ノ對支投資ハ或ハ困難ナランモ國家永遠ノ方策ニ鑑ミ特ニ本鐵道敷設ニ關シ日本側ノ援助方容認アリ度、先般訓令セシ通り建設費約二千五百五十萬圓ニシテ全部日本借款ニ依ルモ約半額ハ現物(材料)ニ依ル借款ナルヲ以テ日本ヨリノ現金借款ハ約一千二、三百萬圓ニテ可ナリ、尙日本側投資者トシテ滿鐵カ表面ニ出ルコトハ支那側モ希望セス仍テ興中公司ヲ利用スルヲ有利ナリト思料シアリ

772 昭和11年8月6日 在洛南橋本總領事代理より

博山線沿線への電力供給のため山東省政府と

中日實業の合弁会社設立契約成立について

濟南 8月6日後發

第一四二號

中日實業ニ於テハ豫テ山東ニ於テ日支經濟提携ノ一助トシテ何等企業ヲ計畫シ居リタル處今般博山輕鐵賣却ニ關シ韓主席ノ面子ヲ立テ七八八萬元ニ讓歩セルヲ機トシ一面高木

(陸郎)ヨリ韓ニ對シ豫テ同社側腹案タリシ博山支線沿線電

化ノ爲省政府、中日合辦ニテ電燈會社設立方提言シ韓ノ贊成ヲ得爾來双方代表者間ニ具体案折衝中ノ處契約草案成リ七月七日政務會議ヲ通過同一二十五日附ヲ以テ双方代表者間ニ調印成リタリ概要左ノ通り

(一)名稱ハ魯東電力有限公司トシ資本金銀三十萬元合資組織

トシ省政府、中日双方各半額出資ス

(二)契約當事者ハ省政府側代表民政廳長李樹春、中日側代表ハ博山輕鐵總經理陳克明。トシ陳ヨリ中日ニ誓約書ヲ一札

入レ居ルモ正式契約書面ニハ中日ノ名一切出テ居ラス

(三)會社設立地點ハ南定トシ電力供給先ハ差富リ淄川、博山地方炭坑トス

四發電量ハ必要ニ應シ增加シ得ル了解ノ下ニ表面一千瓩「ワット」トス

(五)主タル職員ハ省政府側ヨリ總經理、會計主任、技師各一名ヲ推薦ス

尙本件發電機ハ差富リ青島電燈會社ノ古機械ヲ使用スル計畫ニテ近ク實地檢分ノ上計畫案ヲ立テ速ニ着工ノ意図ノ由

詳細郵報ス

支、北平、青島、天津、南京へ轉電シ博山へ暗送セリ

スヘシ)

773 昭和11年8月7日 在天津田尻總領事代理より

有田外務大臣宛(電報)

### 冀察政務委員会側で作成した津石鐵道建設計

#### 画の具体案について

付記 昭和十一年八月六日付移牒、永見文那駐屯軍

參謀長より西尾參謀次長宛電報

右計画に対する国民政府中央の反対理由

天 津 8月7日後発  
本 省 8月7日夜着

#### 第三四九號(極秘)

冀察側ニ於テハ滄石鐵道建設ニ付過般交通經濟委員會ニ具體的立案ヲ命シタルカ陳覺生力軍ニ内詰セル支那側ノ案ハ

(イ)路線ハ津石トス

(ロ)北寧ノ支線トセス特別ノ路局ヲ設ク

(ハ)日支合辦ハ体面上不可能ニ付借款ニ依リ利子年六分トス

尙滿鐵自体カ直接干與スルヲ好マス(建設費一千三百萬乃至五百萬ニシテ車輛費ヲ含メ約半額ヲ日本側ヨリ購入

天 津 発  
參謀本部 着

#### (付記)

天 津 發  
參謀本部 着

#### 津石鐵道敷設ニ關シ知リ得タル情況次ノ如シ

一、冀察政務委員會ハ滄石鐵道敷設ヲ決議シ之カ具體案作成ヲ交通委員會及經濟委員會ニ命シタリ兩委員會ハ各具體案ヲ作成シ近ク連合協議會開催ノ運ニアリ

二、陳覺生ヲ通シ知リ得タル支那側ノ計畫其次ノ如シ

(イ)冀察側ニ於テハ大体津石線ニ同意シアルモ南京側ハ之ヲ認メス滄石線ヲ企圖シアルカ如シ其理由ハ津石線ハ

奉天ヨリ石家莊へ直通スルコトトナリ日本ノ政治的軍

支、南京、北平へ轉電セリ

(イ)建設ハ南京ト無關係ニテ冀察側カ主体トナル

(ハ)滄石ノ權利ハ無價ニテ日本側ヨリ讓渡ヲ受ク

等ノ案ニテ大体我方案ニ合致セルモノナル由委細ハ軍電報

参照アリ度シ

### 冀察政務委員会の津石鐵道建設計画具体案に

#### つき意見眞申

天 津 8月7日後発  
本 省 8月7日夜着

#### 第三五〇號(極秘)

往電第三四九號ニ關シ

當方氣付ノ點左ノ通

(一)津石線ヲ北寧以外ノ名義ニテ建設ノ場合一九〇二年ノ北京山海關間鐵道還付ニ關スル英支追加協定第五條北寧線ヨリ八十哩ノ新線建設ニ關スル條項ヲ引用シ英國側ヨリ

建設當事者ニ對シ何等苦情ヲ申出テタル場合同條ノ後段ノ例示ニ見ルモ本條項ハ北寧線ノ並行線ヲ他ノモノニ建設セシムヘカラストノ精神ト解セラル處津石線ハ並行線ニアラストノ趣旨ヲ以テ反駁シ得ヘク(津石線中石家莊寄リノ半分ハ北寧線ノ何レノ部分ヨリモ八十哩以上ナリ)又同條項ニ所謂北寧鐵道行政廳ナル語ヲ以テ果シテ

北寧ノミヲ指スモノナルヤ否ヤニ付テモ相當理窟ヲ編出シ得ヘシト思考ス(本件ハ滄石契約ノ際既ニ御研究濟トノ爲約五萬圓ヲ要ス)

北寧ノ支線トルコトモ考慮シ得ヘシ

(一)華昌公司ノ権利ハ滄石ト津石トハ別個ノ路線ナリトノ建

前ニテ引續キ之ヲ南京側ニ對シ主張スル方得策カト存ス

(二)井徑炭坑ハ現在河北省政府ノ所有トナリ居ルヲ以テ之ト

ノ折衝ハ或ハ左迄困難ナキヤニモ認ムルモ鐵道建設ト並

行シテ急速工作ヲ開始スルコト肝要ナルコトハ既電ノ通

ナルカ右重ネテ軍側ヘ充分説明濟南津石建設ト同時ニ之

ヲ井徑迄延長方ニ付テハ支那側ニテモ考慮中ニテ約五百

萬元ヲ要スル由

支、南京、北平ヘ轉電セリ

775 昭和11年8月8日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫證券償還に関するわが方意向を

陸夢熊北寧鐵路副局長より照会について

上 海 8月8日後発  
本 省 8月8日後着

第六二七號  
青島發本使宛電報第一〇五號ニ關シ

三、右ニ對シ本使ハ支那側ノ右ノ如キ希望ニ對シ外務省ニ於テ如何ナル意見ヲ有スルヤ承知シ居ラサルモ本件ハ大藏省側トモ關係アル問題ナルニ付其ノ方トモ協議ノ必要アルヘク又本使トシテハ從來ノ主張タル兩國經濟提携問題ニ付其ノ内赴寧ノ上國民政府中央當局ト討議シ度キ豫定ナレハ其ノ際本件ニ付テモ併セテ相談シ度キ考ナリト答

ヘ置ケリ

四、其ノ際陸ハ濟聊線ハ既ニ路基ノ工事終リ今後營業開始(約二年後)迄ニ約六百萬元ヲ要スル旨及最近決定ノ博山輕鐵線ノ買收費ハ鐵路局員ノ養老金積立額(約二百萬元アル由)ヨリ支辨シ又之カ改築工費百萬元ハ今後二箇年間ニ鐵路局ノ一般經費ヨリ支出シ右路線ハ膠濟線中ニ包括サルル譯ニテ前顯償還金用ニハ關係ナキ由語レリ尙陸ハ數日中ニ赴寧シ又秋ニ入り一般狀況視察ノ爲渡日シ度キ豫定ナル旨語リ居タリ

北平、天津、濟南、青島、南京ヘ轉電セリ

776 昭和11年9月1日 在中國武藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員会交通委員会において津石鐵道  
敷設案を裁可決定について

北 平 9月1日夜發  
本 省 9月1日後發

第四四四號(極秘)

客月廿九日陳覺生館員ニ對シ津石鐵道案同日交通委員會ヲ

七日陸夢熊本使ヲ來訪シ

一、陸ヨリ膠濟鐵道國庫證券ノ償還期切迫ニ伴ヒ同鐵路局ニ

テハ之力償還問題ニ關シ屢打合ヲ爲シタルカ一方鐵道部側ハ之力具体案ノ作成方同鐵路理事會ニ一任シアルニ付

尙引續キ研究討議ノ必要アル處本件ハ支那側ノ一方的研究ヨリモ豫メ日本側ノ意嚮ヲ承知シタル上研究スルコト

好都合ナリト思考ストテ本使ノ意見ヲ求メタルカ

二、本使ハ鐵路局側ノ既往協議ノ結果如何ヲ質シタルニ陸ハ目下進行中ノ延長線問題ハ本件償還問題ト密接ナル關係

アリ支那側ニテハ償還金ノ一部又ハ全部ノ償還延期ヲ願ヒ償還積立金(現在約七百萬元アル由)(ヲ)延長線ノ方ニ流用シ度ク又延期期間ノ利息ハ現在ノ率ヨリ安クシテ貰ヒ度キ希望ナリト述ヘタリ

三、右ニ對シ本使ハ支那側ノ右ノ如キ希望ニ對シ外務省ニ於テ如何ナル意見ヲ有スルヤ承知シ居ラサルモ本件ハ大藏省側トモ關係アル問題ナルニ付其ノ方トモ協議ノ必要アルヘク又本使トシテハ從來ノ主張タル兩國經濟提携問題ニ付其ノ内赴寧ノ上國民政府中央當局ト討議シ度キ豫定ナレハ其ノ際本件ニ付テモ併セテ相談シ度キ考ナリト答

三、通過セル旨内話セルニ付右内情ニ付當地特務機關ニ就キ取調ヘシメタル處本件ニ付テハ冀察内部一部ハ南京ノ意圖ヲ受ケ滄石線ヲ主張シ一部ハ軍側ノ意圖ヲ受ケ津石線ヲ主張シ容易ニ決定ニ至ラサリシ處最近陳覺生一派ノ策動ニ依リ陳交通委員會主席及鉛經濟委員會主席代理ヨリ津石線適當ナルヘキ旨宋哲元ニ進言シ宋ノ容ル所トナリ交通委員會ニ諮詢ノ結果右二十九日ノ同委員會ニ於テ採擇ヲ見ルニ至リタル趣ナリ右決定案内容大要左ノ如シ

一、路線ハ石家莊、天津間トスルコト  
二、津石鐵路局ヲ創設スルモ經營ハ北寧鐵路ニ委任セラルヘキコト  
三、經費ハ「ローリング、ストツク」ヲ加ヘ大体二千三百萬圓ナルコト  
尙冀察部内ニハ本鐵道ノ敷設ニ依リ日本軍ハ滿洲ヨリ直接石家莊迄輸送セラルルコトトナルヲ理由トシテ反對シ居ル者相當アル趣ナリ

支、南京、天津ヘ轉電セリ

777 昭和11年9月2日 在中國武藤大使館一等書記官より  
冀察政務委員會經濟委員會において津石鐵道

敷設案は敵國を利する案との理由により否決

について

膠濟鐵道國庫証券償還問題や同鐵道延長線問題に関する葛光廷内話について  
(9月8日接受)

機密大第四八八號

昭和十一年九月二日

在中華民國

特命全權大使 川越 茂〔印〕

川越大使葛光廷會談錄

北平 9月2日後發  
本省 9月2日夜着

第四四九號(極祕)  
往電第四四四號ニ關シ

津石鐵路案客月三十日經濟委員會ニ附議セラレタル處平綏  
鐵路局長張維藩ハ軍事上、經濟上及技術上ヨリ見滄石案ハ  
津石案ニ遙ニ優リ津石案ハ要スルニ敵國(日本ヲ指ス)ヲ利

スル爲ノ漢奸(陳覺生一派ヲ指ス)ノ案ニ過キスト痛烈ニ非

難シ鈕同委員會主席代理等モ如何トモスル能ハス結局同案

ハ葬リ去ラレタル趣ナリ

支、南京、天津へ轉電セリ

778 昭和11年9月2日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛

(別紙)  
川越大使葛光廷會談要領  
(昭和十一年八月十五日於膠濟鐵路局)  
本使北支出張ノ際八月十五日青島ニ於テ膠濟鐵路管理委員  
長葛光廷ト會談セルカ要旨別紙ノ通り何等御参考迄報告ス  
本信寫送付先 北平 青島 南京 天津 濟南

建設スルコトナリタルヤノ趣ノ處會社ハ既ニ成立セリヤ  
定ノ旨ヲ答フ

次テ濟聊延長線問題ニ付大使ヨリ會社ヲ設立シテ延長線ヲ  
建設スルコトナリタルヤノ趣ノ處會社ハ既ニ成立セリヤ  
博山輕鐵買收問題ニ付キテハ大使ノ質問ニ對シ葛ハ買收決

定ノ旨ヲ答フ

次テ濟聊延長線問題ニ付大使ヨリ會社ヲ設立シテ延長線ヲ

建設スルコトナリタルヤノ趣ノ處會社ハ既ニ成立セリヤ

ト質問セラル

右ニ對シ葛ハ會社ハ未タ成立セス本來會社ヲ設立シ理事ノ  
選舉株式ノ募集等ヲ終リテ後建設ニ取掛ルヘキ理ナルモ今  
次ノ延長線建設ハ急ヲ要スルニ付鐵道部ヨリ建設ヲ膠濟鐵  
路局ニ命令シ來レリ(大使ノ質問ニ對シ右命令ノアリタル  
ハ約一ヶ月前ナルコト及建設後ノ經營ノミナラス建設自体  
ヲ委任シ來レルモノナルコトヲ説明ス)延長線路線ハ既ニ  
測量濟ナルモ右命令ノ結果目下細密測量中ニシテ八月中ニ  
終了ノ筈ナルカ細密測量ハ勾配其ノ他ヲ計算ノ上建設ニ着  
手スル筈ナリト答フ

次ニ葛ヨリ國庫證券ノ期限ハ明年末ニ迫リ居ル處之ニ關シ  
テハ坂根、田尻、西各總領事ニモ屢々御話申上ケ居ル通り  
支那側トシテハ返還スヘシトノ御意嚮ナラハ明年末ニ貯マ  
ルヘキ積立金一千萬圓ノ外三千萬圓ヲ調達セサルヘカラス  
返還ヲ要セストノコトナラハ他ニ流用シ度キ考ヘニテ何レ  
ナリトモ日本側ノ意嚮ヲ明確ニ承リ置キ度シト述ヘ之ニ對  
シ大使ハ桑島局長ハ何ト言ハレタルヤト質問セラレタル  
葛ハ同局長ハ外務省ノ意見ハ承知セサルモ個人トシテハ返  
ス必要ナカルヘシトノ御意嚮ナリキト答フ

次テ大使ヨリ先刻御話ノ會社設立ニ先チ建設ニ着手スル云々  
ノ點ニ更ニ説明ヲ求メラレタル處葛ハ會社設立ハ浙贛鐵道  
ノ例ニ做ヒ山東省政府ニ於テ會社ヲ設立シ建設ヲ行ヒ度シ  
トノ意見ナリシニ出發スルモノナリト答ヘ大使ヨリ更ニ本  
使青島在勤當時ハ貴委員長ハ鐵路局ニテ延長線ヲ建設セム  
トノ御考ヘナリシニ非スマト質問セラレル葛ハ之ニ對シ膠  
濟鐵路トシテハ人件費等モ嵩ミ延長線ヲ建設シテ收入ヲ増  
加スル必要アリト考ヘ居タルカ其ノ後ノ日支關係ヨリ實行  
不可能トナリエ即チ鐵路局カ延長線ヲ建設スルコトナラ  
ハ日本ノ權利ノ伸張ナリトテ黨部其ノ他ニ反対ヲ唱フル向  
モアルヘク會社ヲ設立シテ表面ハ別箇ノ組織トスルコトヲ  
可トスト考フル旨ヲ答ヘ大使ヨリ別箇ノ組織トスルハ人件  
費其ノ他ノ節約トハナラサルヘシト質問セラレタルニ對シ  
別箇ノ組織トスルモ事實ハ膠濟力委任ヲ受ケテ經營スルモ  
ノナルニ付其ノ心配ナカルヘシト答フ

大使ヨリ自分ハ日本ノ協力ニ依リ支那ノ經濟開發ヲ爲スコ  
トハ日本ノ希望スル所ナルノミナラス貴國並ニ貴國民ノ爲  
トモナルコトナレハ日支國交調整ハ經濟的合作ヨリ始メサ  
ルヘカラスト考ヘ居リ膠濟鐵道ノ延長線ノ如キモ貴方カ日

本ノ権利ノ延長ヲ云タシテ日本ノ協力ヲ排斥スルカ如キ態度ニテハ日本ノ一部ニテハ之ヲ以テ日支經濟合作ヲ不可能ナラシムル一證左ト見做スモノモアルヘント述ヘラレ葛ヨリ國交調整ニ付キテハ先般來青ノ張群ヨリモ話ヲ聞キタルカ支那側ハ貴大使ノ御盡力ニ期待シ居レリ膠濟鐵道問題ニ付日本ノ協力ヲ排斥スルカ如キ考ヘハナキモ目下ノ情勢ニテハ反對者ニ口實ヲ與フルカ如キ形ヲ避クルヲ要スヘントノ趣旨ヲ述ヘタルニ對シ更ニ大使ヨリ前言ヲ敷衍セラレ北支旅行後上海ニ歸リタル上ハ南京ニ赴キ蔣行政院長等ト國交調整ニ付會談スル所存ナルカ其ノ際ハ前記ノ趣旨ニテ經濟開發殊ニ交通機關ノ開發ヲ日本ノ協力ニ依リテ爲スコトカ國交調整ノ第一步ナルコトヲ説明スヘク蔣行政院長モ必ス之ニ共鳴セラルヘシト思考シ居ルカ膠濟延長線問題及國庫證券償還問題ノ如キモ其ノ最モ適切ナル一事例トシテ之ニ言及スル所存ナリ貴委員長モ右兩問題カ國交調整ノ一部分ナルコトヲ念頭ニ置カレテ處理セラレ度シトノ趣旨ヲ述ヘラレ葛ヨリ國交調整ニ對スル貴大使ノ御盡力ニ期待スル旨ヲ再言シテ會見ヲ終ル

## 追記

北平發閣下宛電報第四四九號ニ關シ  
五日張公權ト會見ノ際張ヨリ津石鐵路建設案ヲ冀察經濟委員會ニテ討議シ居ル處右ハ甚々面白カラサルニ付何トカ出來マシキヤ此ノ點自分ノ地位ヲモ救フ意味合ニテ中央ト話合ハル様考慮アリ度シト申出テタルニ付本官ヨリ同線ハ北方ノコト故華北問題全般ト關聯シ大局上ヨリ考慮ノ上經濟委員會ヲシテ實施セシムルコト然ルヘク我方ニハ毫モ張ヲ窮地ニ陥ルル意ナシト答へ置キタリ  
支、北平、天津へ轉電セリ

~~~~~

779 昭和11年9月5日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)
冀察政務委員会が津石鐵道敷設計画を進めて
いることに關し国民政府中央と交渉あるよう
張公權要請について

南京 9月5日後発
本省 9月5日夜着

第六四二號

青島發閣下宛電報第一五一號ニ關シ

780 昭和11年9月5日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)
膠濟鐵道國庫証券の償還期限における一部償
還および右償還金の同鐵道延長線への再投資
に關する張公權提案について

南京 9月5日後発
本省 9月5日夜着

第六四四號

本五日張公權ハ膠濟線延長問題ニ關シ進ンテ口ヲ開キ本日葛光廷ヲ招致シ話ヲ聽キタル結果ニ基キ内密相談致度シト前提シ極秘ナルカ支那側ニハ他ヨリ借款シテモ本件國庫證券ヲ完濟セヨトノ主張重キヲ爲シ居ル事情モアリ無理ヲシテハ立案シ難キ故左ノ通リノ案ニテ解決方考慮シ居ル處出來得レハ右ヲ本官ノ試案トシテ日本側ノ意嚮ヲ探リ吳レマシキヤト申出テタリ

(一) 四千萬圓中一千萬圓(目下積立金七百萬元アリ残り三百萬元ハ銀行ヨリ借入ル)ヲ償還シ殘リ三千萬圓ハ現取組
大使再度青島立寄ノ際八月二十八日葛光廷及陸夢熊大使ヲ來訪再ヒ國庫證券ノ償還期限延長問題ヲ持チ出シ償還期限モ差迫リ居ルニ付延期シテ戴キ得ルモノナリヤ否ヤ判明セサレハ自分等トシテ何ノ計畫モ出來ス何トカ日本政府ノ御意嚮ヲ明瞭ニシ戴キ度シトノ趣旨ヲ述ヘタルヲ以テ大使ヨリ期限切迫シ居レリト言ハルルモ未タ一ヶ年四ヶ月アリ此處數ケ月中ニ決定セハ可ナルヘク又元來本問題ハ此處(青島)ニテ貴委員長ト御話スルモ何等決定シ得ルモノニ非ス本使ニ於テ近ク赴寧ノ上ハ他ノ諸案件ト共ニ本問題ニ付キテモ南京當局ト折衝スル所存ナルニ付今暫ク待タレ度シト答ヘ葛モ之ヲ諒承セリ尙其ノ際葛ハ延期ノ場合ノ利率ノ減額方ニモ言及セルニ付大使ヨリ近來鐵道部カ新債ヲ起ス場合ニモ大体年利六分以上ナルヤニ承知シ居リ旁支那ニ於ケル公債借款ノ利率トシテ六分ハ不合理ニ非サルヘシト應酬セルニ葛ハ過古ニ於テ不拂ヲ續ケ來レル舊債サヘ其ノ整理ニ當リ著シキ利率ノ減額ヲ受ケ居ルニ付忠實ニ利拂ヲナシ來レル債務ニ付キテハ猶更利率ノ減額ヲ御考慮願度シト述べタル趣ニシテ大使ハ貴委員長ノ御希望ハ政府ニ傳達致シ置クヘシト述ヘ置カレタル趣ナリ

~~~~~

(一) 四千萬圓中一千萬圓(目下積立金七百萬元アリ残り三百

萬元ハ銀行ヨリ借入ル)ヲ償還シ殘リ三千萬圓ハ現取組

通リノ條件ニテ更ニ向フ十五箇年間續借ス

但シ利子ハ支那側ノ面子モアリ多少減額サレ度シ

(二)右一千萬圓ノ償還金ヲ以テ延長線建設ニ要スル材料購入ノ「クレヂット」ヲ設定アリ度ク右ニ對シテハ延長線將來ノ收益ヲ以テ擔保トス

(三)延長線會社(聊濟鐵路建設公司)ト膠濟鐵路局ハ當初ハ葛光廷ヲシテ前者ノ監事長ヲ兼任セシムルコトトシ行々前者ヲ後者ニ合併セシメ實質上兩者ヲ日本側ニ對シ一律擔保ノ地位ニ置ク

支、北平、天津、青島、濟南ニ轉電セリ

昭和11年9月22日 在天津堀内總領事宛(電報)

時局委員会において津石鐵道建設方針決定について

別電 昭和十一年九月二十二日発有田外務大臣より  
在天津堀内總領事宛第二三三号

右方針

本省 9月22日後0時10分発

第二二二號(極秘)

津石鐵道建設ニ關シ廿一日時局委員會ノ議ヲ經關係各省間ニ於テ別電第二二二號ノ通決定セルニ付テハ貴地軍側トモ御連絡ノ上御措置相成度資金關係ニ付テハ更ニ當方ニ於テモ研究ヲ進ムル筈ナリ

別電ト共ニ支、北平、南京へ轉電セリ

本省 9月22日後0時30分発

1050

(欄外記入)  
(一)路線、石家莊天津間  
(二)交渉相手、冀察政權

(三)企業主体、冀察政權ノ特許ニ依ル日支合辦事業トス  
(四)出資方式、資本ノ構成ハ日支兩國ノ折半トシ日本側ハ材料及現金出資、支那側ハ現物及現金出資トス、但シ支那側ノ現金出資ハ止ムヲ得ザレバ日本側ヨリ貸付ク  
(五)建設、本合辦會社ニ於テ日本側指導ノ下ニ行ヒ其ノ建設材料ハ原則トシテ日本側ヨリ購入セシム

(六)經營、要衝ニ日本人ヲ採用セシメ実權ヲ把握ス

(七)滄石鐵道トノ關係、新鐵道ノ建設ヲ促進シ竝ニハノ目的

ヲ達成スル爲、今後共冀察側ヲ督勵ノ要アル次第ナレハ滄石鐵道ニ關シ從來日本側ノ主張シ來レル權益ハ今直チニ本合辦會社ニ無償讓渡セサル建前ヲ持ス但大体新鐵道ハ滄石鐵道ノ變形ト看做シ得ヘキニ付本條件ニ依ル建設及ハニ付目的達成ノ上ハ之ヲ無償讓渡スルモ差支ナシハ對井陘炭礦工作、本鐵道ノ價值ヲ十分ニ發揮セシムル爲少クトモ滄石鐵道建設契約ニ附屬スル石炭依託販賣契約程度ノ權利ヲ確保スルヲ要ス

(欄外記入)

昭和十一年九月廿一日時局委員會ニ於テ決定

昭和11年9月22日 在青島西總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道延長線建設をめぐる中國側動向につ

き情報報告

青島 9月22日後發  
本省 9月22日夜着

(2)葛ハ九月七日南京ヨリ歸任後大石ノ質問ニ對シ延長線ノ爲新會社成立セハ會社側理事等ノ干涉ヲ受ケ五月蠅キ故

1051

會社成立ヲ成ルヘク遲ラカシ膠濟側ニテ勝手ニ工事ヲ進メ度シ膠濟側ヨリノ出資(古材料及積立金)ヲ新會社ヘノ貸付トスルカ或ハ持分トスルカハ新會社成立後ニ決定シ差支ナカルヘシ云々ト語リ且夫レ迄ノ積立金等ノ流用方ニ付本官ノ意図ヲモ確メタル上具体案ヲ作成シ置クヘキ旨命シタル由

## 三、延長線ノ經路ニ付テハ本官ヨリ從來屢葛ニ念ヲ押シタル

ニ其ノ都度濟南、彰德間ナリト明答シタルカ(支線ハ聊城、臨清間及大名、道口鎮間ニ二線)最近道清鐵道ニ依ル内。黃迄ノ延長線工事開始云々ノ新聞報道モアリ(八月三十日附支發大臣宛公信大第四七九號)十一日崔士傑ニ質シタル處同人ハ今日迄確定セル延長線ハ大名迄ニシテ大名、彰德間ハ未定ナリ尙道清延長線ノ記事ハ同鐵道側ノ宣傳ナラン大名、道口鎮間ヲ膠濟又ハ道清何レノ局ニテ建設スルヤハ從來兩鐵道間ノ爭トナリ居ルカ中。福公司ノ運炭貨支拂スラ滯リ居ル道清側ニ於テ本年中ニ延長線ヲ作ルカ如キハ想像サレスト語レリ

四、津浦線桑梓店驛附近ヨリ聊城ニ至ル延長線土盛工事(濟南宛往電第一八號)ハ八月下旬天津出張ノ際本官等モ目

支、北平、天津、濟南、南京へ轉電セリ

783

昭和11年9月23日

在青島西總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道延長線敷設に関する張公權提案を契機として延長線問題の根本的解決を図りたく

## 交渉具体案につき請訓

青島 9月23日後発

本省 9月23日後着

(1) 第二〇五號(極秘)  
南京發貴大臣宛電報第六四四號ニ關シ

一、膠濟延長線問題最近ノ成行等ハ別電第二〇三號ノ通リナルカ鐵路局側ハ建設費捻出ニ付尙確タル見据着カサルニ苦慮シ從來ノ九月着工豫定ヲ變更シ最近ハ豫定線路ノ精

密測量未了ニ名ヲ藉リ外部ニハ十月着工說ヲ唱ヘ居ル有様ニテ近ク積立金流用ノ日暮着カサルニ於テハ他ヨリ資金ヲ持來ルコトナルカ(我方トシテハ之カ阻止ニ努ムヘキハ勿論ナリ)或ハ一時工事開始ヲ拋棄スルコトナルヤモ知レス右ノ如キ場合ニハ國庫證券償還延期問題等ニ付相當世論ヲ惹起シ爲ニ同問題ノ圓滑ナル交渉進捗ニ對シ内外ノ支障起ルコトナキヲ保セサルヘシ

二、積立金ノ一時流用方ニ付テハ本官ニ於テ今後如何ニ努力スルモ國庫證券延期ノ根本問題カ解決スルカ又ハ少クト

モ右解決ノ望確實ナリトノ印象ヲ與ヘサル限り支那側

(殊ニ南京政府)ニ於テ容易ニ右流用ノ決心着キ兼々ヘキコトハ今日迄ノ當地交渉ニ依リ略明瞭ニ觀取セラル所ナルカ(別電(一)參照)今般國庫證券問題ニ關シ張部長ノ須磨總領事ニ示セル案(冒頭電報)ハ延長線上ニ我擔保權ヲ認ムル點ニ於テ從來ノ支那側態度ニ比シ著シく讓歩的ナルノミナラス「クレジット」資金設定ノ如キモ將來ノ活

用如何ニ依リテハ單ナル積立金使用ニ比シ却テ興味アルヤニ認メラレ之ニ左記諸條項ヲ取捨按排スルニ於テハ我方トシテモ今日ノ情勢下ニ於テハ相當滿足スヘキ解決案

(4) 我方要求ヲ擴大シ利子引下ヲ承認スルト共ニ嘗テ殷同ノ本官ニ内話セル案(往電第八七號)又ハ公有財產國庫證券未拂分ニ付膠濟鐵道ヲ擔保トスル案等ヲ加味セシ

ムルヲ得ハ更ニ妙ナリ

三、尙別電<sup>(2)</sup>ノ積立金流用方法ニ付テハ近ク本官ヨリ大石ニ

指示ヲ與フル要アル處別電<sup>(2)</sup>葛ノ言ノ通り今直ニ新會社

ヲ設立セサル場合ニハ貴信亞一機密公第一八一二號ノ往復

文書案ヲ其ノ儘採用シ難キニ付之ヲ左ノ趣旨ニ書改メ之

カ應諾方交渉シ差支ナキヤ葛委員長近ク北平ヨリ歸任ノ

筈ニ付何分ノ儀御回電請フ

「右材料及積立金力延長線ニ使用セラル場合ハ膠濟鐵

道ニ對スル我方ノ擔保權ハ當然延長線ニ及フモノナリト

ノ解釋ヲ採リ右ノ趣旨ヲ前記往復文書中ニ明記シテ(將

來ニ於ケル新會社設立ハ之ヲ豫想セサル書振トス)積立

金等ノ流用ニ同意スルコト」

編注 本請訓に対し、昭和十一年九月二十八日發有田外務大臣

臣より在青島西總領事宛電報第一〇九号を以て、「貴

電第二〇五號ノ三ニ關シ差支ナシ」と回訓された。

784 昭和十一年十月八日

在天津堀内總領事より

有田外務大臣宛(電報)

第四六二號(極秘)  
貴電第二二一一號ニ關シ(津石鐵道建設方針ニ關スル時局委員會決定)

有田外務大臣宛第四六二號  
右借款契約案

天 津 10月8日後発  
本 省 10月9日前着

電第二二二號ノ三(合併案ハ冀察側ニテ南京ノ承認ヲ取付クルコト絕對ニ不可能ナルノミナラス鐵道ニ關スル限り現在他ニ例ヲ見サル外支合併案ニ對シテハ冀察自身トシテモ承諾極メテ困難ナルヘク假ニ之ヲ强行受諾セシメタリトスルモ冀察ハ主權喪失ノ非難ニ對シ立場ヲ失ヒ延イテハ之ニ引續ク經濟開發諸問題ノ折衝ニ支障ヲ生スヘク一方一旦正式ニ合併案ヲ持出シ冀察側應諾セサル結果妥協シテ借款ニ落着クカ如キコトアランカ

今後是非共合併ヲ主張スルノ要アル事業(例へハ航空)ニ付

テモ冀察側ハ必スヤ之ヲ駆引ト取り結局總テ借款ナラサレ

ハ成立シ難キ破目ニ陥ルヘク斯テハ今後ノ經濟合作上一大

暗影ヲ投スルニ至ル惧アリ此ノ際津石鐵道ニ關シテハ内容

ニ於テ合併ト大差ナキ程度ニ我方ノ權限ヲ認メシムル借款

契約案一本檜ニテ押進ムコト情勢ニ適應ストノ意見大多數

ヲ占メ當方トシテモ右案ヲ支持シ來レル次第ナルニ付右御

含ノ上本案承認方御詮議アリ度ク尙陸軍電ヲモ御參照アリ

度シ(海軍武官ヨリモ同趣旨電報ノ筈ナリ)

本電別電ト共ニ支、北平、南京へ轉電セリ

(別 電)

天 津 10月8日後発  
本 省 10月9日前着

第四六三號(極秘)  
一、興中公司ハ建設資金ニ千五百五十萬圓ヲ冀察政務委員會

ニ貸款ス

三、委員會ハ契約締結後直ニ津石鐵道建設事務局ヲ設置ス

二、委員會ハ事務局監督ノ下ニ興中ヲシテ建設ヲ請負ハシム

津石鐵道建設借款契約案につき承認方請証

別 電 昭和十一年十月八日發在天津堀内總領事より

有田外務大臣宛第四六二號

右借款契約案

天 津 10月8日後発  
本 省 10月9日前着

二、本鐵道建設中ノ資金ハ興中ニ預ケ置キ興中ハ之ニ對シ  
年七分ノ利子ヲ支拂フ

~~~~~

785 昭和11年11月25日 有田外務大臣より
在天津堀内總領事宛(電報)

龍煙鐵鉱調査のため日本国内より技師派遣について

付記一 昭和十一年七月十日付、東亞局第一課曾禰事務官作成

「華北煤鐵公司設立案ニ關スル意見(未定稿)」

二 作成者 作成年月日不明

「華北煤鐵公司設立案」

三 昭和十一年七月十五日付、東亞局第一課曾禰事務官作成

「華北煤鐵公司設立計畫ニ關スル意見追補(井陥炭礦問題)」

本省 11月25日後6時30分發

第三〇一號

支 北平 南京へ轉電セリ

(付記一)

華北煤鐵公司設立案ニ關スル意見(未定稿)

十一、七、十 曾禰

一、同案、方針、ニ付テハ鐵礦石ノミナラス銑鐵ノ供給ヲモ
爲スコトハ製鐵國策上果シテ如何ナルモノナリヤ、或ハ
對蘇作戰上北支ニ於テ銑鐵迄ノ作業ヲ爲シ置ク必要アリ
トノ論據ニテモアル次第ナリヤ、假リニ銑鐵迄ノ作業ヲ
爲シ置クコト望マシキニ於テモ之カ費用等ニ付テ一考ヲ

要セサルヤ此等ノ點ニ關シテハ商工省側ノ意見ヲモ徵ス
ルコト必要ナルヘキ處軍側ニ於テ直接連絡シ居ラサルニ
於テハ時局委員會ニ臨時委員ヲ出サシムルコト可然
尙銑鐵及鐵礦ノ供給ハ日本内地ニ對シテ爲スコトトナリ
居ル點(三、要領二)ニ注意ヲ要ス

二、本案ニ於テ日英提携ヲ考慮セルハ龍煙鐵礦ノ鐵礦ト開灘
炭礦ノ石炭トヲ以テ銑鐵製造ヲ爲シ併セテ北寧鐵道及秦
皇島埠頭設備ヲ利用シ同港ヨリ輸出セムトスルコトニ因
ルモノト認メラルル次第ナルカ(歴史ニ徵スルニ龍煙ト
開灘ノ合作問題ハ嘗テ相當進捗セルコトアリ)若シ銑鐵
製造ヲ見合ハスニ於テハ積出港ヲ矢張り秦皇島トスヘキ
ヤ或ハ天津附近トスヘキヤノ問題ハ殘ルモ開灘炭礦トノ
合作問題ハ自然消滅スル譯ナリ

三、支那ニ於ケル日英提携ニ付テハ「リースロス」ニ對スル
應酬振記載ノ如ク要スルニ日本カ主トナルコト必要ナル
次第ナルカ本案ノ如ク華北煤鐵公司ヲ日英支合辦ニテ資
本金ヲ一億圓トシ英國側ヨリ開灘炭礦ニ關スル英國側ノ
出資(秦皇島港灣設備ヲ含ム)及北寧鐵路ニ對スル英國側
利益ヲ全部華北煤鐵公司ニ出資セシムルモノトセハ_{〔省略〕}別紙

員會ニ於テ商工省技師ノ出席ヲモ求メ其ノ意見ヲ徵セルカ
先ツ本鐵礦石ノ品位調査ノ爲日本製鐵ヨリ技師ヲ現地ニ派
遣研究セシムルコト然ルヘント云フニ意見一致ヲ見日鐵ハ
今般技師林正樹、内山秀信、技手鶴田豊、參事島田守常ヲ
出張セシムルコトニ決定一行ハ二十四日門司發、二十七日
貴地着ノ豫定ナルニ就テハ軍側トモ御連絡ノ上可然便宜供
與相成度尙八幡製鐵所技師長鵜飼新吾モ遲レテ赴津ノ豫定
ナリ

龍煙鐵礦ノ開發ニ關シテハ客月末池田參謀上京ノ節時局委
員會ニ於テ商工省技師ノ出席ヲモ求メ其ノ意見ヲ徵セルカ

先ツ本鐵礦石ノ品位調査ノ爲日本製鐵ヨリ技師ヲ現地ニ派
遣研究セシムルコト然ルヘント云フニ意見一致ヲ見日鐵ハ
今般技師林正樹、内山秀信、技手鶴田豊、參事島田守常ヲ
出張セシムルコトニ決定一行ハ二十四日門司發、二十七日
貴地着ノ豫定ナルニ就テハ軍側トモ御連絡ノ上可然便宜供
與相成度尙八幡製鐵所技師長鵜飼新吾モ遲レテ赴津ノ豫定
ナリ

果シテ右ノ如キ日本側トノ合作ニ應スルヤ又日本側トノ
合作ハ可ナリトスルモ南京ヲ顧慮スルコトナク華北政權
側トノ合作ニ應スルヤニ付多大ノ疑問アリ

況ソヤ開灘及龍烟ニ對スル支那側ノ權利モ主トシテ南京
系ナルニ於テヲヤ

五、要スルニ本件華北煤鐵公司設立計畫ハ銑鐵製造ヲ前提ト
スル關係上龍烟鐵礦ト開灘炭礦トノ提携從テ英國側トノ
合作ヲ考慮セルモノナルカ北支ニ於ケル此ノ種日英提携
ハ大局上不可ナラスト雖モ前記三ノ如ク我方ノ出資能力
如何ニ依リテハ相當考物ナル外英國側トシテハ南京ニ對
スル關係ヲ考慮セスシテ華北政權及日本ト合作スルコト
ハ困難ナルヘシ尤モ開灘側カ嘗テ龍烟トノ合作ニ依リ製
鐵事業ヲ起サムト試ミタルコトアル次第ナルヲ以テ商業
的基礎ニ於テハ話合成立ノ可能性アルヘシ

六、此ノ意味ニ於テ煤鐵公司ト開灘トノ關係ハ此ノ際一舉ニ
公司ニ於テ開灘ヲ包接スルコトナク差當リ公司ノ運營ニ
必要ナル限度ニ於テ開灘側ヲシテ過半數以下ノ公司株ヲ
保有セシムルト共ニ之ト交換的ニ新公司ニ於テ開灘側ノ
株ヲ取得スルカ乃至ハ開灘側ヲシテ公司經營ニ必要ナル
ハ困難ナルヘシ尤モ開灘側カ嘗テ龍烟トノ合作ニ依リ製
鐵事業ヲ起サムト試ミタルコトアル次第ナルヲ以テ商業
的基礎ニ於テハ話合成立ノ可能性アルヘシ

七、開灘支那側トノ關係ハ開平ヲシテ適宜調整セシムルコ
トトシ我方直接ノ交渉相手ハ開平側トスレハ可ナルヘシ
尙開灘支那側トノ關係ハ開平ヲシテ適宜調整セシムルコ
トトシ我方直接ノ交渉相手ハ開平側トスレハ可ナルヘシ
（英國側ノ出資ヲ右ノ如ク限定スルニ於テハ北寧鐵道關
係ニ於テ百万磅ノ出資ハ皆無トナリ又開平關係ニ於テ秦
皇島埠頭設備等ヲ主眼トシ假リニ全投資額ノ三分ノ一即
ハ三十萬磅約一千三百二十萬元トナルヘシ）

八、此ノ意旨主トシテ英國側相手ノ折衝ナルヲ以テ出先外
務陸軍官憲指導ノ下ニ適當ナル實業家ヲ以テ之ニ當ラシ
ムル外必要ニ應シ倫敦ニ於テモ交渉ヲ爲スモノトス、而
シテ本件交渉ニ當ル我方實業家トシテハ興中公司ハ未タ
信用資格等充分ナラサル外適當ナル人物ナカルヘキヲ以
テ引受クルコト

九、英國ノ支那ニ於ケル既得ノ權益ヲ積極的ニ排除スルコト
ヲ爲サス寧口之ヲ利用シ相提携シテ支那ノ開發ヲ圖ルト
同時ニ日支關係ノ改善ト我經濟的進出ヲ促進スルノ途ヲ
講スルコト

三、要 領

一、華北煤鐵公司ヲ設立シ、開平又ハ灘州ニ一大製鐵工場ヲ
起サシメ第一期計劃トシテ銑鐵五十萬噸及鐵礦三百萬噸
ヲ日本内地へ供給スルコト

二、華北煤鐵公司ハ日英支合辦ニテ資本金ヲ壹億圓トシ、日
英支共同出資スルモノトシ支那（冀東）法人組織トルコ
ト

支那側ノ都合ニヨリテハ一部又ハ全部ノ出資ヲ日本側ニ
於テ引受クルコト

三、製鐵原料ハ龍煙鐵礦及開灘炭礦ヲ使用スルコトトシ、各
現物出資トシテ華北煤鐵公司ニ提供セシムルコト

英國側ノ保有スル北寧鐵路及秦皇島港灣ニ關スル一切ノ
權益亦之ニ準スルコト

四、現物出資ハ日英支三國ヨリ委員ヲ選出シ最公平ニ之ヲ評
價セシムルコト

限度ノ現物ヲ公司ニ提供セシムルコトヲ以テ満足シ得ヘ
シト思考ス

而シテ北寧鐵道ニ付テモ此ノ際必シモ中英公司及衛德
公司ノ借款ヲ新公司ノ株券ニ引換ヘ以テ英國側ノ公司ニ
對スル資本出資額ヲ大ナラシムル必要ナク右英國側債權
ハ債權トシテ北寧鐵路側乃至ハ南京交通部ノ負擔ニ殘シ
置キテ一向差支ナシト認メラル

（英國側ノ出資ヲ右ノ如ク限定スルニ於テハ北寧鐵道關
係ニ於テ百万磅ノ出資ハ皆無トナリ又開平關係ニ於テ秦
皇島埠頭設備等ヲ主眼トシ假リニ全投資額ノ三分ノ一即
ハ三十萬磅約一千三百二十萬元トナルヘシ）

（付記二）

一、方 针

一、我邦ニ於ケル原料政策特ニ重工業原料確保ノ急務ナルニ
鑑ミ鐵鋼自給策ヲ樹立スルコト

二、北支ニ於ケル資源ノ開發、經濟ノ伸展ヲ企圖スル爲メ先
ツ鐵礦資源ノ開發ニ着手シ日本内地ヘ鐵礦石及銑鐵ヲ供
給スルコト

華北煤鐵公司設立案

一、我邦ニ於ケル原料政策特ニ重工業原料確保ノ急務ナルニ
鑑ミ鐵鋼自給策ヲ樹立スルコト

二、北支ニ於ケル資源ノ開發、經濟ノ伸展ヲ企圖スル爲メ先
ツ鐵礦資源ノ開發ニ着手シ日本内地ヘ鐵礦石及銑鐵ヲ供
給スルコト

三、冀東冀察兩政府ニ於テハ本件施設ニ伴ヒ必要トスル既設鐵路ノ改良、新鐵路ノ敷設、秦皇島港灣設備ノ改良等ヲ行フコト、但之ニ要スル資金ハ日本側ヲシテ提供セシム

タランマルコト
一、華北煤鐵公司設立ニ關シテハ興中公司ヲシテ日本側代表スルコト同時ニ開灘炭礦當局者ト速ニ交渉ヲ開始スルコト

(付記三)
華北煤鐵公司設立計畫ニ關スル意見追補(井陘炭礦問題)
十一、七、十五、曾禰

三、天津軍ハ冀東冀察兩政府當局ト接衝シテ鐵礦ノ開發、鐵路ノ改良、新設等ノ件ニ付適當ノ措置ヲ講セシムルコト

四、萬一ノ場合ヲ考慮シ興中公司ヲシテ他ノ製鐵用炭礦(例井陘炭礦)ノ獲得ニ付工作ヲ爲サシムルコト

五、本件ハ祕密ヲ嚴守スルノ必要アルト同時ニ日本側カ各機關ハ特ニ緊密ナル聯絡ヲ圖ルヲ要スルヲ以テ陸軍外務ノ中央部ニ於テハ天津總領事、天津軍、關東軍、滿鐵、興中公司等ヲ指導シテ遺憾ナカラシム様豫メ適當ノ措置ヲ講スルコト、

以上

スルコトトナラハ製鐵所ノ所在及積出港ノ位置迄モ再考スルコト必要ナルヘシ。

若シ滄石鐵道ノ敷設カ他ノ北支鐵道ヨリモ優先的ニ考慮サルヘキ諸般ノ理由アリトセハ本件煤鐵公司計畫モ或ハ當初

ヨリ開灘トノ合作從テ北平秦皇島鐵道ノ敷設ヲ除シ井陘トノ合作、滄石鐵道ノ敷設、天津(塘沽、大沽)港ノ改良ノ方向ニ進ムルコト適當ナルニ非サルカ?尙井陘ト開灘トハ

從來ヨリ相當複雜ナル關係アリ我方ニ於テ兩者ヲ全然別箇ノモノニ考ヘ以夷制夷的ニ工作セムト試ムルナラハ右ハ相當危險ニシテ一方ニ對スル提案ハ他方ニ筒抜トナル虞アリ。最後ニ井陘ト我方トノ合作ニ當ツテハ從來帝國政府ニ於テ吉田房次郎ト井陘獨逸側トノ契約ヲ支持シ來レル關係アルヲ以テ今次興中公司ヲ代表者トスル場合ニ於テモ同公司ヲシテ吉田側(及大倉側)トノ關係ヲ適宜調整セシムルコト適當ナルヘシ。

時局委員会の審議内容につき通報

亞一機密第三〇七號

昭和拾壹年十一月七日

外務大臣 有田 八郎

在天津總領事 堀内 千城殿

於テ審議ノ件

天津軍池田參謀出京ノ機會二十月二十五日ヨリ二十一日ニ至ル間ニ於テ同參謀ヲモ交ヘ數回ニ亘リ時局委員會幹事會ヲ開催セルカ右會議ノ內容要領並其ノ後ノ關係官廳間ニ於ケル話合ノ經過左記ノ通り申進ス

(一)津石鐵道ノ建設ニ關シテハ同參謀ヨリ合辦案ニ基キ冀察側ニ交渉セルモ强硬反對シテ聽カス惟フニ合辦ハ徒ラニ冀察側ノ立場ヲ失セシメ同政權ヲシテ國民ノ怨府ト化スルノ虞アルヘキニ付借款ニ依リ實權ヲ我方手中ニ收ムルコト然ルヘシト説明アリ討議ノ結果左記借款契約案(要旨タルニ止り愈々具体的ニ支那側ト交渉ノ際ハ例ヘバ顧問ノ國籍平行線建設ノ禁止等詳細研究ノ上講訓ノ要アルコト勿論ナリ)ヲ適當トル旨意見一致セリ

786 昭和11年12月7日 有田外務大臣より
在天津堺内總領事宛 津石鐵道建設および興中公司增资等に関する

一、路線ハ石家莊天津間二八八杆トシ第一次計畫トシテ石
家莊ヨリ井陘炭礦方面ニ延長方考慮ス
一、興中公司ハ津石鐵道建設ノ爲メニ要スル資金二千五百
五十萬圓ヲ冀察政務委員會ニ貸款ス本借款ノ資金ハ必
要ニ應シソノ都度之ヲ交付スルモノトス
一、委員會ハ契約締結後直ニ津石鐵路建設事務局ヲ設置ス
一、委員會ハ建設事務局監督ノ下ニ興中公司ヲシテ本鐵道
ノ建設ヲ請負ハシム
一、請負價格ハ〇〇圓トス
一、建設事務局ハ速ニ用地ノ買收ヲ完了ス
一、興中公司ハ本契約締結後二年以内ニ本鐵道ノ建設ヲ完
了シテ之ヲ委員會ニ引き繼キ且ツ所定ノ運轉材料ヲ提
供ス
一、委員會ハ引き繼キヲ受クルト同時ニ津石鐵路局ヲ設置
シテ本鐵道ノ經營ニ當ラシム
一、津石鐵路建設局長及津石鐵路局長ハ當分ノ內北寧鐵路
局長之ヲ兼務ス
一、局長ノ下ニ顧問一名ヲ置ク、顧問ハ興中公司ノ推薦ス
ルモノヲ以テ之ニ充ツ

(二) 井陘正豐兩炭礦ノ買收

池田參謀ヨリ井陘炭礦ニ關シテハ興中ヲシテ井陘鐵務局
獨逸側持分ノ讓渡交渉ヲナサシメ同局ノ株式ノ四分ノ一
及右ニ附帶スル獨逸側ノ一切ノ權利ヲ繼承セシメ更ニ冀
察政權ト交渉シ本炭礦ヲ日支折半出資ノ合辦組織ニ改變
方並ニ井陘炭礦公司ヲシテ速ニ正豐公司ヲ買收セシムル
豫定ナル旨説明アリ津石鐵道ハ經濟線トシテ自立セシメ
度ニ付時局委員會ニ於テモ本鐵道ト兩炭礦ノ連絡ハ絶對
必要ナリト思考シ居レリ

(三) 北支經濟開發ニ要スル資金ハ三億一千萬圓餘ニ及ヒ是カ
投資者ハ敢テ興中公司タルヲ要セサルモ實際問題トシテ
興中ハ諸事業ヲ其ノ初期ニ於テ擔當スルノミニテモ相當
ノ資本ヲ擁セサルヘカラス依テ時局委員會ニ於テモ興中
強化案ニ付種々意見ノ交換ヲナセリ北支經濟開發計畫ノ
全貌ヲ見レハ少クトモ興中ヲ一億圓程度ニ増資スルコト

一、技術、會計、車務、機務ノ四處長(又ハ副處長)及ソノ
他ノ職員中ニハ興中公司ノ推薦スルモノヲ充ツ其ノ人
員待遇地位權限其他ノ細目ハ別途協定ス
一、津石鐵路局及北寧鐵路局間ニ運轉材料、停車場、操車
場ノ共同使用及連絡運輸等運輸上必要ナル取極ヲナ
ス
一、本借款ノ利率ハ年六分複利トシ別ニ定ムル償還表ニヨ
リ鐵道完成後五年目ヨリ二十ヶ年賦ヲ以テ返還ス但繰
上償還ヲ行ハサルモノトス
一、本鐵道ノ全財產及收入並ニ北寧鐵路收入中冀察政權ノ
收得分ハ本借款ノ擔保トス
一、本鐵道ノ枝線延長線ノ建設ハ本契約ニ準シテ之ヲ行フ
但シ大藏省側ニ於テハ
(イ) 本線ハ經濟線トシテ建設スル趣旨ナルヲ以テ收支關
係ヲ十分ニ検討シ的確ナル計畫ヲ立てタル後實行ス
ルコト
(ロ) 資金ニ付テハ國策的見地ヨリ本計畫ニ優先スヘキ事
業ノタメ資金ノ不足スル場合ニハ其ノ實行ヲ延期ス
ルコト
(ハ) 右借入金ニ關スル交渉ト並行シテ興中公司ヲ五千萬圓
ニ增資方計畫シ滿鐵ハ總株金ノ半分ヨリ(イ)ノ一千萬圓
ヲ控除セル額ノ四分ノ一即チ三百七十五萬圓ヲ拂込ミ
民間ハ總株金ノ半分二千五百萬圓ヲ引受ケ其ノ四分ノ
一ヲ拂込ム案ヲ得右ヲ對滿事務局方面ノ研究ニ委スル
コトトセリ右ニ對シ最近同事務局側ヨリ(イ)津石鐵道ノ
經營ハ井陘正豐兩炭礦ノ開發ヲ伴フニ非レハ困難ナル
ヘキニ依リ本件契約ト同時ニ炭礦ニ關スル權利確保竝
其ノ生產品ノ販路ニ關スル具体的計畫ヲ確立ス(ロ)本件
資金調達ノ爲興中公司ノ資本構成ヲ改メ滿鐵並ニ民間
折半出資ノ會社トナスコト尙其ノ資本金ハ差當リ五千
萬圓程度案ヲ適當ト認ム(ハ)興中公司ハ株金拂込金ノ外
必要ニ應シ社債又ハ借入金ニ依リ所要資金ヲ調達ス(二)
政府ハ毎年本件投資額ノ五分ニ相當スル補助金ヲ興中

公司ニ交附ス（對滿事務局ハ右補助金ヲ差當リ對支文化事業特別會計ヨリ支出方希望シ居リ補助金ハ興中公司ヲシテ本鐵道ノ營業成績如何ニ拘ラス其ノ出資者ニ對シ拂込ノ時ヨリ年五分程度ノ利益配當ヲ行ハシムルコトヲ目途トスルモノナルヲ以テ本鐵道ノ營業成績良好ナル際ハ適宜減額スルモノナリトナシ居レリ）トノ對案ヲ出シ來レルモ對支文化事業特別會計ヨリ右ノ如キ性質ノ支出ヲナスコトニ對シテハ外務省トシテ根本的ニ異論アリ資金調達ハ依然行惱ミ狀態ニアリ

四右ノ外時局委員會ニ於テハ龍烟鐵礦ノ開發、長蘆鹽政ノ改革等ニ付意見ヲ交換セルモ前者ニ關シ天津軍作成ノ開發要綱案ニ依レハ日本製鐵會社ハ華北鐵礦公司ヲシテ年六分ノ配當ヲ可能ナラシムルカ如キ價格ヲ以テ本礦石ヲ引取ルモノトセラレ日本政府ハ右引取ノ爲生シタル日鐵ノ損害ヲ補償スルコトトナリ居ル次第ナルヲ以テ時局委員會ニ於テハ商工省技師ノ出席ヲモ求メ其ノ意見ヲ徵シ本鐵礦實地調査ヲ行ハシムルコト最先事ナレハ最近ノ機會ニ日鐵ヨリ現地ニ派員ヲ希望スル旨意見ノ一致ヲ見日鐵ヨリハ本月二十四日本邦發技師並社員ヲ實地調査ノ爲

787 昭和十二年1月23日 在青島門脇（季光）總領事代理より
膠濟鐵道國庫証券の一部償還につき葛光廷が
わが方意向照会について

付記 昭和十二年一月九日東亞局第一課起案高裁案
(同二十一日決裁)
〔膠濟鐵道問題交渉方針ニ關スル件〕

青島 1月23日後発
本省 1月23日夜着

⁽¹⁾ 第十九號
西總領事ヘ

本官二十二日離任挨拶旁葛光廷訪問ノ際ノ會談要領左ノ通

リ
一、本官ヨリ沈鴻烈辭職ノ際ハ後任トシテ貴官ヲ推舉シ居ル向少カラサル趣ノ處貴官ノ人格識見乃至貴官主席トノ折合ヨリ見テ我方ニ於テモ其ノ實現ヲ歡迎スヘキ旨述ヘタル處葛ハ自分カ鐵路局ヲ去ルトキハ韓主席ト聯絡宜シキ後任ヲ得難ク從テ鐵道ト韓トノ折合モ圓滿ニ行カサルヘク又自分トシテハ市行政ノ如キ繁雜ナル仕事ヨリ簡單ナル鐵道事務力相當シ居ルコトヲ承知シ居リ市長就任ノ意ナント述ヘタリ

二、葛ハ膠濟鐵路國庫證券ハ不取敢一千萬元丈ケ返還可能ナル處日本側ニ於テ返還方要望スルヤ否ヤ遲クトモ本年六

月始迄ニ通知アリ度キ旨本官歸朝ノ際日本政府ニ御傳ヘアリ度シ其ノ理由ハ一部支拂ノ際ハ其ノ豫告ヲ爲シ度ク

又若シ右一千萬元償還ヲ猶豫セラル場合ニハ之ヲ濟聊延長線ニ充當シ度キ處（然ラサル場合ニハ他ニ工事費捻出ノ方法ヲ考慮スルノ要アリ）博山延長線カ五月一杯ニ完成ノ筈ナレハ右工事ニ使用シタル人員ヲ右延長線ニ振向ケ度キ爲ナリト述ヘタリ

出張セシムルコトトナレリ又後者ニ付テハ池田參謀ヨリ天津軍作製ノ長蘆鹽政改革案要綱ニ付説明アリ本件ニ就テハ何等具体的の折衝ヲ開始シ居ラザル趣ナルガ貴地ニ於テモ本年八月十一日關係諸省間ニ決定セル第二次北支處理要綱附錄別紙第一ノ三トノ關係ヲ御含ミノ上可然軍側ヲ御指導相成度

本信寫送附先 支、北平、南京

昭和十二年1月23日 有田外務大臣宛（電報）

膠濟鐵道國庫証券の一部償還につき葛光廷が
わが方意向照会について

〔膠濟鐵道問題交渉方針ニ關スル件〕

付記 昭和十二年一月九日東亞局第一課起案高裁案
(同二十一日決裁)
〔膠濟鐵道問題交渉方針ニ關スル件〕

青島 1月23日後発
本省 1月23日夜着

⁽¹⁾ 第十九號
西總領事ヘ

（付記）
昭和十二年一月九日起案
昭和十二年二月廿日決裁
高裁案
膠濟鐵道問題交渉方針ニ關スル件
膠濟鐵道國庫證券ハ昭和十二年末ヲ以テ満期トナル處支那

側ハ屢次現在約七百萬圓ノ償還基金ト約三百萬圓ノ國內借入金トヲ以テ一千萬圓程度ヲ償還シ殘額ハ延期方ヲ申出居

リ又濟南以西ノ延長線ニ付テハ濟聊鐵路公司ナルモノヲ設立シ膠濟鐵道古材料及前記我方ニ對スル一部償還金ノ再投資ヲ求ムル(或ハ積立金ハ償還セシテ之ヲ延長線建設ニ流用スル)ノ案ヲ以テ我方ノ意向ヲ探り居レリ

右ニ對シ我方ニ於テハ從來一面ニ於テ南京政府ニ對シ滿期ノ際全額償還ヲ期待スル旨ヲ以テ應酬スルト共ニ他面膠濟鐵路側ニ對シテハ國庫證券返還問題ニ何等觸ル所ナク兎モ角モ積立金ヲ流用シテ延長線建設ヲ實施スヘキ旨勸奨シ來レル次第ナルカ既ニ支那側ニ於テハ國庫證券返還問題ト延長線建設問題トハ之ヲ不可分ノモノトシテ取扱フニ至ルヲ以テ延長線ノ建設問題ハ涉々シカラサル有様ナリ仍テ此ノ際速カニ膠濟鐵道全般ノ問題ニ關スル我方ノ方針ヲ定メ機ニ應シ何時ナリトモ支那側ト交渉ヲ開始シ得ルノ準備ヲ整ヘ置クコト極メテ緊要ト存セラル

就テハ左記ノ方針ヲ確立シ機ニ應シ在支大使ヲシテ支那側ト開談セシムルコトト致度
右仰高裁

定ス

(4)延長線ノ收入及財產ハ一體トシテ國庫證券ノ擔保トス(再投資ノ場合之カ收入及財產ハ貸付金ノ一番抵當トシ本線國庫證券ノ一番抵當トス)

(5)支那政府ハ高徐、濟順鐵道前貸金二千萬圓ノ支拂ヲ完了スル迄延長線ヲ他ノ外債ノ擔保ニ供セサルコトヲ約ス

(6)延長線建設ノ爲更ニ外資ヲ必要トル場合支那政府ハ日本政府ニ相談スルモノトス

三、其ノ他ノ措置

(1)支那政府ハ本鐵道(延長線ヲ含ム)ト他ノ鐵道体系トノ連絡ヲ便ナラシムルコトヲ約ス

(2)支那政府ハ本線及延長線ニ關シ日本側材料ヲ優先的ニ使用方約スルモノトス

(在支大使宛電信案)

一、膠濟鐵道本線ニ對スル我方權益ヲ確保ス

(1)膠濟鐵道國庫證券ノ償還ヲ無期若ハ相當長期間延期方支那政府ヲシテ確約セシム

(2)利息支拂條件、擔保及運輸、會計主任ノ雇傭等ノ條件ハ現行規定ニ依ルモノトス(但シ利率ニ付テハ年五分迄引下方考慮スルコト)

二、同鐵道延長線ニ對シ我方權益ヲ設定ス

(1)日本政府ハ支那政府カ膠濟鐵道積立金ヲ同鐵道延長線建設ノ爲流用スルコトヲ承認ス(支那政府ニ於テ本國庫證券一千萬圓程度ノ償還方固執スル場合ニハ右額ノ償還ヲ認ムルモ日本政府ハ直ニ之ヲ延長線建設ノ爲支那政府ニ貸付ケルモノトス)延長線ハ本線ト別箇ノ企業主體トナサス

(2)貸付條件ハ本線ニ對スル國庫證券ト同様トス本件貸付金ハ豫定延長線建設ヲ完了スル迄償還ヲ行ハサルモノトス

(3)延長線ノ路線、終點(差當リ隴海鐵道上ノ一地點ヲ想定ス)及建設豫定年度等ニ付テハ別途日支兩國間ニ協定ス

モ支那側ハ延長線問題ニ關聯シテ本件ニ對スル意向決定方ヲ迫リ來ルヘキ一方(青島發大臣宛電第十九號及濟南發本大臣宛電報第十五號參照)我方トシテモ適當ノ時機ヲ捉ヘ進テ支那側ニ對シ本國庫證券ノ償還延期、延長線ニ對スル我方權益ノ設定方交渉スルコト適當ナリト思考セラルニ付左記諸點御含ミノ上適宜支那側ニ應酬スルコト致度シ

(一)我方態度ハ依然早急明示セサルヲ原則トス

(二)先ツ延長線ニ關シ支那側ノ考慮シ居ル路線(差當リノ路線ノミナラス將來ノ計畫ヲモ含ム)終點及建設豫定年等ニ付詳細通報方要求ス

(三)次テ機ヲ見テ支那側ニ對シ

「支那側カ山東方面ニ於ケル我方權益ノ排除ヲ意圖セス日支提携ノ誠意ヲ有スルニ於テハ我方モ亦膠濟鐵道積立金ヲ延長線建設ノ爲流用方容認シ差支ナク此ノ場合延長線ノ收入及財產カ國庫證券ノ擔保トナルヘキハリ直接南京側ニ申傳フルコトシ青島ニ於テハ右申入レ後適宜鐵路局側ノ指導ニ當ルモノトス」

(四)右基礎工作ヲ終リタル上ハ先方出方ヲモ見極メ機宜ノ

措置ヲ講スルノ要アルコト勿論ナルモ本件ニ關シ當方
トンテハ別電第 號ノ如ク具体的方針(要領)ヲ決シ
居ル次第ナリ

~~~~~

788 昭和12年2月4日

在天津塘内總領事より  
林外務大臣宛(電報)

津石鐵道借款契約に關する軍側と冀察政務委員会との交渉状況報告

天津 2月4日後発

本省 2月4日後着

第四五號(部外極祕)

津石鐵道借款ニ關シテハ先般來軍側ニ於テ陳覺生以下北寧鐵路關係者及交通委員會關係者ヲ相手ニ交渉ヲ進メ借款契約ノ審議ヲ了シ引續キ附帶條項(請負契約等)ニ入ラントシ居ルカ顧問ノ權限ノ問題(支那側ハ必要ノ場合ノ諮詢機關タル顧問ヲ主張ス)及工事請負ノ問題(支那側ニテハ自營ヲ主張シ居リ滿鐵專門家等モ我方ニテ請負フハ却テ高價ニナリ且後々種々文句ヲ生スル惧アリトノ意見多ク此ノ點研究

中)等カ引懸リ居ル趣ナリ  
本件ハ更ニ進歩ノ上ハ客年十二月七日附貴信第三〇七號御來示ノ通り正式請訓ヲ爲ス答ナルニ付差當リハ部外極祕トセラレ度シ  
支、上海大使、北平へ轉電セリ

789 昭和12年3月18日

在中国川越大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫證券償還問題および同鐵道延長

線問題を協議するため非公式協議の開催を張

公權提議について

南京 3月18日後発

本省 3月18日夜着

第一八九號

山東鐵道國庫證券ノ償還及延長線問題ニ付テハ其ノ後引續キ支那側ノ注意ヲ喚起シ居リタル次第ナル處十八日張水淇張公權ノ旨ヲ含ミ本使ヲ來訪張公權ニ於テハ國庫證券償還ノ期限モ迫リ居ル關係モアリ何トカ本件及延長線問題ヲ圓滿ニ解決シ度キ意嚮ヲ有スルモ其ノ後支那側一般ノ對日態

度硬化ニ伴ヒ此ノ際綺麗サツパリト全額償還方鐵道部ニ建言シ來ルモノ多數アル様ノ次第ニテ今日ノ狀況ニテハ客年

九月須磨ニ對スル公權提案カ其ノ儘實現セラレ得ヘキヤモ相當疑問ナルカ免モ角本件ニ付何等カノ案ヲ得ル爲日支双方ヨリ非公式ニ二名位宛委員ヲ出シ當地ニ於テ討議スルコトトシテハ如何ト申出テタルニ依リ本使ヨリ右モ一方法ナルヘシト同意シ置キタリ就テハ本件ニ問題ニ關スル本省御決定成ルヘク早自ニ御來示相成様致度シ  
上海大使ニ轉電セリ

~~~~~

第八四號

本省 3月24日後7時40分発
貴地ニ於テ支那側トノ間ニ成立セシメタル津石鐵道借款契約案ニ付目下關係官廳間ニ審議中ナル處本鐵道建設資金ニ關シテハ池田參謀ヨリ興中除外ハ契約當事者ノ變更トナリ支那側ニ對シ面白カラサルノミナラズ滿鐵ノ技術等利用ニ付不都合ヲ生スルノ虞アリト主張シタル爲更ニ東拓側ト懇談シタル結果廿三日東拓總裁ハ陸軍側ニ對シ(イ)大藏大臣ヨリノ口添(ロ)井陘炭礦獨逸側持分ノ東拓讓受ヲ條件トシテ興中ト折半出資(對滿事務局側ハ從來ヨリ滿鐵以外ニ於テ半額出資ヲ應諾スルナラハ滿鐵トシテモ政府ノ保障等ヲ條件トセス殘額ヲ出資スヘシトノ意向ナリ尙東拓等民間側ハ興中トノ合作廻避ノ態度ヲ取り來レルモ逆ニ東拓ハ前記條件ニテ協力方應諾セル次第ナリ)ヲ承諾セル趣ニテ目下軍側ヨリ右ニ關スル天津軍意向ヲ照會中ノ趣ナリ

支、上海大使、北平へ轉電セリ

790 昭和12年3月24日 佐藤外務大臣より
在天津塘内總領事宛(電報)
津石鐵道建設資金調達問題に關し滿鉄と東拓
が折半出資することで調整妥結の旨通報
付記一 昭和12年3月24日付、東亜局第一課作成
「津石鐵道建設資金調達ノ件」

二 昭和12年3月24日付、東亜局第一課作成
「津石鐵道建設資金調達ノ件」

海(浩一郎)事務官作成

「北支經濟開發方式ニ關スル意見」

(付記一)

津石鐵道建設資金調達ノ爲興中公司ヲ増資スル件ニ付テハ客年十二月二十八日外務次官司會ノ時局委員會ニ於テ興中公司ヲシテ保障問題等ニ觸ルコトナク民間資本ヲ參加セシムル様措置セシムルコトニ一應ノ決定ヲ見タル次第アル處其ノ後興中ハ右ニ從ヒ東京及大阪ニ於テ財界方面ノ意嚮ヲ打診セルカ僅カニ大阪ニ於テ龍烟鐵礦開發ニ關シ乘氣トナレルノミニテ津石鐵道建設等ニ付テハ各方面トモ殆ト問題トセサリシ趣ナリキ

仍テ右資金問題行詰リノ打開方研究ヲ重ネ居リタル處二月二十七日時局委員會幹事會ノ席上陸軍側係官ヨリ自分ハ豫テ東洋拓殖大志摩理事ニ對シ極秘裡非公式ニ資金調達ニ關スル相談ヲ持掛け居リタル次第ナルカ政府保障ノ方針サヘ決定スレハ東拓ハ自己資金一千萬圓正金、鮮銀等ヨリノ融資二千萬圓位ヲ以テ本鐵道建設ニ着手ノ意向アリ但シ井陘、正豐兩炭礦ニ關スル權利モ同時ニ東拓ニ取得セシムルコト必要ト認ムト述ヘタルヲ以テ外務側係官ヨリ從來興中カ本鐵道ノ建設ヲ計畫シ居リタル關係アルノミナラス鐵道ト不可分的地位ニ在ル井陘炭礦ニ付テハ既ニ同公司ニ於テ獨逸

側持分ノ讓受ニ付獨逸側トノ間ニ假調印ヲ了シ居ル經緯モアレハ興中ヲ全然除外スルコトハ相當困難ナルヘシト述ヘ大藏省係官ヨリハ正金ヨリノ融資ハ適當ナラサルヘク寧口興銀ヲシテ之ニ代ラシムルコト然ルヘキ旨意見ノ開陳アリ結局大藏省ヨリモ側面的ニ東拓ヲシテ乗出サシムル様適當指導スルコトニ打合セタリ尙是ヨリ曩キ二十四日幹事會ノ席上陸軍側係官ヨリ會合ニ招致セル興中内田ニ對シ興中ニ於テ本鐵道建設カ困難ナラハ第三者ヲシテ乗出サシムルモ異存ナキ儀ナルヘシト念ヲ押シタルニ内田ハ政府ノ保障ナク一會社カ單獨ニテ右ヲ建設セントスルモノナラハ興中トシテハ手ヲ引クモ差支ナシ但シ井陘ニ關シ興中ハ既ニ獨逸側ト假調印ヲ了シ居ル點御注意アリ度シト答ヘタル經緯アリ

其ノ後三月四日大藏係官ハ外務側係官ニ對シ「大藏省ニ於テ三月一日竝ニ三日大志摩ヲ招致シ本鐵道建設ニ關スル東拓側意向ヲ聽取セル處同社トシテハ井陘炭礦カ津石鐵道ト不可分關係ニ在ル以上本件投資ハ算盤ニ乗ルモノト思考シ居ル處イ」借款總額ハ一千七百萬圓程度ニテ差支ナカルヘキモ鮮銀、正金、東拓ノ三社カ共同債權者トナリ夫々九百萬

圓宛支出スルコト(口)井陘炭礦ハ東拓單獨ニテ經營スルコトヲ東拓乗出シノ條件トシテ持出ササルヲ得スト語レリ」ト

談話セリ

然ルニ三月二十二日ノ幹事會ニ於テ天津軍池田參謀ハ支那側トノ契約當事者ヲ興中トスル關係上亦將來滿鐵ノ技術ヲ利用スル見地ヨリ東拓ノ乗出ハ面白カラサルヘキ旨述ヘ當

方ヨリ右ニ依リ多少ノ不都合ハ生スヘキモ現狀ノ儘ニテハ問題行詰リヲ打開ノ途ナシト説明ヲ加ヘ結局池田參謀モ納得セル模様ナリキ

其ノ後對滿事務局側ハ本鐵道建設ノ爲無保障ニテ民間ヨリ半分投資セラルモノナラハ事務局トシテモ滿鐵ヨリノ無保障半額出資ニ異議ナキ旨申越セル一方二十三日東拓安川總裁ハ陸軍側ニ對シ(イ)大藏大臣ヨリノ口添(口)井陘炭礦獨逸側持分ノ讓受ヲ條件トシテ興中トノ折半出資ヲ承諾セル趣ナリ依テ軍側ヨリ天津軍方面ニ意向ヲ確メタル處天津軍ヨリハ興中ハ既ニ井陘炭礦ニ付獨逸側ト假調印ヲ締結セル次第モアリ同炭礦ヲ手放サシムルコトハ困難ナルヘク興中ノ主張ハ無理ナラスト認メラルト返電越セル趣ナリ

(付記二) 北支經濟開發方式ニ關スル意見

(昭和一二、二、一三、亞一、朝海)

北支經濟開發ハ日滿北支ノ經濟的依存關係ヲ設定シ延テ三者間ノ政治的關係強化ニモ資スルヲ目標トスヘキモノナルヘキ處我方ノ北支經濟開發ニ關スル具體的成果ヲ見ルニ天津電業公司ノ如ク先ツ日本側特殊法人ト支那側トノ提携ヲ策シ次テ右特殊法人ハ漸次其ノ持株ヲ政治的色彩ナキ本邦業者ニ肩替リスル等相當理想ニ近キ合作形態存在スルモ例へハ北支經濟開發中ノ重要「プログラム」タル津石鐵道ノ建設ニ關シ内地資本ハ政府ヨリ五分程度ノ補助金若ハ一步進テ配當保障ヲ與フル程ノ支持ヲ受ケ乍ラ却テ乗出ササル

次第ニテ我方北支開發ハ主トシテ資金關係ヨリ制限ヲ受ケ
サルヲ得サル實情ニアリ右ハ一面本邦並ニ満洲國ニ於ケル
資金需給關係ニ因ルコト勿論ナルヘキモ主トシテ内地資本
家カ支那側ハ或ハ積極的ニ妨害セサル迄モ建設ニ熱意ヲ示
ササルヘキノミナラス建設後ノ經營ニ當テモ収益向上ニ熱
心ナラサルヘシトノ危惧ヲ有シ居ルカ爲ニシテ要スルニ支
那側ノ協力ノ缺如シ居ル事實カ本邦資本ノ出足ヲ鈍ラセ居
ル最大原因ナリト認メラル例ヘハ津石鐵道ノ建設ヲ中南支
方面ニ於ケル英獨資本ニ依ル鐵道ノ建設ニ對比スレハソノ
間ニナル徑庭アルヲ思ハサルヘカラス蓋シ此等方面ニ於
テハ支那側ニテ進テ建設ノ熱意アリ採算ヲ考慮シ精密ナル
調査ヲ遂ケ建設後モ収益ヲ擧ケ得ル様凡ユル方策ヲ講スヘ
ク右ヲ前提トシテ英獨等ノ資本カ流入セラルモノナレハ
我方カ獨力ノ調査ニテ決定セル津石鐵道建設トハソノ「品
位」ニ於テ自ラ相違アリ固ヨリ國策ノ名ノ下ニ二三千萬圓
ノ資本誘導ハ強行シ得サルニハ非ルモ右ノ如キ方法ニ依リ
果シテ總計三億圓餘ニ達スル北支經濟開發ヲ遂行シ得ヘキ
ヤ疑問ニシテ津石鐵道ナル鐵道棒ヲ將來鐵道網ト化スルコ
トハ至難ナルヘク之ヲ政治的ニ觀ルモ軍側ノ所期スル經濟

開發ニ依リ北支民衆ヲシテ安居樂業ヲ得セシメ一朝有事ノ
際滿洲國ノ「フランク」ヲ防衛スルノ目的ハ右ヲ達成スル
コト能ハサルヘン

合作方式ノ變更ニ依リ到底現在程度ノ權益ハ收メ得サルヘ
シトノ觀測アルヘキ處右變更ハ大局的ニ必シシモ不利ナリ
トハ斷シ得サルヘシ例ヘハ津石鐵道ニ關シテモソノ前身ト
見得ヘキ滄石鐵道ニ付既ニ昭和四年日支間ニ石炭一手委託
販賣權ノ附帶セル鐵道借款契約ヲ成立セシメタル歷史アル
ノミナラス最近モ南京側ヨリ路線ヲ滄州、石家庄間ニ定メ
我方トノ合作ヲ提議シ來レル經緯アリ一方今次ノ借款契約
ニハ南京側ハ恐ラク不承認ノ態度ヲ示スヘク最惡ノ場合積
極的ニ妨害的措置ニ出ツヘシトモ考慮セラル根柢的缺陷
アリ又河北省政府サヘ採算不安ナル津石鐵道ノ建設ハ之ヲ
日本側ニ委スヘキモ現在収益ヲ擧ケ居ル井陘炭礦ニ付テハ
一切日本側ノ關與ヲ拒否スト云フカ如キ態度ヲ示シ居ルヤ
ニ見受ケラルハ本鐵道ニ關スル地方政府權ノ協力ノ誠意サ
ヘモ疑ハシムルモノト謂ハサルヘカラス
經濟開發中ノ他ノ「プログラム」即長蘆鹽ノ對日輸出龍烟
鐵礦ノ開發棉花ノ增產等ハソノ性質上又經濟活動力地域的

ニ制限セラレ居ル事實等ヨリ見テ必シモ鐵道ノ建設トハ
相同シカラス從テ本邦資本ノ進出振ニ付多少ノ相違ハアル
ヘキモ北支ニ於ケル經濟工作一般カ北支分治ヲ基調トスル
色彩依然強烈ナル事實ハ之ヲ否定スル能ハス支那側カ全面
的ニ我方トノ協力ヲ拒否スル態度ヲ示ス場合ニ於テハ或ハ
原料資源確保ノ爲又ハ北支ニ於テ我方對支工作ノ足懸リヲ
得ル爲從來軍側ノ實行シ來レルカ如キ合作形式ヲ採ルノ已
ムナカルヘキモ支那側ニシテ真ニ北支ニ於ケル我方勢力ト
ノ合作ヲ排除スルコト至難ナリト認識シ來レル場合ニ於テ
ハ右合作方式ニ再検討ヲ加フルノ要アリト認メラル

二十四日張水淇張公權ノ旨ヲ受ケタル趣ヲ以テ更ニ本使ヲ
來訪シ償還期迫リ居ル次第ニモアリ至急冒頭往電ノ非公式
商議ヲ開始シ度キ旨申出テタルニ付右提議ニ關シテハ早速
本國政府ノ意嚮電照中ナル旨答ヘ置キタル處本件非公式討
議ニ御異存ナキニ於テハ根本方針御決定御訓令アリ次第曾
彌^(彌)清水ヲシテ鐵道部側ト討議ヲ開始セシムルコトト致ス
ヘキニ付御含置キアリ度シ
上海大使ヘ轉電セリ

91 昭和12年3月24日 在中國川越大使より
膠濟鐵道國庫証券償還問題に関する非公式協
議実施を中國側督促について

膠濟鐵道國庫証券償還問題に関する非公式協

議実施を中國側督促について

佐藤外務大臣宛(電報)

南京 3月24日後発
本省 3月24日夜着

第二〇一號
往電第一八九號ニ關シ

792 昭和12年3月26日 在天津堀内總領事より
龍烟鐵鉱開發問題に關し天津に製鐵所を増設す
る計画を含め中國側との協議開始方意見具申
天 津 3月26日後発
本 省 3月27日前着

第一四五號

貴電第四七號ニ關シ(龍烟鐵礦開發ニ關スル件)

一、龍烟鐵礦問題ニ關シテハ支那側ノ一部ニ相當之ニ熱心ナ
ル向アリ本件交渉ニ當リテハ右ヲ利用スルコト肝要ナル

カ是等ハ陸宗輿、齊燮元、李思浩等ノ株主連ニシテ專ラ
石景山製鐵所ノ復興ニノミ利害ヲ有スルモノナルヲ以テ
差當リ石景山復興ノミヲ契約スルニ於テハ之ニハ應スル
モ將來天津ニ製鐵所ヲ增設スル等第一段第三段ノ計畫實
行ニハ却テ冷淡トナリ之カ交渉ニ困難ヲ來スニアラスヤ
ト想像セラレ旁本邦ノ内部的事情ヨリ差當リハ石景山復
興ヲ骨子トスル案以外實現ノ可能性ナシトスルモ支那側
ニ對シテハ天津製鐵所及製鋼設備ヲ含ム案ヲ提示シ(池
田參謀歸朝前李思浩ニ此ノ趣旨ノ案ヲ提示シ研究ヲ求メ
置キタル經緯アリ)之ニ對シ支那側ノ「コミットメント」
ヲ求メ置クコト必要ナリト思料ス從テ右ノ「ライン」ニ
テ軍又ハ當方ト支那側官憲ノ間ニ大綱ヲ決定ノ上ニテ興
中ト支那側トノ間ニ第一期計畫トシテ石景山ニ關スル細
目ノ打合ヲ爲サシムルコト然ルヘシト存ス

⁽²⁾右交渉ノ時機ハ津石鐵道問題カ既ニ契約案文ノ妥結ノ域
ニ達シ居ル今日一應之ヲ調印ニ迄漕付ケタル上ニテ其ノ
直後速ニ開談スルコト然ルヘシト存ス(津石問題ヲ其ノ
儘ニシテ龍烟問題ニ移ルハ冀察側ニ對シテ日本ハ成算ナ
クシテ種々ノ問題ヲ取散ラカスカトノ印象ヲ與フルノミ

793 昭和12年3月29日 在天津塘内總領事より
付記 昭和十二年四月二十三日付、陸軍省軍務局作成
「北支經濟開發ニ關スル件」

津石鐵道建設資金調達問題につき意見眞申
天 津 3月29日後發
佐藤外務大臣宛(電報)
貴電第八四號ニ關シ(津石鐵道建設資金調達問題)
第一五一號

本件ニ關スル軍側意嚮ハ軍ヨリ既ニ電報濟ニシテ本官モ亦
ト共ニ井陘ナルカ卑見ニ依レハ國策的見地ヨリ津石建設
トニシテ井陘ニ對スル或程度ノ「コントロール」ヲ獲得シ
置クコト望マシキハ勿論ナルカ津石完成ノ曉ハ何人カ井
陘ヲ經營スルカニ拘ラス井陘炭ハ津石ニ依リ運搬セラル
ヘク資源確保ノ見地ヨリハ津石鐵路局ヲシテ一手販賣權
程度ノ權利ヲ取得セシムレハ足リ之トテ鐵道完成後運賃
政策ニ依リ井陘ニ壓力ヲ加ヘツツ交渉スル方有利ナラス
ヤトモ考ヘラル何ノ途以上ノ國策的見地ヨリ見タル津石
ト井陘ノ關係ト出資者ヨリ見タル兩者ノ關係ハ別箇ノ問
題ナルヘシ即チ出資者側トシテハ鐵道ヨリ礦山カ有利ナ
リト見込ミテ(此ノ點實ハ疑問ナリ) 井陘ノ經營ニ參加
センコトヲ望ミ居ルモノニシテ斯ル見込ヨリ東拓ハ鐵道
ニ出資スル代價トシテ井陘ヲ獨占セントシ興中ハ鐵道ニ
ハ他ノ出資ヲ認メツツ井陘ハ之ヲ獨占セントシ居ルハ何
レモ虫ノ良キ話ニシテ井陘ノ株式ヲ取得スルニ至リタル

ナラス我方ハ軍需工業ノ必要上鐵道ヲ捨テ鐵礦ヲ先ニス
ルモノナリ等ノ惡宣傳ノ機會ヲ與フル惧モアリ面白カラ
ス)

三、最近十河ヨリ本官ニ對シ自ラ速ニ龍烟問題ヲ開談シ度キ
旨申出テタルニ對シテモ軍側ト打合ノ上前記一及二ノ趣
旨ヲ申聞ケ置ケリ

冒頭貴電末段ノ次第アルモ當方ノ實情及卑見爲念
支、上海大使、北平へ轉電セリ

~~~~~

大體之ト同意見ナルカ卑見及十河ヨリ聽取セル同人ノ意嚮  
等左ノ通り何等御参考迄

一、十河ハ先般來再三本官ニ對シ津石ニ對スル資金ノ調達ハ  
何等困難ナキ旨ヲ縷述シ居タルカ二十六日(同人ハ池田  
參謀ヨリノ招電ニ依リ同夜發大連經由歸國ノ途ニ就ケリ)  
館員ニ對シ

(イ)今日迄如何ナル契約成立スルカ明言セスシテ資金ヲ調  
達スルコト困難ナリシモ今後ハ困難鮮カルヘク契約今  
直ニ調印セラレタリトスルモ差當リ三百萬、年内ニ一  
千萬位ノ資金ヲ要スルノミニシテ之ヲ漸次調達スルコ  
トハ滿鐵獨力ニテモ不可能ニアラス

(ロ)興中トシテハ電業ニ電氣關係者ノ資金ヲ參加セシメタ  
ル如ク龍烟等ニハ製鐵關係者等ヲ參加セシムル方針ナ  
ルモ鐵道ニ付テハ成ルヘク滿鐵ノミノ資金ニ依リ度キ  
考ナルカ東拓其ノ他ニシテ出資ノ希望アラハ敢テ拒否  
セス但シ興中及滿鐵カ今日迄調查立案其ノ他ニ多大ノ  
犧牲ヲ拂ヒ來タレル事實ヲ考慮シ東拓參加ノ條件ハ公  
正ニ決定アリ度ク東拓カ井陘ヲ持出スカ如キハ承諾シ  
難シ

上ハ井陘ノ利益ハ鐵道ノ出資者ニ按分セラルルカ如キ方法ヲ考慮スルコト然ルヘシト存支、上海大使、北平へ轉電セリ

(付記)

北支經濟開發ニ關スル件

昭和二二、四、一三

軍務課

在天津

一、北支ニ於ケル一般企業ハ之ヲ民間資本ノ自由進出ニ委又ヘキモ鐵道ノ建設、港灣ノ修築、礦山ノ開發、重工業ノ建設等ノ如キ重要ナル基礎的諸事業ニ關シテハ政府ノ特別ナル保護監督下ニ在ル強力ナル一國策會社ヲシテ專ラ此ノ任ニ當ラシムルコト

二、北支經濟開發諸事業ニ對スル滿鐵ノ資本の參加ハ過渡的便法トシテハ之ヲ認ムルモノ將來右國策會社ノ所要資本ハ主トシテ内地ヨリノ直接投資ニ俟ツコトシ滿鐵ハ其ノ満洲ニ於ケル使命達成ニ專念セシムルコト

三、政府ハ必要ニ應シ右會社ニ對シ特別ナル財政上ノ援助ヲ行フコト(此場合對支文化事業特別會計ヨリモ援助セシ

ムル事トシ之ニ關シ必要ナル措置ヲ講スルコト)

~~~~~

794 昭和12年3月29日 在天津堀内總領事より

佐藤外務大臣宛

津石鐵道借款契約案の送付について

(4月6日接受)

機密第三六二號

昭和十二年三月廿九日

外務大臣 佐藤 尚武殿

津石鐵道借款契約案ニ關スル件
先般來軍側ト支那側(陳覺生等北寧鐵道及交通委員會關係者)トノ間ニ一應ノ話合纏リタル本件契約案文及附屬文書案各一部送付ス

本信寫送付先 在支大使(上海)(南京)北平

(日文)

中華民國津石鐵道借款契約

中華民國冀察政務委員會(以下委員會ト略稱ス)ハ茲ニ天津

石家庄間ノ鐵道敷設ノ爲日本國法人興中公司(以下公司ト略稱ス)ト津石鐵道借款契約(以下本契約ト略稱ス)ノ各條款ヲ議定シ遵守ニ資ス

第一條 公司ハ本鐵道ノ建設ニ要スル資金日本金貳千五百五拾萬圓也ヲ委員會ニ貸款スルモノトス

前項ノ資金ノ内譯及其ノ交付方法ハ雙方ノ間ニ別ニ之ヲ協定ス

第二條 本借款ハ本鐵道建設以外ノ用途ニ流用スルヲ得ス

第三條 委員會ハ本契約締結後直ニ津石鐵道工程局(以下工程局ト略稱ス)ヲ設置スルモノトス

第四條 本鐵道ノ建設ハ本契約締結後貳年以内ニ完了スルモノトス但シ天災事變其ノ他不可抗力ニ因ル工事遲延ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 委員會ハ本鐵道建設工事ノ防護及職員ノ生命、財產ノ安全ヲ確保スルノ責ニ任スルモノトス

第六條 本鐵道ノ建設材料ノ運賃、課稅及其ノ他一切ノ雜項事務ハ雙方ノ間ニ別ニ協定ス

第七條 委員會ハ本鐵道全線ノ工事完了後直ニ工程局ヲ廢止シ津石鐵道管理局(以下管理局ト略稱ス)ヲ設置ス

第十二條 借款金ノ交付及利息ノ支拂並元金ノ償還ハ双方ノ指定期限内に於ケル銀行ニ於テ爲スモノトス

第十三條 本鐵道ノ全財産及收入ヲ以テ本借款元利ノ擔保トス但シ利益金カ當年支拂フヘキ元金利息ヲ超過スルトキハ餘剩部分ハ管理局ニ於テ自由ニ處理スルコトヲ得

第十四條 前條ノ擔保ハ本借款利息ノ支拂及元金ノ償還完了ニ至ル迄ハ本借款以外ノ債務ノ擔保ト爲スコトヲ得

了ニ至ル迄ハ本借款以外ノ債務ノ擔保ト爲スコトヲ得

第十五條 本契約有效期間内本鐵道ニ關シ他ヨリ借款ヲ爲サムトスル場合ニハ其ノ都度雙方ノ間ニ協定シテ之ヲ行フモノトス

第十六條 本鐵道ノ收入ハ日華兩國ノ確實ナル銀行ニ折半預入スルモノトス

第十七條 本契約ハ調印ノ日ヨリ效力ヲ發生シ本借款利息ノ支拂及元金ノ償還ヲ完了シタルトキ其ノ效力ヲ失フモノトス

第十八條 本契約ハ日文及華文ヲ以テ正文トシ各貳通ヲ作成シ委員會及公司各壹通宛ヲ保有スルモノトス

昭和拾貳年
中華民國貳拾六年 月 日

日本帝國興中公司
社長十河信一
中華民國冀察政務委員會
委員長宋哲元

795
昭和十二年3月30日 佐藤外務大臣より
在中国川越大使宛第三八号

膠濟鐵道國庫證券償還問題に関する非公式協議開始方訓令

別電

昭和十二年三月三十日発佐藤外務大臣より在

中國川越大使宛第三八号

本省 3月30日後8時発

右協議に対するわが方方針

第三七號(極祕)

貴電第二〇一號ニ關シ

本件非公式討議ヲ開始セラレ差支ナシ、我方ニ於テハ支那側ガ我方權益ノ排除ヲ意圖セズ、日支提携ノ誠意ヲ有スルニ於テハ膠濟鐵道積立金ヲ延長線建設ノ爲流用方容認シ差支ナク、國庫證券ノ償還並延長線問題ニ對スル我方方針ハ

別電第三八號ノ通ナル處本件討議ヲ我方ニ有利ニ導クガ爲ニハ御如才モ無キ儀乍ラ左記諸點ニ特ニ御留意相成ル様致度

(1)我方態度ハ依然過早ニ明示セザルヲ得策トスベシ

(2)單ニ濟聊線ノ如キ部分的計畫ノミニテハ國庫證券問題ノ全般的考慮ヲ爲シ難キニ付我方態度ヲ明示スルニ先チ延長線ニ關シ支那側ノ考慮シ居ル路線(差當リノ路線ノミ

ナラズ將來ノ計畫ヲ含ム)終點及建設豫定年度等ニ付詳細ヲ開示セシムル等適宜延長線計畫ニ關スル支那側言質ヲ引キ出ス様誘導相成度シ

資ス)

(3)青島ニ於テハ以上貴方ニ於ケル基礎工作濟ミタル上南京ト連絡シ適宜鐵路局側ノ指導ニ當ルコトトス別電ト共ニ上海大使、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ冒頭貴電並貴電第一八九號北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

(4)延長線ノ收入及財產ハ一体トシテ國庫證券ノ擔保トス(再投資ノ場合貸付條件ハ本線ニ對スル國庫證券ノ條件ニ準ス延長線ノ收入及財產ハ貸付金ノ一番抵當、本線國庫證券ノ二番抵當トシ又右貸付金ハ豫定延長線建設ヲ完了スル迄之ヲ償還セズ)

(5)延長線ノ路線、終點(差當リ隴海線上ノ一地點ヲ想定ス)及建設豫定年度等ニ付テハ別途協定ス

(6)高徐、濟順前資金二千万圓ノ支拂ヲ完了スル迄延長線ハ他ノ外債ノ擔保ニ供スルヲ得ス

第三八號(極祕)

本省 3月30日後8時17分發

(別電)

(4) 延長線建設ノ爲更ニ外資ヲ必要トスル場合ニハ日本側ニ其ノ他ノ措置

ニ協議ス

三、其ノ他ノ措置

(1) 本鐵道(延長線ヲ含ム)ト他ノ鐵道体系トノ連絡ヲ密接ナラシム

(2) 本線及延長線所要ノ材料ニ關シテハ本邦品ヲ優先購入ス

ス

昭和12年4月6日 在中國川越大使より
佐藤外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫證券償還問題に関する非公式協議開始に先立ち張公權と意見交換について

南京 4月6日後発

本省 4月7日前着

第二五〇號(極祕)
往電第一〇一號ニ關シ

本使六日張公權ト會見シ本件討議ニ關スル張ノ意図ヲ質シタル處張ハ

(1) 本問題ノ解決ニ當リテハ日支双方ノ利益ヲ計リ其ノ圓滿

797 昭和12年4月10日 在青島大鷹總領事より
佐藤外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道延長計画のうち聊城以西の建設に英國資本導入が見込まれるとの葛光廷内話について

青島 4月10日後発
本省 4月10日後着

(1) 第九三號(至急)
往電第八六號ニ關シ

葛光廷ハ九日事務打合ノ爲兩度赴寧スルニ先チ本官ヲ來訪シ國庫證券償還問題ニ關シ目下南京ニ於テ交渉始マリ居ル處鐵道部ニ於テハ一千萬圓ヲ日本政府ニ支拂ヒ三千萬圓丈ヶ續借スル肚ニテ右様計畫案ヲ行政院ニ廻付濟ナルカ延長線ハ聊城迄ノ工費六百五十萬元ハ支那自ラ調達シ其ノ工事ハ膠濟鐵路局カ引受ケ博山延長線完成次第取掛ル筈ナリ而シテ聊城以西ノ延長ハ當方面ヨリノ資金調達困難ナルヲ以テ平漢鐵路局カ道口鎮聊城間ノ工事ヲ引受ケ今後二年内ニ聊城ニ於テ接續スル筈ナリト語リタルヲ以テ本官ヨリ平漢鐵路局ハ如何ナル方面ヨリ工事費ヲ調達スルヤト質問セル處葛ハ多分中英庚款ヲ利用スルモノノ如シト答ヘタルヲ以

ト答ヘタリ依テ本使ヨリ右非公式討議ヲ爲スニ當リ部長トシテ何等腹案アル次第ナリヤト尋ネタルニ張ハ客年九月須磨總領事ニ對シ述ヘタル所ヲ基礎トシ度キ積リナルカ貴大使ニ於テモ何等成案アリヤト問返シタルニ付本使ハ輕ク之ヲ受流シ延長線ノ終點ヲ問ヒタルニ張ハ聊城以西ハ未タ決定シ居ラストテ言明ヲ避ケタリ

以上本使ニ於テハ貴電第三七號ノ趣旨ヲ體シ我方態度ニ付テハ何等言及セス最後ニ非公式討議ノ開始差支ナキ旨ヲ告ケタル處張ハ支那側ニ於テハ鐵道部顧問陸夢熊及財務司長張競立ヲシテ之ニ當ラシメ度キ旨申出テタリ

上海、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

ナル話合ノ結果カ此ノ種問題解決ノ一事例トナリ且ハ兩國關係ノ改善ニモ資シ度キ希望ニシテ

(2) 右話合ノ進行ヲ見ル爲ニハ最初ヨリ正式ニ會談シ外間ニ於テ種々ノ誤解ヲ生シ頓坐^(経)スルカ如キコトアリテハ面白カラサルニ付先ツ非公式ニ話合ヲ進メ大體纏リタル所ニテ正式ノ交渉ニ移シ度キ積ニテ過日張水祺^(祺)ヲシテ申入シメタル次第ナリ

ト答ヘタリ依テ本使ヨリ右非公式討議ヲ爲スニ當リ部長トシテ何等腹案アル次第ナリヤト尋ネタルニ張ハ客年九月須磨總領事ニ對シ述ヘタル所ヲ基礎トシ度キ積リナルカ貴大使ニ於テモ何等成案アリヤト問返シタルニ付本使ハ輕ク之ヲ受流シ延長線ノ終點ヲ問ヒタルニ張ハ聊城以西ハ未タ決定シ居ラストテ言明ヲ避ケタリ

以上本使ニ於テハ貴電第三七號ノ趣旨ヲ體シ我方態度ニ付テハ何等言及セス最後ニ非公式討議ノ開始差支ナキ旨ヲ告ケタル處張ハ支那側ニ於テハ鐵道部顧問陸夢熊及財務司長張競立ヲシテ之ニ當ラシメ度キ旨申出テタリ

上海、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

ナル話合ノ結果カ此ノ種問題解決ノ一事例トナリ且ハ兩國關係ノ改善ニモ資シ度キ希望ニシテ

話合ノ上穩便解決方ヲ慇懃サレ度キ旨ヲ述ヘタルニ葛ハ御話ノ御趣旨ハ鐵道部長ニ傳ヘ置クヘキ旨ヲ答ヘタリ

前記中英庚款ノ件ハ葛力不用意ニ洩シタルモノナリヤ或ハ今後ノ交渉牽制策トシテ豫メ鐵道部長ト打合セ濟ノ芝居ナルカハ判斷シ難キモ英支トモ合作熱旺盛ノ今日無根據ノ話トモ思ハレサルニ付葛ノ立場モ考慮シ出所極祕トシテ大使館邊ニテ眞偽ヲ確メ置ク要アリト思料セラル
支、北平、天津、濟南へ轉電セリ

~~~~~

798 昭和12年4月10日 在濟南有野總領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

### 膠濟鐵道延長線敷設の進捗状況に関する聊濟 鉄路建設籌備委員長内話について

第五九號 濟南 4月10日後發 本省 4月10日夜着

膠濟延長線問題打合ノ爲客月下旬葛光廷ト同道南京ニ赴キ最近歸來シタル宋若愚(濟聊鐵路建設籌備委員長)カ九日宴會ノ席上本官ニ内話セル所御参考迄左ノ通

一、濟聊線ノ敷設ハ既ニ中央ノ批准ヲ經居ルニ付之ヲ中止ス

ルカ如キコトナキ處(最近計畫見合ノ命令アリタリトノ

噂出テ居レリ)資金關係未決定ノ爲且下見送リ狀態ニアリ即チ膠濟鐵路ノ日本ニ對スル償還積立金ノ利用方日本

側ニテ承諾スルト否トニ依リ敷設機關ノ組織方法等折角研究ル次第ニ付目下兩様ノ場合ヲ假定シ組織方法等折角研究

中ナルカ若シ右積立金ノ利用出來サル場合ハ鐵道部、省

政府、鐵道局及銀行其ノ他民間ヨリ資金ヲ集メ建設費ニ充ツルコトナルヘシ

二、本延長線工事ハ最近ノ所要見積額六百四十萬元ニシテ全

部膠濟鐵路技術員指揮ノ下ニ行フ筈ナルカ技術員側ノ計

算ニ依レハ一年半ヲ要スル豫定ナルモ自分(宋)ハ一年位ニテ完成セシメ得ルモノト見居レリ

本線ノ第二期延長ハ聊城ヨリ大名迄トシ第三期ハ道口鎮ニ聯絡スル豫定ナリ

三、膠濟鐵路ノ償還積立金ハ昨年末既ニ一千三、四百萬圓ニ達シタルカ本年ハ車輛ノ增加、石炭、棉等ノ出廻輻輳ノ爲收入增加ヲ見ルヘク結局本年末迄ニハ一千萬元以上積立出來ル見込ナリ日本側ヨリ全額償還ノ要求アル場合ハ

不足額ハ支那銀行ヨリ調達シ間ニ合ハス豫定ニテ且下此ノ點ニ付テモ研究中ナリ云々

尙宋ハ日本側カ支那ノ他ノ事業ニ投資セントスルモ仲々困難且不安アルヘキモ本延長線ニ對シ利用ヲ許スコトハ最有利且安全ナル方法ナリト語リ頻リニ本官ニ對シ日本政府ノ意嚮如何ヲ聽訊シ居タリ

尙又宋ハ數日中ニ來濟スル葛ト共ニ再赴寧シ本件打合ヲ爲ス趣ナリ

~~~~~

799 昭和12年4月13日 在天津堀内總領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

津石鐵道借款契約を原案どおり至急締結する

よう李思浩を説得について

天津 4月13日後發 本省 4月13日後着

第一九五號(極祕)

先般一應軍側係官ト陳覺生ノ間ニ話合纏リタル津石鐵道借款契約案(三月二十九日附往信機密第三六二號)ニ對シ其ノ

(2) 及交通委員會ニテハ日本側ノ出資者モ安心セサルヘキニ付

政務委員會力責任ヲ負フモノナルヲ明カニスル爲原案通り
トスル要アル旨ヲ説示シタルカ李ハ冀察トシテ日本側ニ對シ從來議定セル原則ヲ變更シテ責任ヲ回避セントスルカ如

キ考ハ毛頭ナク全ク内部關係殊ニ南京側ニ反對ノ口實ヲ與

ヘサル様右當事者ノ變更ヲ希望スルモノナル旨ヲ述へ本官

ヨリ原案承認方繰返シ說得シタルニ對シ宋哲元ヨリ興中ニ

對シ交通委員會ニ契約所定ノ義務實行方ヲ命シタル旨及同

人ニ於テ其ノ責ニ任スル旨書面ヲ送付スル程度ナラハ部内

ヲ纏メ得ヘキヤノ意嚮ヲ洩ラシ居タリ(本官ヨリハ其ノ程

度ニテ軍側又ハ中央カ満足スヘキヤハ言明シ難キ旨ヲ述ヘ

置ケリ)尙李ハ本件ハ鐵道部邊リヨリ種々議論出スルヤモ

計リ難キモ蔣介石ハ能ク事情ヲ承知シ居ルニ付近ク他用

(鄉里奉化ニテ葬儀ヲ管ム爲)南下ノ際先ツ蔣ハ說服シ蔣ヨ

リ鐵道部ヲ說得セシムル積ナリト述ヘタリ

(李ハ十日夜天津經由南下セルニ付館員ヲシテ右ノ點ハ更

ニ念ヲ押サシメ置キタリ)

支、上海、北平へ轉電セリ

~~~~~

800

昭和12年4月14日 在中國川越大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫証券償還問題に関する非公式協

議において中國側が一部償還を骨子とする返

(1)國庫證券元金四千萬圓ニ付テハ本年末迄ニ約一千萬圓  
(目下約九百三十萬圓)トナルヘキ積立金ヲ返還シ殘部  
八十年間ニ亘リ年賦償還ス(毎年ノ償還額ハ追テ決定  
ス)

度シト述フ

(1)國庫證券元金四千萬圓ニ付テハ本年末迄ニ約一千萬圓

(目下約九百三十萬圓)トナルヘキ積立金ヲ返還シ殘部

八十年間ニ亘リ年賦償還ス(毎年ノ償還額ハ追テ決定

ス)

第二六六號

往電第二五〇號ニ關シ

南京 4月14日後發  
本省 4月14日夜着

濟案提出について

(2)毎年ノ年賦償還金及利息ニ相當スル金額ハ從來同様之

ヲ積立ツルモ剩餘收益ノ處分ハ鐵道部ノ自由トシ度シ

(3)殘額三千萬圓ノ利息ヲ低減サレ度シ(四分位迄ト言ヘ

リ)

(4)日本側ヨリ一千萬圓ニ相當スル材料借款ヲ受ケ延長線

ヲ建設ス新借款ノ擔保ハ膠濟本線ノ收入トス

(2)依テ當方ヨリ右ハ客年九月張公權ノ提案(客年南京發大

臣宛電報第六四四號)トハ餘程異リ居ルカ右ハ政府ノ正

式提案ナリヤト質シタル處財政部トモ相談ノ上行政院會

議ヲ通過セルモノナリト答ヘタルヲ以テ本件提案ノ可否

ニ付論議ヲ欲セサルモ一應其ノ趣旨ヲ明カニスル爲質問

シ度シトテ

(1)第一點ニ付キテハ張部長原案ノ如ク現契約ヲ其ノ儘更

新スルコトナク十年間延長シ而モ年賦償還ヲ爲サント  
ニ付論議ヲ欲セサルモ一應其ノ趣旨ヲ明カニスル爲質問

シ度シトテ

(2)第二點ハ驚クヘキ新提案ト謂フノ外ナキカ鐵道部ノ自

由處分トハ如何ナル意味ナリヤ

(3)第三點ノ新借款ノ擔保ヲ膠濟本線ノ收入トシ居ルモ右  
收入ハ第一點ノ關係上鐵道部ノ自由處分ニ委ネラル

關係上擔保トシテノ價值ナカルヘキカ如何  
(2)延長線ノ路線並ニ經營ノ主體ハ如何ナルヤ  
等ノ諸點ヲ舉ケタル處先方ヨリ左ノ如ク説明セリ  
(1)ニ付キテハ左ノ通り

(2)ニ付キテハ山東延長線ニ用フルカ他ニ流用スルカハ未  
定ナリ

(1)ニ付キテハ三千萬圓殘額ノ年賦償還金ニ次テ鐵道部ニ  
歸屬スヘキ收入ヨリ控除セラルル意味ナリ

(2)ニ付テハ差當リ聊城迄決定シ居リ之カ企業主體ハ濟聊  
鐵路公司トシ建設及經營ハ膠濟局ヲシテ代行セシムル  
コトアルヘシ

(3)次テ當方ヨリ本提案ノ內容ニ付論議スル前ニ茲ニ一言シ  
置キ度キコトアリ即チ日本側ハ元來日支提携ニ依リ山東  
地方ヲ開發シ併セテ支那鐵道體系ノ完成ニ寄與シ度キ意  
嚮ニテ右ハ華府會議以前ヨリ今日迄一貫セル態度ナルカ  
不幸ニシテ支那側ハ國權回復熱ニ浮サレ日本ノ經濟的權  
益迄モ驅逐セント企圖シ問題ヲ政治化シ輿論ヲ沸騰セシ  
メタル次第ナルカ今次滿期ニ際シテモ日本側ハ單ナル債  
權者トシテハ全額償還ヲ期待シ居ルモ然レハトテ支那側

カ苟クモ日本トノ縁ヲ成ルヘク早ク絶チ度シトノ態度ニ  
出テ來ルニ於テハ折角日本側ニ於テ努メテ問題ヲ經濟的  
且實際的基礎ニ於テ處理セントスル所ト反シ重大ナル紛  
糾ヲ惹起スルニ至ルヘシ右ノ見地ヨリ今次ノ提案ヲ見ル  
ニ細日ハ暫ク措キ外貌ニ於テ曩ノ張部長私案ヨリモ更ニ  
急進的ト認メラレ右日本側ノ期待ニ副ハサルモノト見ル  
外ナン本來ナラハ此ノ際日支合辦ノ民間會社ヲ作り永久  
ニ本線及延長線ノ經營ニ當ラシムルコト位ヲ案出シ經濟  
合作ヲ實行スルノ誠意ヲ披瀝シテ然ルヘキ筋合ナリト述  
ヘタルニ對シ競立ハ張部長ニ於テハ御説ノ如ク日本トノ  
緣ハ絶タントスル如キ意嚮ハ毛頭ナク專ラ事務的ニ處理  
セント心掛け居ル次第ニテ又同部長ノ在任中ニアラサレ  
ハ到底日支ノ話合ノ圓滿ナル進行ヲ期シ難カルヘキヲ以  
テ此ノ點充分ニ御了解アリ度シト答ヘ葛光廷ハ鐵道部ニ  
於テハ一千萬元償還ニ付テモ日本側カ却テ支那側ノ眞意  
ヲ疑フコトナキヤヲ懸念シ居ル次第ナリト附言シ又張水  
淇及競立ハ何レモ日支合辦民間鐵道案ハ曩ニ周作民ヨリ  
日本側ニ持出シタルコトアリ極メテ理想的ノ方法ト認ム  
ルモ當時日本側ニ於テ餘り氣乗リセス又支那側トシテモ

アリ度シ夫レ迄ハ「サイン」スルナトノ回答アリシニ付  
未タ蔣ト面會出來サルモ大體了解ヲ得ラルモノト見込  
ミ居レリ右見込外レル際ハ冀察限リニテ善處スヘク宋哲  
元モ其ノ覺悟ナリ

一、本件ト冀東問題ヲ關聯シテ同時ニ解決方主張スル意嚮ナ

ク又日本側カ成ルヘク速ニ冀東問題解決方希望ニ堪ヘサ  
ルモ右ハ今日ノ如ク支那側ノ付ケ上ツタ空氣ノ儘ニテハ

駄目ナコトモ充分承知シ居リ又宋ヨリモ蔣ニ對シ冀東問  
題ハ性急ニハ解決シ得ヌ事情ヲ篤ト説明スル様依頼ヲ受  
ケ居レリ

(欄外記入)一、龍烟ニ付テハ合辦案ハ到底見込ナキヲ以テ借款案ナラハ  
津石ヨリモ南京ノ了解ヲ得易キモノト考フ

一、塘沽築港ニ付テハ客年北上前上海銀行筋ニ對シ投資ヲ勧  
メタルコトアルモ政情不安定ノ間ハ其ノ見込ナシ關稅移

讓等財政部邊ヨリ資金ヲ出サスコトモ考ヘ居ル處詳細ハ  
判明セサルモ孔祥熙ハ借款成立ノ使命ヲ有シ擔保力ニ付  
種々苦心シ居ル模様ニ付中央ニ果シテ右餘裕アリヤ疑問  
ナリ

支、北平、天津へ轉電セリ

カ苟クモ日本トノ縁ヲ成ルヘク早ク絶チ度シトノ態度ニ  
出テ來ルニ於テハ折角日本側ニ於テ努メテ問題ヲ經濟的  
且實際的基礎ニ於テ處理セントスル所ト反シ重大ナル紛  
糾ヲ惹起スルニ至ルヘシ右ノ見地ヨリ今次ノ提案ヲ見ル  
ニ細日ハ暫ク措キ外貌ニ於テ曩ノ張部長私案ヨリモ更ニ  
急進的ト認メラレ右日本側ノ期待ニ副ハサルモノト見ル  
外ナン本來ナラハ此ノ際日支合辦ノ民間會社ヲ作り永久  
ニ本線及延長線ノ經營ニ當ラシムルコト位ヲ案出シ經濟  
合作ヲ實行スルノ誠意ヲ披瀝シテ然ルヘキ筋合ナリト述  
ヘタルニ對シ競立ハ張部長ニ於テハ御説ノ如ク日本トノ  
緣ハ絶タントスル如キ意嚮ハ毛頭ナク專ラ事務的ニ處理  
セント心掛け居ル次第ニテ又同部長ノ在任中ニアラサレ  
ハ到底日支ノ話合ノ圓滿ナル進行ヲ期シ難カルヘキヲ以  
テ此ノ點充分ニ御了解アリ度シト答ヘ葛光廷ハ鐵道部ニ  
於テハ一千萬元償還ニ付テモ日本側カ却テ支那側ノ眞意  
ヲ疑フコトナキヤヲ懸念シ居ル次第ナリト附言シ又張水  
淇及競立ハ何レモ日支合辦民間鐵道案ハ曩ニ周作民ヨリ  
日本側ニ持出シタルコトアリ極メテ理想的ノ方法ト認ム  
ルモ當時日本側ニ於テ餘り氣乗リセス又支那側トシテモ

鐵道會社ニ外國出資ヲ認ムルコトハ現今不可能ナリト述  
ヘタリ

三、支那側ハ頻リニ第二次會談ヲ急ク模様ナリシヲ以テ當方  
ハ極メテ不満足ナル提案乍ラ上司ニ報告シ置クヘント應  
酬シ置クニ止メタリ

上海、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

801 昭和12年4月22日 在上海吉岡(範武)總領事代理より  
佐藤外務大臣宛(電報)

津石鐵道問題は蔣介石の了解を得られると考  
えるがもし得られなくとも冀察政務委員会限  
りで善処する旨など李思浩内話について

第一六四號(極秘)  
二十二日李思浩ノ田尻ニ對スル内話中左ノ通り

一、津石鐵道ニ付テハ鐵道部ヨリハ寧ロ直接蔣介石ノ了解ヲ  
得ルコト適當ナリト考ヘ實ハ約一箇月前翁文灝ヲ通シ蔣  
ノ意ヲ確メタル際蔣ハ之ヲ撥付ケス南下ノ上内容ヲ説明

上海 4月22日後発  
本省 4月22日夜着

802 昭和12年4月30日 在上海吉岡總領事代理より  
佐藤外務大臣宛(電報)  
(欄外記入)  
話シガ達フ

津石鐵道敷設は児玉經濟視察團團長にも伝え  
たように材料供給借款の形式とし国民政府中  
央と交渉あるよう周作民要望について

付記一 昭和12年五月五日付船津(辰一郎在中国日  
本紡績同業会理事より児玉(謙次)日華貿易協  
会會長宛書簡

右敷設問題に関する周作民談話要領

二 昭和12年五月十一日付、東亞局第一課作成  
佐藤外務大臣・児玉日華貿易協会會長会談錄

上 海 4月30日後発  
本省 4月30日夜着

船津ノ田尻ニ對スル内話ニ依レハ二十九日周作民ヨリ視察

團歸京後ノ模様等聞質サレタル際船津ヨリ當時周ト兒玉間ノ約ニ從ヒ支那側ニ於テ關稅引下方努力アリ度キ旨申入レタルニ對シ周ハ其ノ積リナル處日本側ニ於テハ最近津石（線）敷設ヲ强行サルル模様ナルカ本件ニ付テハ張公權等ヨリ兒玉ニ對シ話シ置キタル通り英國ノ材料借款ノ如キ形式ナラハ異存ナキニ付日本モ右ニ考直サレ南京ト改メテ交渉アリ度ク然ラサレハ又一般ノ空氣ヲ惡化セシメ如何ニ關稅引下ニ努力セントスルモ到底モノニナラサルヘキ旨語リタル由尙本三十日ノ新聞報道ニ依レハ南京鐵道部ニ於テハ滄石線ノ修築方ヲ主張シ右ノ旨冀察ニ申入レタル由ナリ支、北平、天津へ轉電セリ

## （付記一）

昭和十二年五月五日

船津 辰一郎

兒玉會長殿

謹啓益御清祥奉賀候陳者昨夜周作民氏來訪大要左ノ通り申述候

尙本三十日ノ新聞報道ニ依レハ南京鐵道部ニ於テハ滄石線ノ修築方ヲ主張シ右ノ旨冀察ニ申入レタル由ナリ支、北平、天津へ轉電セリ

自分ノ承知スル所テハ兒玉會長ハ去ル三月十七日當地ニ開カレタル中日貿易協會總會ノ模様併ニ中日兩國代表者カ懇談會ノ席上交換シタル意見ノ大要等ハ書面ニテ外相ニ報告セラレタルモ兒玉會長自身ノ御意見ニ至リテハ單ニ口頭ニテ報告サレタルヤニ仄聞ス兎ニ角兒玉會長ノ希望ハ過日御話申上ケタル通り（去ル三日付拙信御參照）兩國國交ノ調整ハ先ツ比較的實行容易ナル問題、假令ヘハ關稅引下ケ、密輸取締等ノ如キモノヨリ着手シタシト云フニ在リ

又過日御話ノ津石鐵道問題ニ關シテハ過日李思浩氏ヨリ

中央政府ノ諒解ヲ求メタリトノ噂アルガ何等御聞込ナキヤト尋ネタル處周氏ハ之ハ極秘ナリト前提シ

李思浩氏過日南京ニテ中央ノ承認ヲ求ムル積リニテ相談セシ處現在北支ニテ擬定セラレ居ル協定ハ到底承認出來スト明確ニ一蹴セラレタル由、其理由ハ第一目下協定サ

レ居ル建設借款ハ二千五百萬元ニテ餘り多過キル、中央政府ノ見ル所デハ千八百萬元モアレハ充分ナリ、第二此

二千五百萬元ノ全部ヲ日本ヨリ借款スルコトハ日本側ノ常ニ提唱セラルル經濟合作ニ非スシテ、日本單獨ノ出資ナリ隨而中國トシテハ直ニ其政治的背景ヲ想像シ危惧ノ念ヲ禁スル能ハサル次第ナリ、英獨佛等トノ鐵道契約ノ如ク建築材料及器械等ヲ借款トシテ外國ヨリ供給シ、建設費ノ方ハ全部中國ノ資本ヲ用フルコトトシ所謂眞ノ合辦的形式トスレハ中央政府ハ之ヲ承認スルナラント思フ、中國ハ常ニ日本ノ政治的侵略ヲ恐レ居ル處へ無理ニ之ヲ裏書スル様ナコトヲスルノハ甚々面白カラスト思フ云々大体右ノ如キ會談ニテ相別レ申候尙周氏ノ希望スル報告書寫ハ先般作製セラレタル懇談會ノ記錄ヲ渡シテハ如何カト

## （付記二）

佐藤大臣兒玉會見談 津石鐵道ニ關スル件

（昭一二、五、一一）

五月十一日兒玉謙次氏來訪シ最近受取レル船津ヨリノ手紙ニ依レハ周作民ガ大變心配シテ云ヘルコトナルガ津石鐵道ノ敷設問題ニ付我天津駐屯軍ト宋哲元トノ間ニ話ガ急ニ纏ラントシ居レルトカ或ハ調印セルトカノ風評旺ナリ然ルニ折角日支關係力好轉セントスル際本問題ガ南京ノ頭アタマヲ越ヘテ地方限リニ於テ決定スルカ如キコトアリテハ又々日本ニ對スル反感強マリ來リ如何トモ收拾シ難クナルベシ是非トモ南京側ノ納得シ得ル方法ニテ進メタント申シ居タルガ其ノ真相如何ヲ尋ね來レリ就テハ右眞相如何ナルヤト云ヒタルヲ以テ大臣ハ駐屯軍ト宋トノ間ニ契約カ出來タリトハ聞キ居ラザルノミナラス本問題ハ冀察トノ間ニソウ簡單ニハ

行カサルモノト見受ケラレ何等カノ方法ニテ南京側ノ承認ヲ得ルニ非レハ確固タル權利ノ設定ヲ見ルコト困難ト思考スル旨ヲ答へ置ケリ

尙ホ船津氏來信トシテ兒玉氏ノ語ル處ニ依レハ周作民ノ話トシテ南京側ニテハ二千五百萬元ノ借款ヲ日本ニ起スハ余リ多額ニ過ギ千八百萬元位ノ鐵道材料ヲ日本ヨリ買フ事ニスルニ止ムレバ或ハ本件鐵道敷設ニ異議ヲ唱エザルベク但シ右ノ外約一千萬元ノ運轉資金ヲ要ストノ事ナリ(運轉資金ハ何處ヨリ融通スベキ考エナリヤハ兒玉氏ニ聞洩ラシタリ)

803 昭和12年4月30日 在上海吉岡總領事代理より  
佐藤外務大臣宛(電報)

津石鐵道敷設および龍烟鐵鉱開発に関する蔣介石および張公權の意向に関する李思浩の伝言について

上海 4月30日後発  
本省 5月1日後着

第一九二號

(1)日本カ嘗テ滄石ニ對シ多大ノ關心ヲ示シ乍ラ勝手ニ且

鐵道部ノ計畫ニ反シ津石ニ變更スルコトハ南京ノ面子丸潰レナリ依テ大使館ヨリ何等話合アルヘキ筈ナリ

(2)冀察ニ於テモ陳覺生ノ如キ者ヲ避け民衆ノ納得スル人物ヲ用ヒ本件計畫ヲ進ムルコト必要ナルヘク夫レ迄ハ相談ニ乗ルヲ得ストノ意嚮ニテ遂ニ內容ニ入り討議スルニ至ラシテ會見ヲ終レリ

一、龍烟ニ付テハ蔣モ格別ノ意見ナク又吳鼎昌モ合辦案ニ反

往電第一六四號ニ關シ

李思浩ハ二十七日南京ニ赴キ二十九日北上シタルカ李ニ南京迄隨伴セル盛沛東カ三十日歸滬ノ上李ノ傳言トシテ田尻ニ對スル内話左ノ通り

一、津石案ニ付テハ李ヨリ蔣介石ニ對シ詳細説明シタルニ對シ蔣ハ之ニ依リ經濟提携實現スルハ結構ニシテ又津石ナ

ルカ故ニ日本ヨリノ軍事的脅威加ハル譯ニアラサルモ目下ノ空氣ヨリ見テ果シテ時機ヲ得タリヤ疑ハシク其ノ結果對日反感ヲ刺戟スルコトナキヤヲ虞ル又本案ハ滄石トノ關係モアルニ付張公權ト打合アリ度キ意嚮ヲ洩ラシタルカ更ニ張ハ

要アルヘキ旨注意ヲ與ヘタリ

尙盛ノ意見トシテ日本カ津石建設ヲ強行セラル場合ニハ尙更陳覺生ヲ關係セシメサルコト日本ノ爲ナルヘキ旨附言セルカ陳カ當方面殊ニ鐵道部内ニ於テ徹底的ニ不許判ナルコトハ御承知ノ通リナリ  
支、北平、天津へ轉電セリ

804 昭和12年5月1日 在中國日高臨時代理大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

津石鐵道敷設には蔣介石も張公權も絶対反対の意向であるとの満鉄側情報について

南京 5月1日後発  
本省 5月1日夜着

第二九六號

上海發賣大臣宛電報第一六四號ニ關シ  
當地滿鐵出張所側ニテ得タル情報ニ依レハ李思浩ハ二十七日蔣介石ニ又二十八日張公權ニ會見シタル處兩者共津石鐵道ノ建設ニ對シテハ軍事的見地ヨリ反対ナルコトヲ表明シ

805 昭和12年5月4日 在上海吉岡總領事代理より  
佐藤外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫証券償還に関する中國側提案を

## めぐる田尻・陸夢熊会談の内容報告

上海 5月4日後発

本省 5月4日夜着

支發費大臣宛電報第二六六號ニ關シ

第二〇四號

陸夢熊ハ本四日米國向ケ出發セシ王正廷ヲ見送リタル序ナ

リトテ田尻ヲ來訪冒頭往電ニ關シ速ニ日本側ノ對案提出方

ヲ希望シタルニ付田尻ヨリ支那側提案ハ其ノ節我方ヨリ述

ヘタル通り甚タ不満ナルヲ以テ寧口先ツ貴方ニテ之ヲ考へ

直サルルコト肝要ナルヘシ貴方ニ於テハ國民ニ對スル手前

一千萬圓償還案ヲ立テタリトノコトナルカ現在ノ案ニテハ

日本ノ國民的感情モ激發セラル譯合ナルヲ以テ膠濟本線

ヨリ日本ノ緣ヲ切リ度シト誤解セラルカ如キ案ヲ改ムル

ト共ニ延長線ニ付テモ右ハ支那内部ノ問題ナリ等水臭キ言

分ヲ止メ鐵道部ニハ延長線全般ノ計畫アル筈ナレバ

右計畫ノ全貌就中資金及材料關係等ヲアツサリト日本側ニ

内示セラルルコト問題解決ヲ促進スル所以ナルヘク現在ノ

如ク聊城以西ニ付ヒタ押シニ隱立シ日本トノ關係ヲ如何ニ

スル腹案ナリヤ不明ノ儘ニテハ日本モ對案ノ立テ様モナキ

次第ナリ部長カ在任中本件ヲ片付ケ度シトノ希望ハ結構ナ  
ルカ眞ニ熱意アラハ區々タル面子トカ國民ノ感情トカラ超  
越シテ本線及延長線ヲ一丸トセル具體案ヲ練直サルルコト  
然ルヘシ右ハ個人ノ意見ナルモ舊知ノ間柄ニ付率直ニ注意  
ヲ喚起スル次第ナル旨應酬シ置キタリ

支、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

~~~~~

806 昭和12年5月5日 在中国加藤大使館一等書記官より

佐藤外務大臣宛(電報)

李思浩が津石鐵道問題に関する蔣介石および

張公權との会談内容を説明し冀東政権解消を

条件に敷設断行の決意表明について

北平 5月5日後発

本省 5月5日夜着

第三二六號(極祕)

(1) 上海發閣下宛電報第一九一號及大使發閣下宛電報第一九六

號ニ關シ

四日李思浩ハ往訪ノ館員ニ對シ極祕トシテ左ノ通り内話セ

ル趣ナリ

一、鐵道部ノ冀察政務委員會ニ對スル津石鐵道敷設反對ノ電報ハ四月下旬即チ自分ノ南下中三回アリ第一電ハ單ニ新聞報道ニ依レハ斯ル計畫アル趣ナルカ事實ナリヤトノ質問ノ意味ノモノニテ冀察側ヨリ新報道ノ如キヲ信スル勿レト返電セル處鐵道部ニテハ折返シ既ニ冀察側ニテ之ヲ否認セラル以上斯ル事實ナキコトト思ハルモ日本側ヨリ何等本件ニ關シ提議アル場合ハ拒絕セラル様致度シト再電シ來レルニ付

冀察側ニテハ開キ直リ本件ハ既ニ過去半年ニ亘リ日本側トノ間ニ折衝中ノモノニテ今更計畫變更ハ不可能ナリト應酬スル所アリ之ニ對シ鐵道部ハ津石案ノ不可能ナル各種理由ヲ擧ケ冀察側ノ不信ヲ責メ外資ヲ仰ク迄モナク鐵道部ニ資金ノ用意アルニ付既定ノ滄石案ニ基キ進行ヲ圖ルヘントノ趣旨ノ長文ノ詰問的電報ヲ寄セ來レルモノニテ宋哲元ハ二十九日之ヲ接受スルヤ激怒甚シク直ニ反駁電ヲ發セントシタルカ秦德純等ニ於テ自分ノ歸平ヲ俟チ適宜處理セシムルコト然ルヘシトテ宋ヲ宥メ一應其ノ儘ト爲シタル由ナリ

二、他方自分ハ二十七日上海ニ於テ蔣介石ニ會見シ本問題ニ

ナリ

三、右様ノ次第ニ付自分トシテハ中央ト冀察側及冀察側ト日本側ノ間ニ何トカ調整ノ途ヲ講シ度シト考ヘ近ク天津ニ至リ日本側ヲ往訪ノ心組ナリ而シテ宋哲元ニ於テハ從來ノ經緯上津石案ヲ中止スルノ意思ナク鐵道部邊ノ反対ヲ重視セサルモ國民ノ反対ハ相當氣ニシ居ル實狀ニテ茲ニ

宋カ冀東取消問題ニ付焦慮シ居ル理由存シ右問題ニ付何等日本側ノ「コンミットメント」ヲ得其ノ立場ヲ作ルニ於テハ鐵道部ハ愚カ蔣介石ノ反対アリトモ津石案ヲ決然斷行スルハ疑ナキ所ナリ

四、龍煙鐵礦問題ニ關シテハ冀察側カ借款ノ形式ヲ希望シ居ルニ對シ蔣介石ハ舊株主ノ權利ヲ尊重セハ日支合辦(鐵)業條例ニ抵觸セサル範圍即チ持株日本側四十九、支那側五十一ノ限度)亦可ナリトノ妥協的意見ニシテ又本問題ハ津石鐵道問題トハ性質自ラ異ルヲ以テ實現ニ付左シテ困難アリトハ思ハレス云々

支、天津、上海へ轉電セリ

807 昭和12年5月6日 在中國日高臨時代理大使より
佐藤外務大臣宛(電報)

化スヘキニ付暫ク時機ヲ待タル様願度シト述ヘタルニ付本官ハ日本トシテハ北支ノ特殊ナル事態ニ鑑ミ現實ニ即シタル經濟提携具體化ノ希望ハ相當熱烈ナルモノアリ此ノ點ハ充分認識セサルヘカラスト告ケ夫レ以上深入スルコトヲ避ケ置キタリ

上海、北平、天津、濟南、青島へ轉電セリ

808 昭和12年5月7日 在天津堀内總領事より
佐藤外務大臣宛(電報)

津石鐵道問題は國民政府中央の態度に拘泥せず冀察政務委員会が予定どおり敷設を実現するよう李思浩説得について

天津 5月7日後発
本省 5月7日夜着

第二四六號

⁽¹⁾ 上海發賣大臣宛電報第一九二號及北平發賣大臣宛電報第二六號ニ關シ

五日他用ヲ兼ね來津ノ李思浩本官ヲ來訪南京方面ノ空氣ニ付左ノ通り内話セリ

膠濟鐵道國庫証券償還問題に関するわが方対
案の提示を張公権ら督促について

南京 5月6日前發
本省 5月6日前着

第二九九號

上海發賣大臣宛電報第二〇四號ニ關シ

五日張水淇ハ部長ノ命ニ依ル趣ニテ清水ヲ來訪シ同様督促ヲ爲シタル趣ナルカ同日本官挨拶ノ爲張公權ニ面會ノ際張ヨリモ同様希望ヲ申出テタルニ付本官ヨリ東京方面ニ於テハ本件ハ山東省全般ニ關係アル問題ニシテ歴史的ニ見ルモ我方ノ關心ハ極メテ重大ナルモノアルニ依リ且下眞劍ニ研究シ居ル模様ニテ詳細ハ知悉セサルモ日本側トシテ種々ノ希望モ出テ來ルヘシト然ルヘク應酬シタル後本件非公式協議ヲ進ムル上ニ於テモ我方トシテハ支那鐵道建設ノ全般的計畫及最近成立セル外國トノ借款又ハ「クレヂット」ノ契約ノ實例等モ參考ニ供スル必要アリ斯ル参考資料ノ供給ニ付テハ當方ヨリノ申出ニ依リ充分好意的ニ取計ハレ度シト申入レ置キタリ尙張ハ輕ク津石鐵道敷設問題ニ觸レ此ノ際日本側ニテ之ヲ強行スルカ如キコトアリテハ再ヒ事態ヲ惡

一、蔣介石ハ健康勝レス上海ニテ漸ク三十分間位話シタルカ蔣ヨリ津石及龍煙ニ關スル意見(冒頭電ト同趣旨ニテ其ノ內軍事上ノ反對ニ付テハ軍政部、參謀本部及山西省側等ニテ喧シク騒キ居ルカ蔣自身トシテハ日本ノ軍事行動ノ脅威ハ津石ノ有無ニ拘ラサルヲ充分知リ居レリト漏ラシ居タル趣ニテ又龍煙ニ付テハ異存ナキモ唯舊株主ノ利益ヲ保護スル爲鐵道部及交通部ト聯絡ヲ取ル様注意シ居タル趣ナリ)ヲ述ヘタルニ對シ李ヨリ往電第一九五號末段ノ次第ノ如ク今回日本ノ對支態度緩和セラレツツアル機會ヲ捉ヘテ兩國關係ノ調整ヲ圖ルコト肝要ニシテ日本カ一寸讓レハ支那カ一寸進出スルト言フカ如キコトハ大イニ考ヘサルヘカラス此ノ意味ニテ北支ノ經濟合作ニ反對セサル様善處方ヲ希望シタルニ對シ

蔣ハ自分モ同感ニテ日本トノ關係ハ是非共調整スル必要アリ經濟合作ハ互惠平等ノ立場ニテ實現シ度キ意図ナルモ何分一般民衆ノ反対モアリ頗ル苦境ニ立チ居ル次第ナレハ李ニ於テモ此ノ反対ヲ高メサル様善處セラレ度シ述ヘタル趣ナルカ本官ヨリ蔣ニ於テ右ノ如キ考ナラハ政府部内ヲ自分ノ考通リニ指導セサルハ不可解ナリト質問

セルニ對シ李ハ政府部内ニハ幾多國民黨ノ老先輩モアリ
蔣ニ於テ積極的ニ抑ヘ難ク苦悶シ居ルモノト思ハルト答
ヘ居タリ

二、南京ニテハ僅カ一日滯在シ汪精衛、王寵惠、張公權、魏道明等ニ面會シ張群ニハ上海ニテ會談シタルカ是等要人ヨリ得タル感想ハ南京ノ華北ニ對スル空氣ハ芳シカラス一般ニ冀察ト日本トノ外交ハ南京ニ移シタントノ意見ヲ抱キ居ルカ如ク鐵道部ニテハ經濟合作モ外交ノ一部ナレハ之ニ付テモ南京ニ於テ話合フヘシトノ意嚮ナリト思ハレ(張公權ノ意見ハ冒頭電ト同様)タルカ唯汪精衛ハ蔣介石ハ如何ナル意見ナリヤト尋ネタルニ付前記蔣ノ意嚮(李トノ回答ノ部分ニハ觸レサルモノト思ハル)ヲ話シタル處既ニ蔣ノ意思表示アリタル以上汪トシテハ何等意見ヲ表示シ難シトテ本問題ニ談及セサル趣ナリ

三、依テ本官ヨリ往電第一九二號ノ次第ヲ強調シ南京側要人ハ從來津石ニハ異存ナキ旨ノ内意ヲ洩ラン居タルニ拘ラス最近急ニ津石ニ反對ノ氣勢ヲ揚ケ居ルハ日本最近ノ態度ヲ誤認セル政策上ノ反對ト思ハレ日本全國ハ最大ノ關心ヲ以テ此ノ際冀察側ノ出方ヲ注視シ居ル次第ナレハ此

ノ際冀察側トシテハ南京ノ態度如何ニ拘ラス豫定通り合作ヲ進ムルコト大局保全上絕對必要ナル旨ヲ述ヘタルニ對シ李ハ右ノ點ハ既ニ宋委員長ニモ話シ宋モ決心シ居ルモノト信セラレ(李ノ歸平前張公權ヨリ宋哲元ニ對シ鐵道部ニテハ滄石鐵道敷設ニ決定セル故津石ハ許可シ難キ旨電報アリ宋ハ大イニ立腹セル旨附言シ居タリ)タル旨ヲ述ヘ同時ニ特ニ本問題カ南京ニ於テ解決セラルルカ如キコトアラハ冀察ノ面目丸潰トナレハ斯ノ如キコトナキ様希望スト述ヘ本官ヨリ然ルヘク應酬シ置ケリ支、上海、北平、青島、濟南、滿ヘ轉電セリ

809 昭和12年5月15日 在中国加藤大使館一等書記官より
佐藤外務大臣宛(電報)

津石鐵道問題は中國世論の硬化に鑑み漸次実現を見合わせるべきなど秦德純内話について

北平 5月15日後發
本省 5月15日夜着

第一四五號

十四日秦德純ノ本官ニ對スル内話要領左ノ通り

一、華北ノ中日關係ハ日本側カ政治的調整ニ付關心ヲ示サス他方冀察側カ經濟提携ニ付前進セサル儘兩者立竦ミノ狀態ニアル處之ヲ此ノ儘放置スルコトハ謠言ヲ生シ共產黨其ノ他ニ乘スルノ機會ヲ與フル惧アリ何トカ現狀打開ノ方法ヲ講スルノ要アルヲ痛感セラル次第ナリ然ルニ最近津石鐵道ニ對スル一般國民就中青年階級、各大學教授、各鐵道側ノ反對特ニ猛烈ニシテ宋哲元カ右反對ヲ押切り斷行スルコトハ此ノ儘ニテハ如何ニモ無謀ト見ラルニ付之ハ自分個人ノ意見ナルカ此ノ際出來得ル限り冀察側ノ政治的要望及日本側ノ經濟的要望ヲ容ル様双方共努力スルカ若クハ夫レモ不可能トセハ兩國民ノ感情ヲ刺戟スル大問題即チ冀東、津石ノ如キ問題ハ暫ク之ニ觸レスシテ實行比較的容易ニシテ兩國民ノ利益トナル實際的ナル經濟提携例ヘハ龍烟鐵礦(尤モ其ノ方法ニ付キテハ攻究ヲ要スルモ)棉花緬羊ノ改良等ノ事業ニ着手シ漸次打開ノ方途ヲ講スルコトシテハ如何カト考ヘ居レリ

二、過般池田參謀歸國シ津石資金調達ニ關シ日本内地實業界方面トモ接觸奔走ノ結果充分ノ成果ヲ得テ歸任セル趣ニ

テ駐屯軍側ニテハ津石問題ノ進捗方要望シ居レル處冀察側トシテハ直ニ之ニ應スルコト困難ナレハ交渉停頓ノ状態ナリ尤モ駐屯軍側ニテモ冀察ノ立場ニ對シ相當ノ了解ヲ有シ居ルコトトテ相互ノ關係何等尖銳化ノ氣配ナシ三、宋ハ郷里ノ山東樂陵ヘ墓參ノ爲十一日天津發歸省セルカ其ノ後富方ヘ向フ二十日間請暇ノ旨電報越セルヲ以テ其ノ歸平八月末トナル見込ナリ宋ト韓復榘ノ會見ニ關シテハ離津迄其ノ豫定ナカリシモ或ハ郷里ニテ韓ノ來訪ニ接スルコトナルヤモ知レス

四、自分ハ四月末宋ヨリ冀察綏靖公署總參議ニ任せラレタルモ多忙等ノ事情ノ爲再三固辭セルカ今回宋ノ歸省ニ先立チ不在中ノ事務ヲ代行スル様嚴命サレ已ムヲ得ス十日頃ヨリ兼務シツツアリ但シ新聞其ノ他ヘノ公表ハ差止メ居レリ云々

支、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

昭和12年6月9日 在濟南有野總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

津石鐵道問題等のために宋哲元が国民政府中

央との関係において苦境に立っているとの韓

復築内話について

濟南 6月9日後発
本省 6月10日前着

第一一五號

八日韓復築カ本官ニ爲セル談話中御参考迄左ノ通り

一、宋哲元ハ二十四日間ノ休暇延期ヲ爲シ(往電第一〇七號)
依^(然)前樂陵ニ滯在中ナルカ自分(韓)ノ想像ニテハ宋ハ日本

側ト中央トノ間ニ處シ頗ル苦境ニ立チ現ニ津石鐵道ノ實

現其ノ他日本側トノ約ヲ履行スヘキ時機ニ達シ進退ニ窮

シタル爲一時逃避シ居ルモノナルヤニ察セラル

二、冀東及^(兼)冀北問題モ宋カ頭ヲ惱マシ居ル重要ナル問題ニシ

テ中央ノ指導力強化スルニ從ヒ宋ノ立場ハ益々困難ヲ加

ヘツツアリ自分ハ宋就任ノ直前何時カハ今日ノ如ク苦境

ニ立ツヘシトテ其ノ就任見合方ヲ回答シタルコトアルカ

今日ノ事態ハ略自分ノ豫測シタル時機ニ達セルモノト認

メラル

山東省モ中央ニ對シ相當困難ナル立場ニアルモ宋ニ比フ

レハ猶調節ノ餘裕アリト言フヘシ

811

昭和12年6月10日

在中国日高臨時代理大使より
広田外務大臣宛電報

膠濟鐵道國庫証券償還問題に関するわが方回

答を張公權督促について

南京 6月10日後発
本省 6月10日夜着

第四一〇號

十日本官張公權ト會見ノ際張ハ膠濟鐵道國庫證券元金ノ支拂ハ條約上六箇月ノ豫告ヲ以テスルコトニ規定セラレ居ル
處六月モ既ニ半トナリ後半箇月迄ハ話合モ成立セサルヘク
自然何等辦法ヲ設ケテ條約ノ規定ニ違反セサル形式ヲ整フ

北平 6月16日後発
本省 6月16日夜着

第二九九號

十五日秦德純來訪シ本官ノ離任ヲ惜ム旨ヲ繰返シタル後最近冀察側對日本側ノ交渉停頓ニ陥リ居レルハ頗ル遺憾ナル

カ冀察トシテハ飽迄日本トノ親善提携ニ終始スル決心ナル

モ南京側ノ壓迫撃討ハ益々加重ノ傾向ニアリ例へハ津石鐵

道反對ハ勿論惠通ノ航空問題ノ如キニ至ル迄新聞通信ヲ利

用シ誹謗スルノ舉ニ出テ宋哲元ノ立場頗ル苦シキモノトナ

レル旨ヲ縷述シ且此ノ窮境ニ處スル途ハ唯誠意ヲ以テ相互

相信シ共產黨、藍衣社系等ノ中傷離間ノ策動ニ乘セラル

コトナク徐ニ時機ノ到來ヲ待ツノ外ナルモ爲

ササルニ於テハ親善關係ノ退歩トモナリ面白カラス而モ經

濟提携以外ニハ先ツ關係持續ノ方法ナキヤニ認メラル處

左レハトテ津石鐵道問題及冀東問題ノ如キニ觸ルルモ詮ナ

キヲ以テ經濟提携問題中ノ餘り目立タスシテ實行比較的容

易ナルモノ例へハ龍烟鐵礦、棉花、羊毛ノ改良ノ如キ問題

ニ付此ノ際商議ヲ進ムルコト致シテハ如何ト思考スト述
ヘ次テ十一月十二日舉行ノ國民大會ハ憲法制定ヲ目的トス

外交問題の地方的処理を認めない外交部声明

書は津石鐵道問題等への布石とも見られる旨

意見具申

国民政府中央の圧迫策により宋哲元の立場困窮との秦德純内話について

付記 昭和十二年六月十四日発在南京大城戸駐在武官より梅津陸軍次官、今井參謀次長宛電報第

一七四号

三、先般當地ニ立寄リタル張自忠ハ日本視察ノ感想トシテ特ニ工業ノ進歩セルコト、國民ノ業務ニ對スル努力ノ驚ク

ヘキモノアルコト等賞讃シ居タルカ同時ニ日本財政ノ困難ナル點及日支關係調節ノ前途特ニ華北ニ於ケル兩國關係問題ノ措置ニ關シ悲觀的口吻ヲ洩ラシ居タリ

以上韓ノ立場モアリ取扱上御注意相成度シ
支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

~~~~~

以上韓ノ立場モアリ取扱上御注意相成度シ

支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

以上韓ノ立場モアリ取扱上御注意相成度シ

以上韓ノ立場モアリ取扱上御注意相成度シ

以上韓ノ立場モアリ取扱上御注意相成度シ

ル頗ル重要性アルモノニ付宋哲元ニ於テモ冀察兩省民ヲシテ代表ヲ選出シ之カ權利ノ行使ニ參加セシムルコトニ方針ヲ一決セルカ右ハ冀察カ中國ノ一部タル關係上當然ノ事ニ付御了解ヲ願度シト申出テタリ(右會見後秦ハ松井特務機關長ヲ訪問シ國民大會代表選出ノ件ニ關シ同様ノ申入ヲ爲シタル模様ナリ)尙其ノ際秦ノ談ニ依レハ宋ハ今猶樂陵ニアルモ茲一週間内ニハ多分歸平スヘントノコトナリ

支、在支各總領事、滿、張家口へ轉電セリ

#### (付記)

南 京 6月14日後8時0分発  
參謀本部 6月14日後10時18分着

南 京 6月14日後8時0分発  
參謀本部 6月14日後10時18分着

#### 第一七四號

外務電ニ依リ既ニ御承知ト存スルモ外交部ヨリ大使館宛「外交問題ハ兩當事國中央政府ニ於テ辦理スヘキモノナル原則ヲ掲ケ右原則ニ據ラス若クハ中央政府ノ承認セサルモノ例ヘハ日支兩國間ノ空中交通辦法ノ如キハ右原則ニ違反シ且支那ノ主權ヲ侵犯セルモノナレハ當然有效ト認ムルヲ得ス」トノ聲明書ヲ寄越セリ大使館トシテハ差當リ處置セ

ス握漬ス意向ナルカ右聲明書ハ惠通公司ヲ私生兒トシテ取扱ハントスル從來ノ態度ヲ公表スルト共ニ津石鐵道其他ノ問題ニ對シテモ豫メ釘ヲ打タントスル下心ナルヘク結局之等ヲ解決スルモノハ實力ニシテ今ノ空氣ニテハ口先ノ解決ハ至難ト認ム

關、北、天、上、スミ

813 昭和12年6月18日 在中國日高臨時代理大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

津石鐵道敷設には反対だが滄石鐵道敷設ならば材料供給借款の形式で応じる用意がある旨  
吳鼎昌内話について

南 京 6月18日後発  
本 省 6月18日夜着

#### 第四二一八號

北支經濟提携問題ニ關シ吳鼎昌ハ十七日他用ヲ以テ來寧セル船津ニ對シ左ノ通り語レル趣ナルカ右ハ大體國民政府ノ意嚮ヲ代表シ居ルモノト認メラルニ付御參考迄

一、津石鐵道ノ敷設ハ國民政府トシテ反對ナルカ若シ日本側

「膠濟鐵道國庫證券償還ニ關スル支那側申入  
ニ對スル措置」

南 京 6月22日後発  
本 省 6月22日夜着

#### 第四四〇號

往電第四一〇號ニ關シ

十七日張水淇張公權ノ命ニ依ル趣ヲ以テ本官ヲ來訪シ本件ニ關シ何等公文交換ノ必要アルヘシト申出テタルニ付右條約ノ規定ハ國庫證券償還期限前ニ元金ノ一部又ハ全部ヲ返還セントスル場合ニ適用スルモノナルカ同償還期限ハ既ニ今年末ニ迫リ居リ夫レ迄ニハ當然日支双方ノ間ニ於テ何等協議ヲ爲スヘキ次第ナルヲ以テ更改メテ公文等ヲ交換スル必要ナキ旨充分申含メ張部長ヘ傳ヘシメ置キタルカ本二十二日突然外交部ヨリ別電第四四一號(一ノ如キ二十一日附王部長發本官宛公文及(一ノ如キ同日附覺書ヲ送付越セリ依テ早速清水ヲシテ張競立ニ對シ本件公文送付越ノ内情ヲ質サシメタル處張ハ右公文ハ外交部ニ於テ立案シ鐵道部ニ提示アリタルニ付(一照會文ニ全額償還ノ準備アリ云々ト記ス位ナレハ改メテ斯ル公文ヲ出ス必要ナク強テ出ストスル

二於テ話ヲ再ヒ滄石線ニ戻シ南京ニ於テ相談スル態度ニ出ツルニ於テハ素ヨリ日本トノ合作ニ依リ同鐵道ノ敷設ヲ拒ムモノニアラス而シテ右合作ノ形式ハ最近各鐵道ニ對スル英、佛、獨各國ノ材料借款ノ例ニ倣フコトト致度シク萬一日本側ニテ飽迄合辦經營ヲ希望スル場合ニハ之ニ對シテモ考慮ヲ加フル餘地ナキニシモアラサルヘシ

二、龍烟鐵礦ノ開發ハ津石鐵道ト異リ問題ハ比較的簡單ナルカ之亦國民政府トノ話合ニ依リ實行スルコトト致度シ北平、上海、天津へ轉電セリ

~~~~~

814 昭和12年6月22日 在中國日高臨時代理大使より
廣田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫證券償還に関する覚書を外交部提出について

別電 昭和十二年六月二十二日発在中国日高臨時代理大使より廣田外務大臣宛第四四一号

付記 昭和十三年三月十四日付、在上海日高總領事作成

モ同公文ノ文面ハ從來鐵道部ヨリ非公式ニ申出テ居ルコト
ト喰違アルニ付面白カラサル旨ヲ注意シタルモ聽入レス殊

ニ(二)覺書ハ第一點ニ於テ新借款借換ノ形式ヲ持出シ從來ノ
話ト全然異ルヲ以テ斯ル覺書ヲ出スコトハ不贊成ナル旨ヲ

告ケ争ヒタルモ甲斐ナクスル次第トナリタル譯ナルカ鐵道
部ノ案タル一千萬圓ノ償還(但シ鐵道購入ノ「クレヂット」)
ニ充ツ)及三千萬圓ノ償還延期(借換ニアラス)ノ根本方針

ハ曩ニ行政院會議ヲ通過シ蔣介石モ了解ヲ與ヘ右ハ書物ト
シテ外交部ニモ交付シアルニ拘ラズ外交部カ從來ノ經緯ヲ

無視シ勝手ナル文句ヲ作レル態度ハ解シ難シトテ張部長モ
憤慨シ居ル次第ナルニ我日本側ニ於テモ右公文ニ對シテハ

單ニ本件ハ既ニ鐵道部ト非公式ニ會談ヲ進メツアル旨回
答スルニ止メ從來ニ引續キ鐵道部ト話合セラレ度シト述ヘ
タル趣ナリ

就テハ本官二十三日高宗武ト會見シ篤ト外交部側ノ眞意ヲ
質シ殊ニ前記ノ如キ事實ト異レル覺書ヲ作成シテ提出セル
不誠意ヲ責メタル上先方ノ出様如何ニ依リテハ一應右公文
並ニ覺書ヲ撤回スルカ或ハ之カ字句ヲ訂正スル等ノ措置ヲ
執ル様申入ルル心算ナルモ右不取敢

(別電)

南京 6月22日後発
本省 6月22日夜着

第四四一號

(一)膠濟鐵路國庫證券ハ山東懸案解決ニ關スル條約及日支山
東懸案鐵道細目協定ノ規程ニ依リ十五年ノ期限トナリ居
ル處民國十二年一月一日ヨリ起算シテ本年末滿期トナル

ヘキニ付中國政府ニ於テハ右國庫券ニ對シ償還ヲ準備致
候條右ニ御了承相成度シ

(二)膠濟鐵路國庫券償還ノ件ニ關シテハ既ニ本月二十一日照
會ニ及ヒ置キタル處中國政府ノ本件ニ對スル辦法四項左
ノ如シ

一、期限到来ト共ニ金一千萬圓ヲ支拂ヒ其ノ餘ノ金三千萬
圓ハ新借款ニ改メ公債國庫券金四千萬圓ハ全部償還ト
スルコト

二、新借款金三千萬圓ハ十年間ニ分割償還シ利率ヲ減シテ
年四分トスルコト尙右元金ノ全部又ハ一部ハ何時ニテ

モ六箇月前ノ豫告ヲ以テ之カ償還ヲ爲シ得ルコト

三、右新借款ニ對シテハ膠濟鐵路收入ノ中ヨリ還本付息表

ニ依リ一箇年分ノ元利償還準備金ヲ積立テテ元利ノ支
拂ノ擔保トシ且毎月各期ノ元利償還基金ヲ積立ツルコ
ト

四、前項積立金以外ノ同鐵路收入ハ中國政府ニ於テ自由ニ
之ヲ處分スル權利ヲ有スルコト

右辦法ノ概略ニ付テハ中國鐵道部ヨリ派遣セル司長張競
立、膠濟鐵路理事會理事陸夢熊等ト日本大使館ノ派遣セ
ル會祿書記官、清水通譯官等ノ間ニ於テ本年四月十三日
協議ヲ爲シ日本側會祿書記官ニ於テ歸朝ノ上日本政府ノ
訓令ヲ仰クコトナリ居ル次第ナルニ付右御了承ノ上何
分ノ回答ヲ得度シ

(付記)

膠濟鐵道國庫證券償還ニ關スル支那側申入ニ

對スル措置

昭和十二年六月廿一日附外交部公文及覺書ニ關シテハ日高
參事官ヨリ高宗武(六月廿三日)張水淇(六月廿四日)徐謨

(二)覺書ニ到リテハ從來當方ト鐵道部トノ話合ノ經緯ヲ無視
シ勝手ナル新提案ヲナシタルモノナルノミナラズ右新提
案ヲ以テ四月十三日會根^(繩)、清水ト張、陸トノ間ニ協議セ
指摘スヘシ

リト云フハ全ク事實ニ合セズ依テ本覺書ハ之ヲ取下グヘ

キモノナリ

トノ趣旨ヲ力説シ張競立及陸夢熊ニ對シテモ全趣旨ヲ説キ

タルニ對シ先方ハ

(一)公文ハ債務者トシテノ支那側ノ心持ヲ表ハシタルモノナ

リ

(二)覺書提示ノ辦法ハ從來鐵道部トノ話合ヲ否認シ又ハ之ニ

代ルモノニモアラス日本側ニ於テ其ノ何レヲ執ラルムモ

差支ナク又從來通り鐵道部ヲ相手トシテ話ヲ續ケラルル

モ差支ナシ

(三)右覺書提示ノ辦法ノ概略。(原文ニハ大概トアリ)ハ双方係

官ニ於テ協議セリト云ヘルモノニシテ必シモ全然全一物

ト云フ意ニハアラス

等陳辯ニ努メタルガ先方内部ノ事情ハ當時電報報告ノ通り

(六月二十二日南京發大臣宛第四〇號昭和十二年末期限

到來ヲ前ニシ辻妻ヲ合セントスル外交部(主トシテ王部長

ト徐次長)側ノ案ニシテ鐵道部側ハ張水淇ガ連絡係トシテ

之ニ全意セルモノト認メラレタルニ依リ先方ニ對シテハ依

然我方主張ヲ堅持スルト共ニ最后ニ張公權ニ面會シ充分說

破シタル上

(イ)本件公文ニ付テハ國庫券一部償還殘部ノ償還延期方ニ關

シテハ從來鐵道部トノ間ニ非公式ニ協議中ナリ

(ロ)覺書記載ノ辦法ハ從來當方ト協議セル事實ト反ス

トノ趣旨ノ書面ヲ發送スルコトトスヘク考ヘ居ル中蘆溝橋

事件發生シ張部長ハ蘆山^{ラッサン}ヲ去リ八月始歸寧セルヲ以テ張水

淇ヲ通シ再々張ニ面會方申入レタルモ張ハ辭ヲ左右ニシテ

逃ヲ張リ其ノ中ニ上海事件勃發シ遂ニ面會ノ機ナクシテ本

官等南京ヲ去リ支那側ニ對シ何等文書ヲ發送シ居ラス

(昭和十三年三月十四日 日高記)

815 昭和12年7月6日 在中國日高臨時代理大使より
廣田外務大臣宛(電報)

鐵道部などの出資による聊濟鐵路公司の設立

につき陸夢熊内話について

南京 7月6日後発

本省 7月6日夜着

第四八一號

陸夢熊カ六日清水ニ語ル所ニ依レハ聊濟鐵路公司ハ鐵道部

及省政府側ノ出資(資本六百萬元ノ中鐵道部及省政府各二百萬元宛其ノ餘ハ民間ヨリ募集)並ニ理事ノ額觸決定(鐵道部側ヨリ葛光廷、張競立、陸夢熊及宋若愚ノ四名其ノ他省政府側ヨリ三名、民間ヨリ二名)シタルニ付本月十日濟南ニ於テ創立會ヲ開クコトトナリ理事ハ何レモ同日迄ニ濟南

ニ集會スル筈ナルカ同公司ハ之ヲ濟南ニ置キ辦事處ヲ青島ニ設ケ八月一日ヨリ曩ニ省當局ニ於テ軍民ヲ徵發シ實施セル同鐵道線路土盛工事ヲ基礎トシテ正式起工スル趣ナリ上海、天津、濟南、青島へ轉電セリ

天津ヨリ北平へ轉報アリタシ